

第3章 準対象事業実施区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

(1) 気象の状況

準対象事業実施区域は伊賀市の南部の丘陵地に位置している。

伊賀市の気候は夏の蒸し暑さと冬の底冷え、朝夕と日中の気温の差など、寒暖の差が激しい典型的な内陸型気候となっている。また、県内では比較的降水量が少ない地域である。

準対象事業実施区域に最も近い気象観測所は、北北西約 14km に位置する上野特別地域気象観測所であり、その位置は表 3.1.1-1 及び図 3.1.1-1 に示すとおりである。

上野特別地域気象観測所における 1991 年～2020 年の地上気象観測結果（平年値）は表 3.1.1-2 に示すとおりであり、年平均気温は 14.6℃、年間の降水量は 1,440.9mm、年平均風速は 2.5m/s、年間の最多風向は西、年間の日照時間は 1,806.9 時間であった。

表 3.1.1-1 準対象事業実施区域の最寄りの特別地域気象観測所

| 名称 | 所在地 | 緯度 | 経度 | 標高 | 風速計の高さ |
|-------------|----------|----------------|----------------|------|--------|
| 上野特別地域気象観測所 | 伊賀市緑ヶ丘本町 | 北緯 34 度 45.7 分 | 東経 136 度 8.5 分 | 159m | 22.1m |

出典：「地域気象観測所一覧」（気象庁 HP https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/amedas/ame_master.pdf）令和 5 年 8 月 23 日閲覧



凡例

 準対象事業実施区域(変更前)

 準対象事業実施区域(変更後)

● 特別地域気象観測所

出典：「地域気象観測所一覧」

(気象庁HP

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/amedas/ame_master.pdf)

令和4年5月12日閲覧



0 4 km



1:100,000

図 3.1.1-1 特別地域気象観測所の位置

表 3.1.1-2 上野特別地域気象観測所における地上気象観測結果（1991年～2020年の平年値）

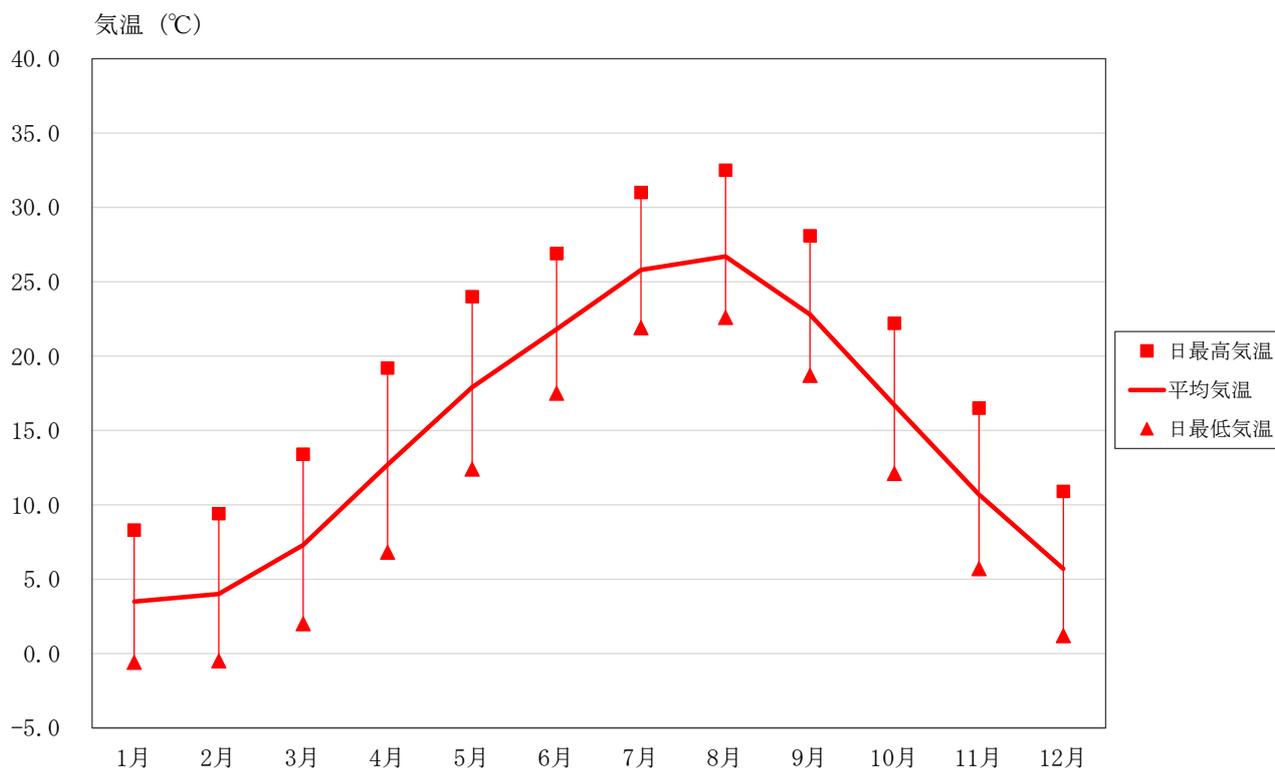
| 要素 | 年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均気温 (°C) | 14.6 | 3.5 | 4.0 | 7.3 | 12.7 | 17.9 | 21.8 | 25.8 | 26.7 | 22.8 | 16.7 | 10.7 | 5.7 |
| 日最高気温 (°C) | 20.2 | 8.3 | 9.4 | 13.4 | 19.2 | 24.0 | 26.9 | 31.0 | 32.5 | 28.1 | 22.2 | 16.5 | 10.9 |
| 日最低気温 (°C) | 10.0 | -0.6 | -0.5 | 2.0 | 6.8 | 12.4 | 17.5 | 21.9 | 22.6 | 18.7 | 12.1 | 5.7 | 1.2 |
| 降水量(合計) (mm) | 1,440.9 | 50.9 | 60.0 | 104.2 | 104.2 | 139.7 | 194.3 | 194.3 | 136.4 | 187.3 | 146.7 | 72.1 | 50.8 |
| 最多風向 | 西 | 西 | 西 | 西 | 北北東 | 西 | 西 |
| 平均風速 (m/s) | 2.5 | 3.0 | 2.9 | 2.8 | 2.7 | 2.5 | 2.3 | 2.2 | 2.3 | 2.3 | 2.2 | 2.1 | 2.7 |
| 日照時間(合計) (時間) | 1,806.9 | 125.0 | 121.0 | 154.7 | 174.8 | 183.4 | 132.8 | 155.3 | 191.7 | 142.0 | 143.4 | 136.1 | 135.0 |

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>）

令和5年8月23日閲覧

(a) 気温

上野特別地域気象観測所における30年間（1991年～2020年）の月別平均気温は、表3.1.1-2及び図3.1.1-2に示すとおりである。7月及び8月には日最高気温が30°Cを超えており、1月及び2月には日最低気温が氷点下であった。



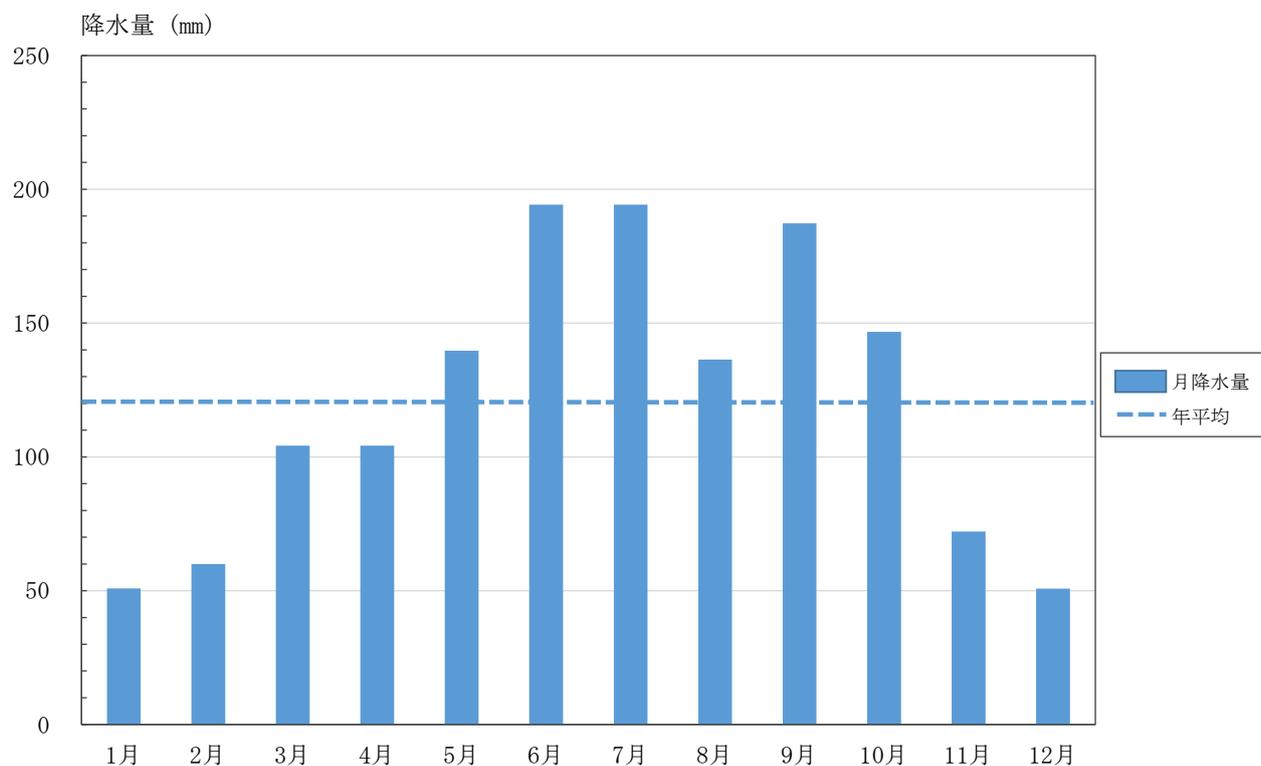
出典：「過去の気象データ検索」（気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>） 令和5年8月23日閲覧

図 3.1.1-2 月別平均気温（アメダス上野：1991年～2020年）

(b) 降水量

上野特別地域気象観測所における30年間（1991年～2020年）の月別降水量は、表3.1.1-2及び図3.1.1-3に示すとおりである。

6月～7月及び9月は月降水量が180mmを超えており、1月、2月、11月、及び12月は月降水量が100mmを下回っていた。



出典：「過去の気象データ検索」（気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>）令和5年8月23日閲覧

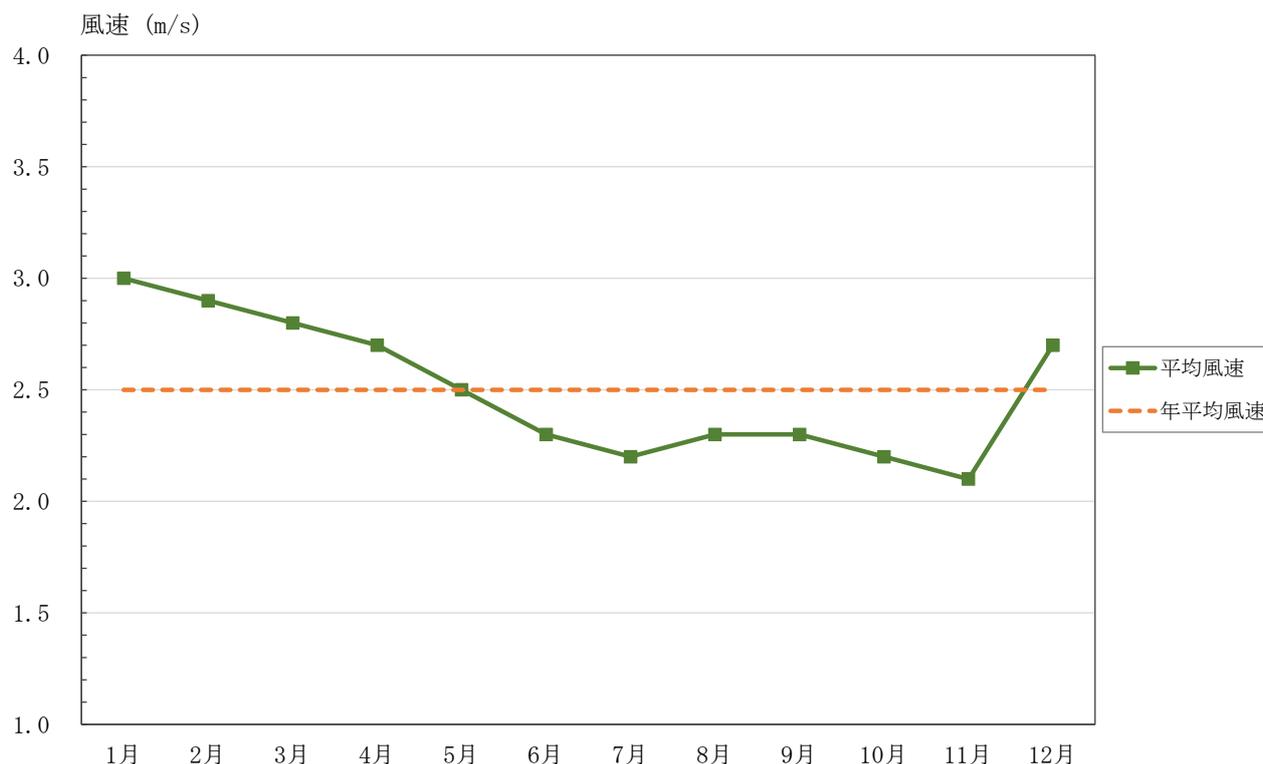
図 3.1.1-3 月別降水量（アメダス上野：1991年～2020年）

(c) 風向及び風速

上野特別地域気象観測所における30年間（1991年～2020年）の月別平均風速及び月別最多風向は、表 3.1.1-2 及び図 3.1.1-4 に示すとおりである。また、令和6年4月～令和7年3月の最多風向別出現頻度は、図 3.1.1-5 に示すとおりである。

卓越風向は、4月から6月が北北東、7月から9月が東南東、10月から3月までが西で、年間の最多風向は西であった。

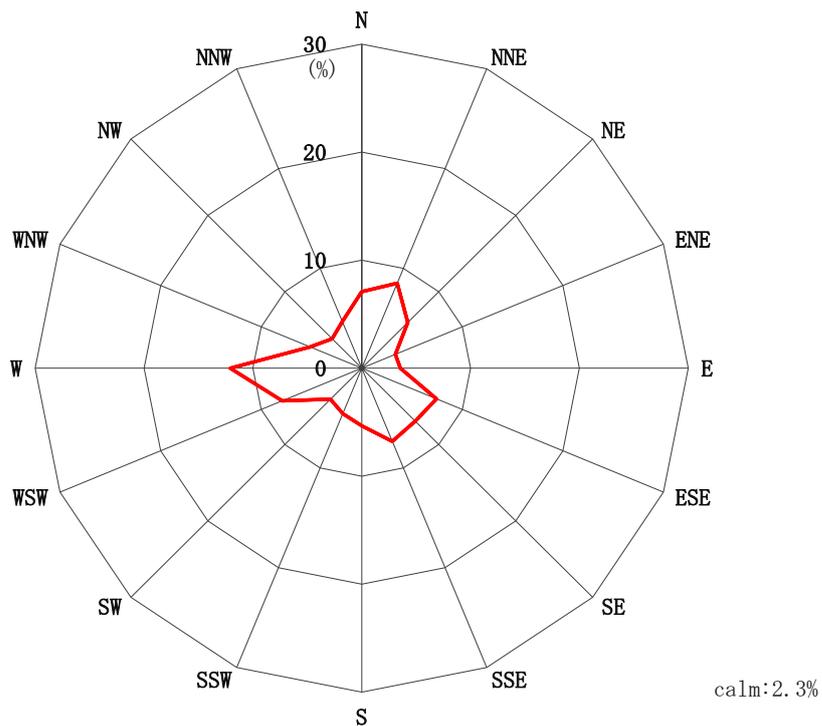
風速は1月の平均風速が3.0m/sで最も強く、11月の平均風速が2.1m/sで最も弱かった。年間の平均風速は2.5m/sであった。



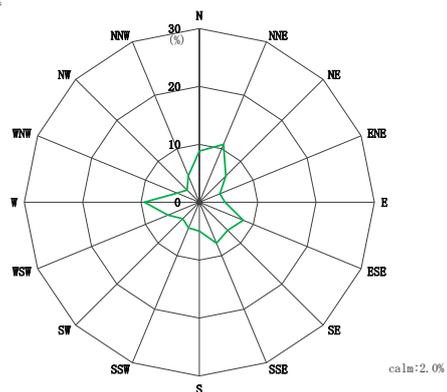
出典：「過去の気象データ検索」（気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>）令和5年8月23日閲覧

図 3.1.1-4 月別平均風速（アメダス上野：1991年～2020年）

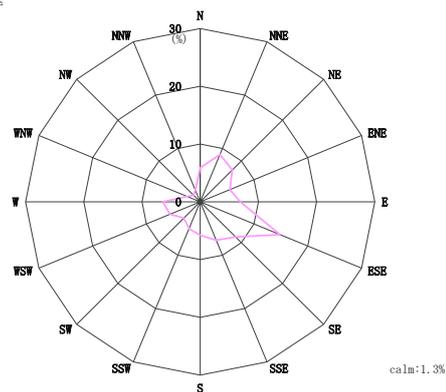
年間



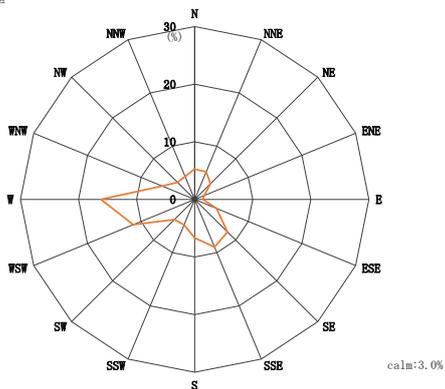
春季



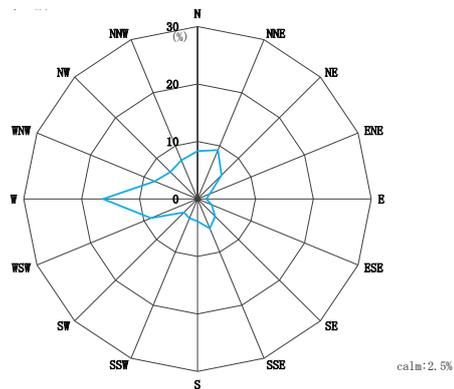
夏季



秋季



冬季



注) calm は静穏率を示す。静穏率は、風速 0.2m/s 以下の風速を静穏時とし、その割合を示したものである。
「気象庁統計情報」(気象庁ホームページ)より作成

図 3.1.1-5 伊賀市における最多風向別出現頻度 (令和 6 年 4 月~令和 7 年 3 月)

(2) 大気質の状況

三重県が管理主体の大気常時監視測定局のうち、準対象事業実施区域周辺の一般環境大気測定局は、伊賀緑ヶ丘中学校（準対象事業実施区域から北北西 約 13km）、伊賀柘植（北 約 19km）、名張小学校（西南西 約 13km）である。

また、ダイオキシン類環境調査の調査地点のうち、準対象事業実施区域周辺の調査地点は、名張小学校（西南西 約 13km）、三重県立上野高等学校（北北西 約 14km）である。

大気常時監視測定局及びダイオキシン類環境調査地点の測定項目は表 3.1.1-3 に、大気常時監視測定局及びダイオキシン類環境調査地点の位置は、表 3.1.1-3、図 3.1.1-6 に示すとおりである。

また、大気常時監視測定局及びダイオキシン類環境調査地点における測定結果は、表 3.1.1-4～表 3.1.1-11 に、平成 30 年度～令和 6 年度の経年変化は図 3.1.1-7～図 3.1.1-11 に示すとおりである。

表 3.1.1-3 大気常時監視測定局及びダイオキシン類環境調査地点の測定項目

| 区分 | 測定局名・調査地点名 | 所在地 | 管理主体 | 年度 | 測定項目 | | | | | | | |
|-----------------------------|------------|----------|------|----------|-------|-------|---------|-----------|---------|---------|----------|------|
| | | | | | 二酸化硫黄 | 窒素酸化物 | 浮遊粒子状物質 | 光化学オキシダント | ダイオキシン類 | 微小粒子状物質 | 有害大気汚染物質 | 炭化水素 |
| 一般環境大気測定局 | 伊賀緑ヶ丘中学校 | 伊賀市緑ヶ丘本町 | 三重県 | 平成 30 年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 令和元年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 令和 2 年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 令和 3 年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 令和 4 年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 令和 5 年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | | | | 令和 6 年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| | 伊賀柘植 | 伊賀市下柘植 | 三重県 | 平成 30 年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | | | 令和元年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | | | 令和 2 年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | | | 令和 3 年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | | | 令和 4 年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | | | 令和 5 年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | | | 令和 6 年度 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 一般環境大気測定局/ ダイオキシン類環境調査地点 | 名張小学校 | 名張市丸の内 | 三重県 | 平成 30 年度 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | 令和元年度 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| | | | | 令和 2 年度 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | 令和 3 年度 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| | | | | 令和 4 年度 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | | | 令和 5 年度 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| ダイオキシン類環境調査地点 | 三重県立上野高等学校 | 伊賀市上野丸之内 | 三重県 | 令和 3 年度 | | | | | ○ | | | |

注) 表中の「○」は測定が行われていることを示す。

出典: 「三重県の大気環境測定局と測定項目一覧」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/eco/earth/12483014779.htm>) 令和 6 年度

「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 平成 29 年度～令和 6 年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>) 令和 6 年度

「三重県 ダイオキシン類対策」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci500005175.htm>) 令和 5 年度



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 一般環境大気測定局
- ダイオキシン類環境調査地点
- 一般環境大気測定局・ダイオキシン類環境調査地点



0 5 km

1:120,000

図 3.1.1-6
大気常時監視測定局等の位置

(a) 二酸化硫黄 (SO₂)

令和6年度の二酸化硫黄の測定結果は表 3.1.1-4 に示すとおりである。

二酸化硫黄の年平均値は、伊賀緑ヶ丘中学校で 0.000ppm、日平均値の2%除外値は 0.001ppm であった。また、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことはなく、環境基準の長期的評価に適合していた。

二酸化硫黄の過去7年間の経年変化は図 3.1.1-7 に示すとおりであり、概ね横ばい傾向にあった。

表 3.1.1-4 二酸化硫黄 (SO₂) の測定結果 (令和6年度)

| 区分 | 測定局 | 所在地 | 設置主体 | 二酸化硫黄 (SO ₂) | | | |
|---------------|--------------|-----|------|--------------------------|----------------|--------------------------------------------------|-------------------------|
| | | | | 年平均値 | 日平均値 の2%除外値 | 日平均値が 0.04ppm を超え た日が2日以 上連続したこ との有無 | 環境基準 適合状況 (長期的評価) |
| | | | | (ppm) | (ppm) | | |
| 一般環境大 気測定局 | 伊賀緑ヶ丘 中学校 | 伊賀市 | 三重県 | 0.000 | 0.001 | 無 | ○ : 適合 ● : 不適合 |

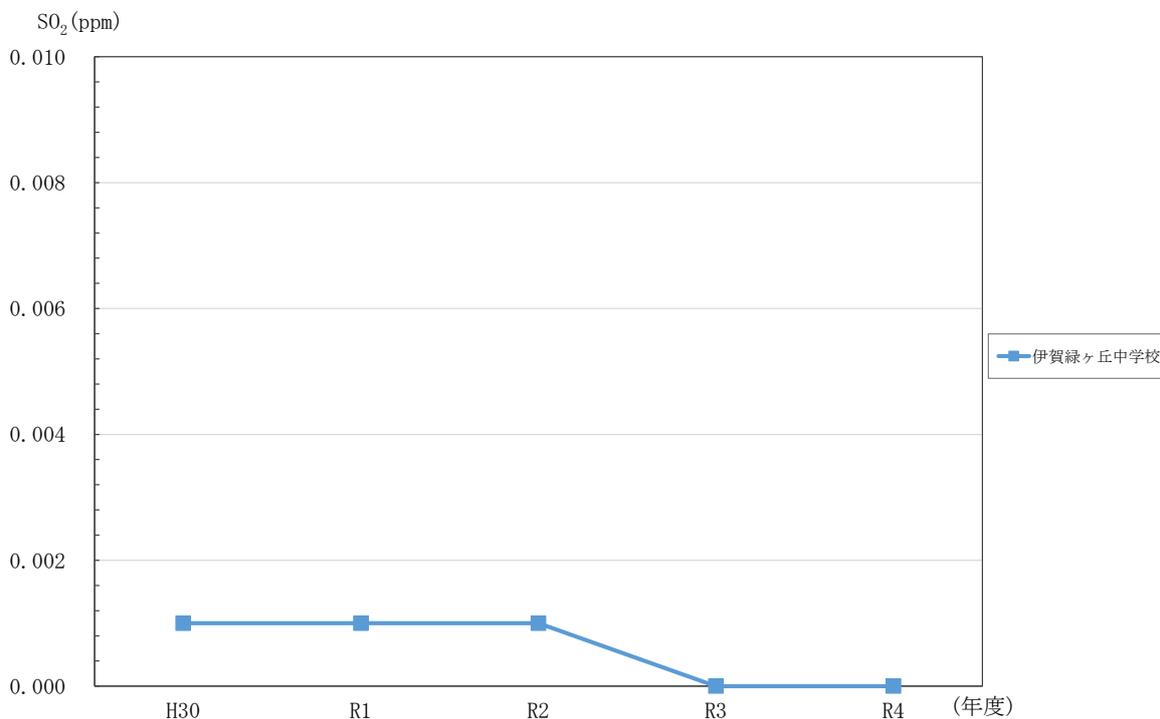
注1) 環境基準は、1時間値の1日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1時間値が 0.1ppm 以下であること。

注2) 二酸化硫黄の環境基準の長期的評価は、年間にわたる日平均値の測定値の高い方から2%の範囲内を除外した最高値(2%除外値)と環境基準(日平均値が 0.04 ppm 以下であること。)を比較して行う。

ただし、日平均値が 0.04 ppm を超える日が 2 日以上連続した場合には、このような取扱いを行わず、非達成と評価する。

出典：「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>)



出典：「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 平成30年度～令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>) 令和6年度

図 3.1.1-7 二酸化硫黄 (SO₂) 濃度 年平均値の推移 (平成30年から令和6年度)

(b) 二酸化窒素 (NO₂)

令和6年度の二酸化窒素の測定結果は表 3.1.1-5 に示すとおりである。

二酸化窒素の年平均値は、伊賀緑ヶ丘中学校で 0.005ppm、名張小学校で 0.003ppm であった。また、日平均値の年間 98%値は伊賀緑ヶ丘中学校で 0.013ppm、名張小学校で 0.008ppm であり、環境基準の長期的評価に適合していた。

二酸化窒素の過去7年間の経年変化は図 3.1.1-8 に示すとおりであり、概ね横ばい傾向にあった。

表 3.1.1-5 二酸化窒素(NO₂)の測定結果 (令和6年度)

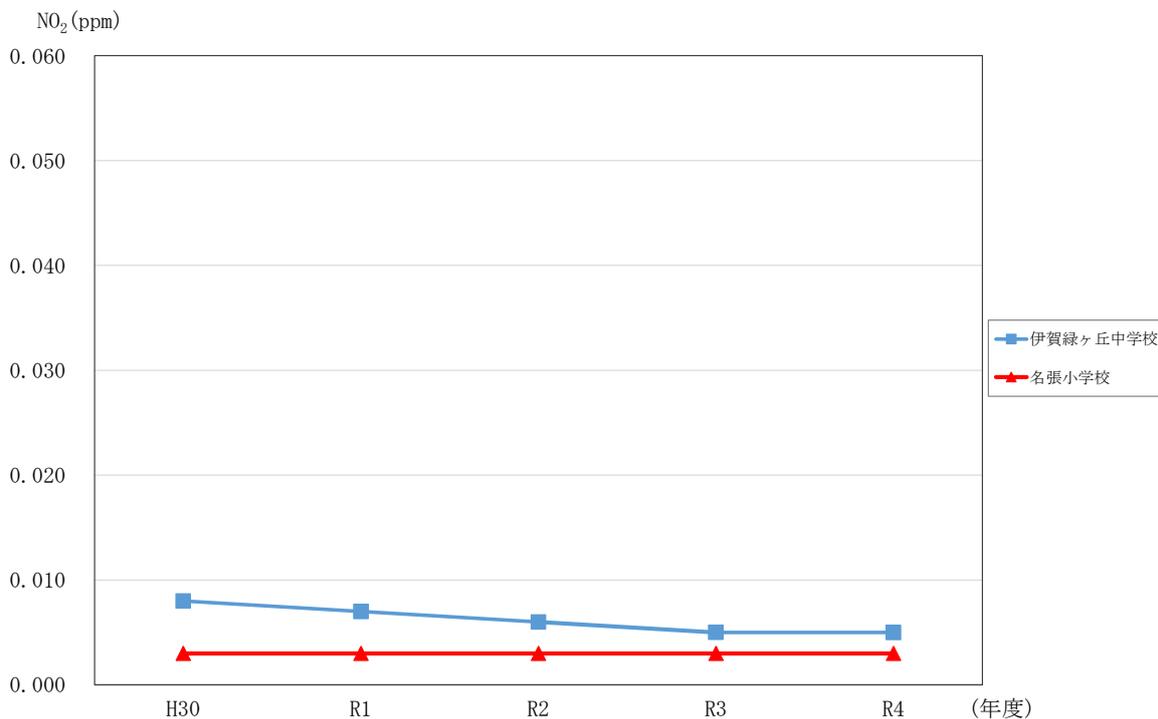
| 区分 | 測定局 | 所在地 | 設置主体 | 二酸化窒素(NO ₂) | | |
|-----------|----------|-----|------|-------------------------|-------------|-----------------|
| | | | | 年平均値 | 日平均値の年間98%値 | 環境基準適合状況(長期的評価) |
| | | | | (ppm) | (ppm) | ○:適合 ●:不適合 |
| 一般環境大気測定局 | 伊賀緑ヶ丘中学校 | 伊賀市 | 三重県 | 0.005 | 0.013 | ○ |
| | 名張小学校 | 名張市 | 三重県 | 0.003 | 0.008 | ○ |

注1) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。

注2) 二酸化窒素の環境基準の長期的評価は、年間にわたる日平均値の測定値の低い方から98目に当たる値と環境基準(日平均値が0.04ppmから0.06ppmのゾーン内またはそれ以下であること。)を比較して行う。

出典:「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>)



出典:「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 平成30年度～令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>) 令和6年度

図 3.1.1-8 二酸化窒素(NO₂)濃度 年平均値の推移 (平成30年から令和6年度)

(c) 浮遊粒子状物質 (SPM)

令和6年度の浮遊粒子状物質の測定結果は表 3.1.1-6 に示すとおりである。

浮遊粒子状物質の年平均値は0.012mg/m³、日平均値の2%除外値は0.031 mg/m³~0.034mg/m³であり、全ての測定局は環境基準の長期的評価に適合していた。

浮遊粒子状物質の過去7年間の経年変化は図 3.1.1-9 に示すとおりであり、概ね横ばい傾向にあった。

表 3.1.1-6 浮遊粒子状物質 (SPM) の測定結果 (令和6年度)

| 区分 | 測定局 | 所在地 | 設置主体 | 浮遊粒子状物質 (SPM) | | | |
|---------------|--------------|-----|------|----------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| | | | | 年平均値 | 日平均値 の2%除外値 | 日平均値が 0.10mg/m ³ を超 えた日が2日 以上連続した ことの有無 | 環境基準 適合状況 (長期的評価) ○: 適合 ●: 不適合 |
| | | | | (mg/m ³) | (mg/m ³) | | |
| 一般環境大気 測定局 | 伊賀緑ヶ丘 中学校 | 伊賀市 | 三重県 | 0.012 | 0.031 | 無 | ○ |
| | 伊賀柘植 | 伊賀市 | 三重県 | 0.012 | 0.031 | 無 | ○ |
| | 名張小学校 | 名張市 | 三重県 | 0.012 | 0.034 | 無 | ○ |

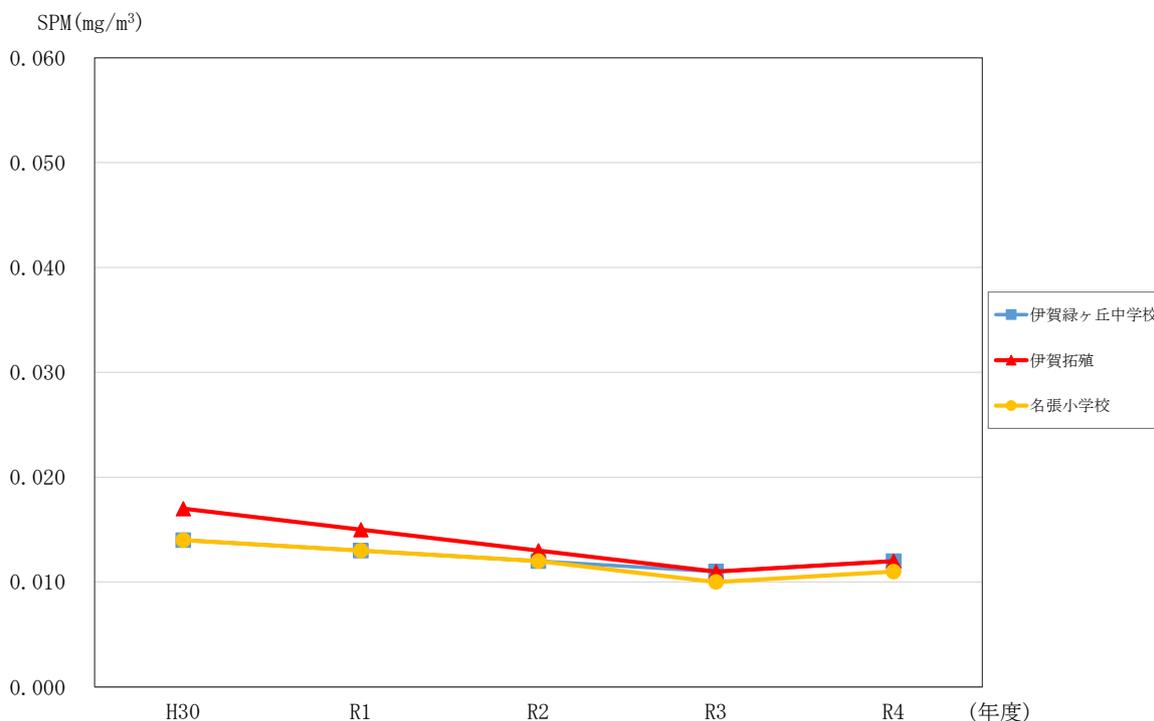
注1) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

注2) 浮遊粒子状物質の環境基準の長期的評価は、年間にわたる日平均値の測定値の高い方から2%の範囲内を除外した最高値(2%除外値)と環境基準(日平均値が0.10mg/m³以下であること。)を比較して行う。

ただし、日平均値が0.10 mg/m³を超える日が2日以上連続した場合には、このような取扱いを行わず、非達成と評価する。

出典: 「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>)



出典: 「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 平成30年度~令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>) 令和6年度

図 3.1.1-9 浮遊粒子状物質 (SPM) 年平均値の推移 (平成30年から令和6年度)

(d) 光化学オキシダント

令和6年度の光化学オキシダントの測定結果は表 3.1.1-7 に示すとおりである。

昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数は、伊賀緑ヶ丘中学校で241時間(割合は4.4%)、伊賀柘植で238時間(割合は4.4%)、名張小学校で215時間(割合は4.0%)であり、全ての測定局は環境基準に不適合であった。

光化学オキシダントの過去7年間の経年変化は図 3.1.1-10 に示すとおりであり、若干の減少傾向にあった。

表 3.1.1-7 光化学オキシダントの測定結果 (令和6年度)

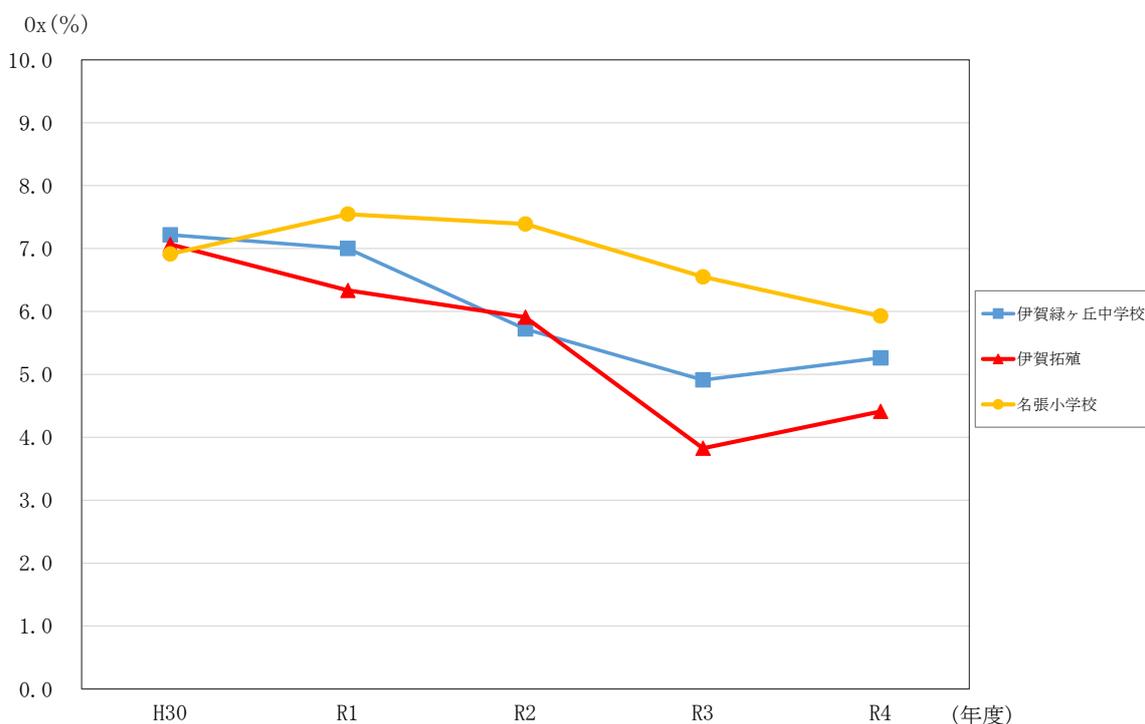
| 区分 | 測定局 | 所在地 | 設置主体 | 光化学オキシダント | | | | 環境基準適合状況 ○：適合 ●：不適合 |
|-----------|----------|-----|------|-----------|--------------------------------|------|-------|---------------------------|
| | | | | 昼間測定時間 | 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数とその割合 | | 割合(%) | |
| | | | | (時間) | (日) | (時間) | | |
| 一般環境大気測定局 | 伊賀緑ヶ丘中学校 | 伊賀市 | 三重県 | 5438 | 49 | 241 | 4.4 | ● |
| | 伊賀柘植 | 伊賀市 | 三重県 | 5440 | 52 | 238 | 4.4 | ● |
| | 名張小学校 | 名張市 | 三重県 | 5438 | 41 | 215 | 4.0 | ● |

注1) 環境基準は、1時間値が0.06ppm以下であること。

注2) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

出典：「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>)



出典：「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 平成30年度～令和6年度」を元に算出
(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>) 令和6年度

図 3.1.1-10 光化学オキシダント 昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の割合の推移 (平成30年から令和6年度)

(e) 一酸化炭素 (CO)

一酸化炭素の測定は、準対象事業実施区域及びその周囲では実施されていない。

(f) ダイオキシン類 (大気)

令和3年度及び令和4年度のダイオキシン類 (大気) の測定結果は表 3.1.1-8 に示すとおりである。

ダイオキシン類の年平均値は三重県立上野高等学校 (令和3年度調査) で0.016pg-TEQ/m³、名張市立名張小学校 (令和4年度調査) で0.0074pg-TEQ/m³であり、環境基準に適合していた。

表 3.1.1-8 ダイオキシン類の測定結果 (大気)

| 区分 | 調査実施年度 | 調査地点 | 所在地 | 調査機関 | ダイオキシン類 [大気] | | | |
|---------------|--------|------------|----------|------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|
| | | | | | 年平均値 | 夏季 | 冬季 | 環境基準適合状況 |
| | | | | | (pg-TEQ/m ³) | (pg-TEQ/m ³) | (pg-TEQ/m ³) | ○: 適合 ●: 不適合 |
| ダイオキシン類環境調査地点 | 令和3年度 | 三重県立上野高等学校 | 伊賀市上野丸之内 | 三重県 | 0.016 | 0.014 | 0.017 | ○ |
| | 令和4年度 | 名張市立名張小学校 | 名張市丸之内 | 三重県 | 0.0074 | 0.0069 | 0.0078 | ○ |

注) 環境基準は、年平均0.6pg-TEQ/m³であること。

出典: 「令和3年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0012500135.htm>) 令和5年10月16日閲覧

「令和4年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0012500148.htm>) 令和5年10月16日閲覧

(g) 微小粒子状物質 (PM2.5)

令和6年度の微小粒子状物質の測定結果は表 3.1.1-9 に示すとおりである。

微小粒子状物質の年平均値は $8.5 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 9.4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間98%値は $24.9 \mu\text{g}/\text{m}^3 \sim 29.7 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、全ての測定局は環境基準に適合していた。

微小粒子状物質の過去7年間の経年変化は図 3.1.1-11 に示すとおりであり、概ね横ばい傾向にあった。

表 3.1.1-9 微小粒子状物質 (PM2.5) の測定結果 (令和6年度)

| 区分 | 測定局 | 所在地 | 設置主体 | 微小粒子状物質 (PM2.5) | | |
|---------------|----------|-----|------|------------------------------|------------------------------|-------------------|
| | | | | 年平均値 | 日平均値の 年間98%値 | 環境基準 適合状況 |
| | | | | ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | ○ : 適合 ● : 不適合 |
| 一般環境大気 測定局 | 伊賀緑ヶ丘中学校 | 伊賀市 | 三重県 | 9.3 | 29.7 | ○ |
| | 伊賀柘植 | 伊賀市 | 三重県 | 8.5 | 24.9 | ○ |
| | 名張小学校 | 名張市 | 三重県 | 9.4 | 27.3 | ○ |

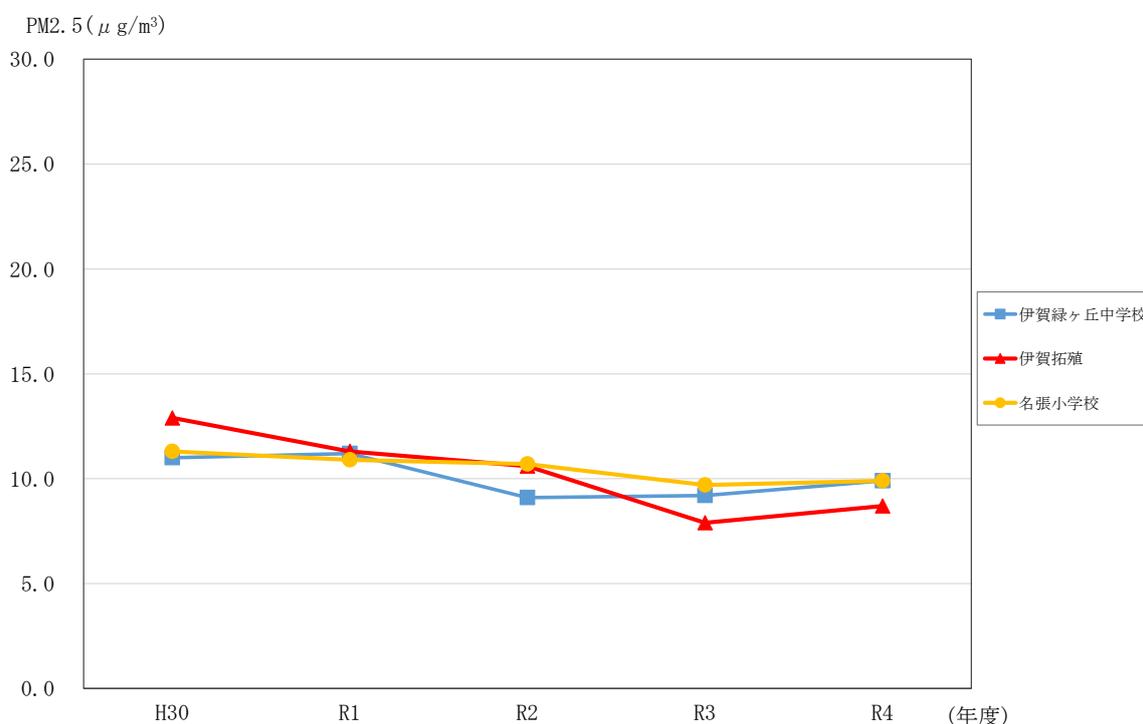
注1) 環境基準は、1年平均値が $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

注2) 微小粒子状物質の環境基準の長期基準に係る評価は、測定結果の一年平均値を長期基準 ($15 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比較して行う。短期基準に係る評価は、年間にわたる日平均値の測定値の低い方から98%目に当たる値を短期基準 ($35 \mu\text{g}/\text{m}^3$) と比較して行う。

環境基準の評価は、長期基準と短期基準の両方を満足した場合に達成されたとする。

出典：「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 令和6年度」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>)



出典：「三重県 大気環境測定結果(年間値測定結果) 平成30年度～令和6年度」を元に算出
(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/common/01/ci600013315.htm>) 令和6年度

図 3.1.1-11 微小粒子状物質 (PM2.5) 年平均値の推移 (平成30年から令和6年度)

(h) 有害大気汚染物質

令和6年度の有害大気汚染物質の測定結果は表 3.1.1-10 に示すとおりである。

全ての項目に環境基準または指針値が設定されており、環境基準または指針値に適合していた。

表 3.1.1-10 有害大気汚染物質の測定結果（令和6年度）

| 区分 | 調査地点 | 所在地 | 設置主体 | 物質名 | 年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) | 環境基準または指針値 ^{*1)} ($\mu\text{g}/\text{m}^3$) |
|---------------|--------------|-----|------|-------------|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 一般環境 大気測定局 | 伊賀緑ヶ丘 中学校 | 伊賀市 | 三重県 | ベンゼン | 0.43 | 3.0 |
| | | | | トリクロロエチレン | 0.066 | 130 |
| | | | | テトラクロロエチレン | 0.045 | 200 |
| | | | | ジクロロメタン | 0.89 | 150 |
| | | | | アクリロニトリル | 0.011 | 2.0 |
| | | | | 塩化ビニルモノマー | 0.012 | 10 |
| | | | | 水銀及びその化合物 | 0.0013 | 0.04 |
| | | | | ニッケル化合物 | — | 0.025 |
| | | | | クロロホルム | 0.14 | 18 |
| | | | | 1,2-ジクロロエタン | 0.13 | 1.6 |
| | | | | 1,3-ブタジエン | 0.026 | 2.5 |
| | | | | ヒ素及びその化合物 | — | 0.006 |
| | | | | マンガン及びその化合物 | — | 0.14 |
| | | | | アセトアルデヒド | — | 120 |
| | | | | 塩化メチル | 1.2 | 94 |

*1)「指針値」：有害性評価についての定量的なデータの科学的信頼性がまだ十分に得られていない有害大気汚染物質のうち、ある程度科学的信頼性を得られたものを対象に環境目標値の一つとして、健康リスクの低減を図るための指針となる数値である。

出典：「令和6年度 大気環境測定結果」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0012500146.htm>)

(i) 炭化水素

令和5年度の炭化水素の測定結果は表 3.1.1-11 に示すとおりである。

表 3.1.1-11 炭化水素 測定結果（令和5年度）

| 区分 | 測定局 | 所在地 | 設置主体 | 有効測定日数 | 測定時間数 | 非メタン炭化水素 年平均値 | メタン 年平均値 | 全炭化水素 年平均値 |
|---------------|--------------|-----|------|--------|-------|------------------|-------------|---------------|
| | | | | (日) | (時間) | (ppmC) | (ppmC) | (ppmC) |
| 一般環境大気 測定局 | 伊賀緑ヶ丘 中学校 | 伊賀市 | 三重県 | 366 | 8,697 | 0.10 | 2.04 | 2.14 |
| | 名張小学校 | 名張市 | 三重県 | 365 | 8,695 | 0.07 | 1.99 | 2.06 |

出典：「令和6年度 三重県サステナビリティレポート」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900088.htm>) 令和6年11月8日

(j) 大気汚染に係る苦情の発生状況

「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の大気環境に関する苦情は10件であった。

(3) 騒音の状況

(a) 騒音調査の状況

準対象事業実施区域及びその周囲における令和4年度の環境騒音の測定結果は表 3.1.1-12に、令和5年度の自動車交通騒音の測定結果は表 3.1.1-13に示すとおりであり、全ての測定地点で環境基準に適合していた。測定地点の位置は図 3.1.1-12に示すとおりである。

表 3.1.1-12 環境騒音の測定結果（令和5年度）

| 用途地域 | 測定地点 | 環境基準 類型 | 等価騒音レベル(L_{Aeq}) | | | | | |
|--------------|-------------------|------------|----------------------|----------------------|----------|---------------|----------------------|----------|
| | | | 昼間 | | | 夜間 | | |
| | | | 測定値 (デシベル) | 環境基準 (デシベル 以下) | 適合 状況 | 測定値 (デシベル) | 環境基準 (デシベル 以下) | 適合 状況 |
| 第一種中高層住居専用地域 | 津地方検察庁伊賀支部 | A | 45 | 55 | ○ | 40 | 45 | ○ |
| 第一種住居地域 | 市街地西部地区 市民センター | B | 48 | 55 | ○ | 39 | 45 | ○ |
| 近隣商業地域 | 三重県伊賀庁舎 | C | 47 | 60 | ○ | 45 | 50 | ○ |

注) 昼間：6時～22時、夜間：22時～翌日6時

出典：「令和6年度版 三重県サステナビリティレポート」（三重県HP <https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900088.htm>）
令和6年11月8日

表 3.1.1-13 自動車交通騒音の測定結果（令和5年度）

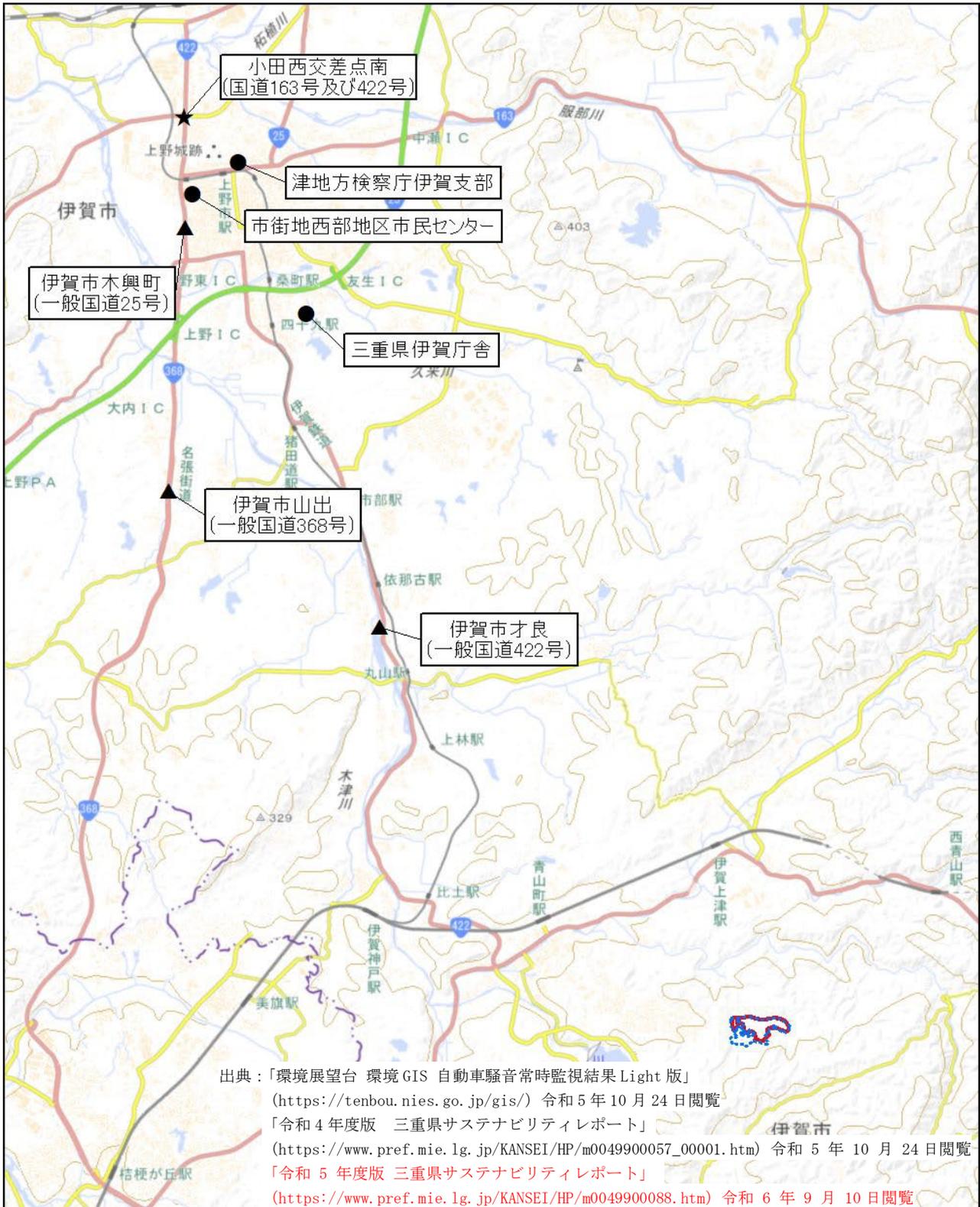
| 道路名 | 測定地点 | 環境基準 類型 | 車線数 | 等価騒音レベル(L_{Aeq}) | | | | | |
|---------|--------|------------|-----|----------------------|----------------------|----------|---------------|----------------------|----------|
| | | | | 昼間 | | | 夜間 | | |
| | | | | 測定値 (デシベル) | 環境基準 (デシベル 以下) | 適合 状況 | 測定値 (デシベル) | 環境基準 (デシベル 以下) | 適合 状況 |
| 県道上野大山田 | 伊賀市中友生 | - | 2 | 60 | 70 | ○ | 51 | 65 | ○ |

注) 昼間：6時～22時、夜間：22時～翌日6時

出典：「令和6年度版 三重県サステナビリティレポート」（三重県HP <https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900088.htm>）
令和6年11月8日

(b) 騒音に係る苦情の発生状況

「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の騒音に関する苦情は7件であった。



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 環境騒音測定地点
- ▲ 自動車交通騒音測定地点
- ★ 振動測定地点



0 3 km



1:80,000

図 3.1.1-12

騒音及び振動測定地点の位置

(4) 振動の状況

(a) 振動の状況

準対象事業実施区域及びその周囲における、令和5年度の自動車交通振動の測定結果は、表3.1.1-14に示すとおりであり、全ての時間区分において要請限度に適合していた。測定地点の位置は図3.1.1-12に示すとおりである。

表 3.1.1-14 自動車交通振動の測定結果（令和5年度）

(単位：デシベル)

| 道路名 | 測定地点 | 環境基準 類型 | 車線数 | 振動レベル | | | | | |
|------------------|---------|------------|-----|-------|----------|--------------|-----|----------|--------------|
| | | | | 昼間 | | | 夜間 | | |
| | | | | 測定値 | 要請 限度 | 要請限度 適合状況 | 測定値 | 要請 限度 | 要請限度 適合状況 |
| 国道163号及び 422号 | 小田西交差点南 | - | 2 | 41 | 70 | ○ | 31 | 65 | ○ |

注1) 昼間：8：00～19：00、夜間：19：00～翌日8：00

注2) 振動規制法の要請限度は、知覚閾値のほか、人に感じられる感覚的なわずらわしさ（アノイアンス）や睡眠影響を考慮して設定されている数値である。（環境省水・大気環境局）

出典：「令和6年度版 三重県サステナビリティレポート」（三重県HP <https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900088.htm>）
令和6年11月8日

(b) 振動に係る苦情の発生状況

「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の振動に関する苦情は0件であった。

(5) 悪臭

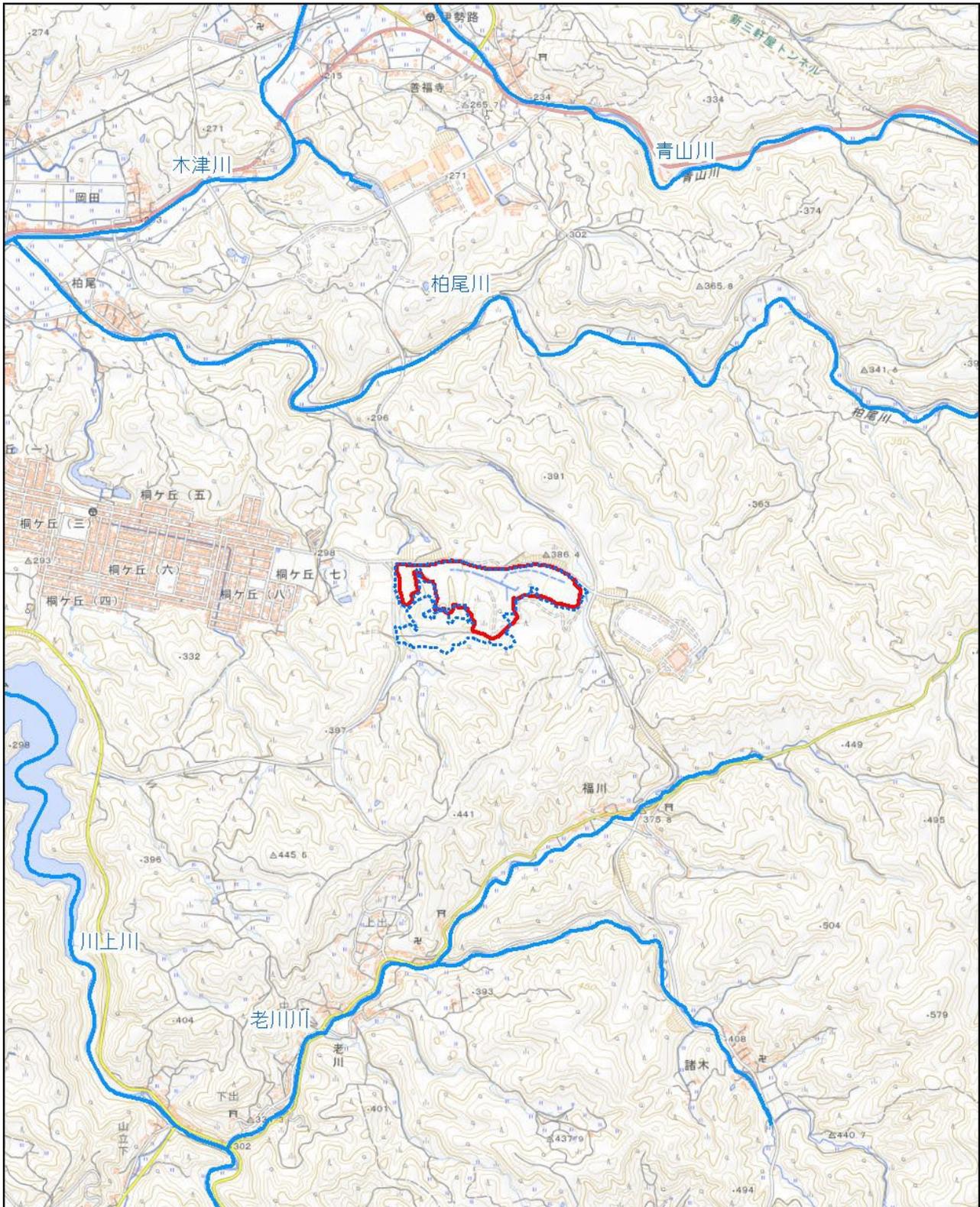
準対象事業実施区域及びその周辺において、県、市及び近隣市町による悪臭の調査は実施されていない。なお、「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の悪臭に関する苦情件数は11件であった。

3.1.2 水環境の状況

(1) 河川の状況

準対象事業実施区域及びその周囲を流れる河川の状況は図 3.1.2-1 に示すとおりである。

準対象事業実施区域及びその周囲を流れる主な河川として、準対象事業実施区域の北側には木津川、青山川、**柏尾川**が、南側には川上川、老川川等が流れている。



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 河川



0 1 km

1:25,000

出典：「国土数値情報 河川 平成 20 年」（国土交通省 HP
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-W05.html>)
 令和 5 年 10 月 5 日

図 3.1.2-1 河川の状況

(2) 近畿地方整備局及び三重県による水質調査

準対象事業実施区域及びその周囲を流れる木津川、比自岐川は、水質汚濁に係る環境基準の水域類型において A 類型に指定されている。各河川の環境基準点は表 3.1.2-1 に示すとおりである。

令和 5 年度の河川 (BOD) の環境基準適合状況は、図 3.1.2-2 及び表 3.1.2-2 に示すとおりであり、木津川、比自岐川においては全ての環境基準点で環境基準に適合していた。

令和 5 年度の環境基準に関する水質測定 (BOD 以外の項目も含む) を、表 3.1.2-3、表 3.1.2-4 に示す。

表 3.1.2-1 環境基準点

| 水域名 | 環境基準点名 | 測定機関 | 類型 |
|----------|--------|--------------|----|
| 木津川-1 | 大野木橋 | 国土交通省近畿地方整備局 | A |
| 木津川-2 | 岩倉橋 | 国土交通省近畿地方整備局 | A |
| 木津川-2 | 島ヶ原大橋 | 国土交通省近畿地方整備局 | A |
| 比自岐川(全域) | 枅川橋 | 三重県 | A |

出典：「令和 6 年度版 三重県サステナビリティレポート」

(三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900088.htm>) 令和 6 年 11 月 8 日

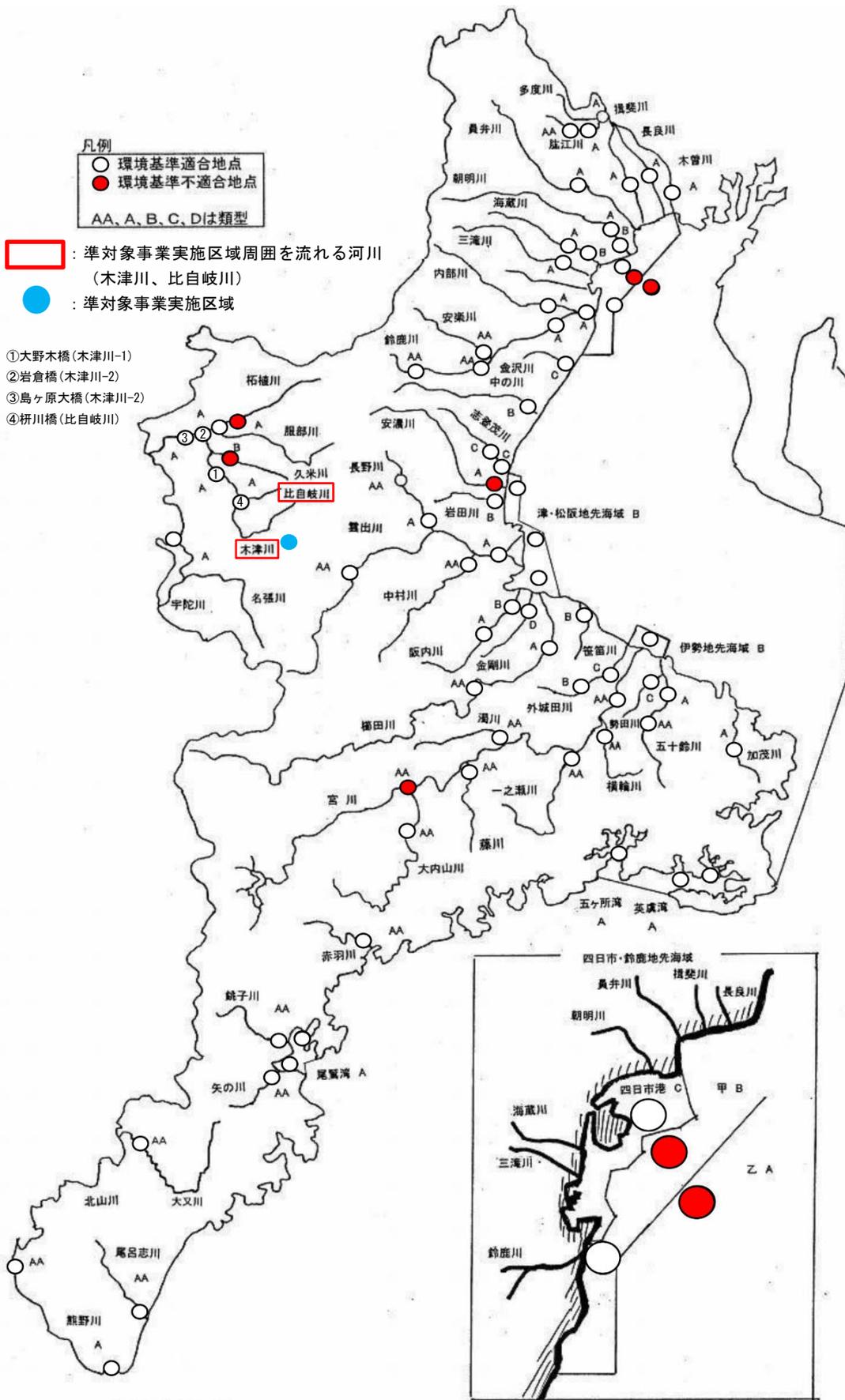


図 3.1.2-2 環境基準達成状況 (河川: BOD、海域: COD)

表 3.1.2-2 環境状況達成状況（河川：BOD）

河川(BOD) 環境基準達成状況 単位:mg/l

| 水 域 名 | 環境基準点 名 | 測定 機関 | 類型 | 令和 | | | 水 域 名 | 環境基準点 名 | 測定 機関 | 類型 | 令和 | | | | | | | | |
|----------|------------|----------|----|--------------------|--------------------|--------------------|-------|------------|----------|-----------------------|--------------------|--------------------|--------------------|----|------|---|------|---|------|
| | | | | 4年度 BOD 75%値 | 5年度 BOD 75%値 | 6年度 BOD 75%値 | | | | | 4年度 BOD 75%値 | 5年度 BOD 75%値 | 6年度 BOD 75%値 | | | | | | |
| 木曾川（下流） | 横 満 蔵 | 中部地整 | A | ○ | 1.2 | ○ | 1.0 | ○ | 1.3 | 赤羽川（全域） | 新長島橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.7 | ○ | 0.6 | ○ | <0.5 |
| 鈴鹿川（上流1） | 勸 進 橋 | 中部地整 | AA | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | 銚子川（全域） | 銚子橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.6 | ○ | 0.5 | ○ | <0.5 |
| 鈴鹿川（上流2） | 鈴 国 橋 | 中部地整 | AA | ○ | 0.5 | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | 矢ノ川（全域） | 矢ノ川橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.6 | ○ | 0.6 | ○ | <0.5 |
| 鈴鹿川（中流） | 高 岡 橋 | 中部地整 | A | ○ | 0.9 | ○ | 0.6 | ○ | 0.5 | 尾呂志川（全域） | 阿田和橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.8 | ○ | 0.9 | ○ | <0.5 |
| 鈴鹿川（下流） | 小 倉 橋 | 中部地整 | A | ○ | 0.7 | ○ | 0.8 | ○ | 0.5 | 中ノ川（全域） | 木 鎌 橋 | 三重県 | B | ○ | 2.1 | ○ | 2.3 | × | 3.4 |
| 内部川（全域） | 河 原 田 橋 | 中部地整 | A | ○ | 1.0 | ○ | 0.9 | ○ | 0.7 | 阪内川（上流） | 中部大橋 | 三重県 | A | ○ | 1.1 | ○ | 1.2 | ○ | 0.7 |
| 朝明川（上流） | 朝 明 橋 | 三重県 | A | ○ | 1.2 | ○ | 1.3 | ○ | 0.8 | 阪内川（下流） | 荒 木 橋 | 三重県 | B | ○ | 1.1 | ○ | 1.4 | ○ | 0.8 |
| 朝明川（下流） | 朝 明 大 橋 | 三重県 | B | ○ | 1.4 | ○ | 0.9 | ○ | 0.7 | 金剛川（上流） | 昭 和 橋 | 三重県 | D | ○ | 4.0 | ○ | 3.7 | ○ | 2.8 |
| 三滝川（全域） | 三 滝 橋 | 四日市市 | A | ○ | 1.5 | ○ | 1.0 | ○ | 1.4 | 海蔵川（上流） | 海 蔵 橋 | 四日市市 | A | ○ | 1.3 | ○ | 1.5 | ○ | 1.6 |
| 員井川（全域） | 桑 部 橋 | 三重県 | A | ○ | 1.1 | ○ | 0.9 | ○ | 0.6 | 海蔵川（下流） | 新 開 橋 | 四日市市 | B | ○ | 1.5 | ○ | 1.5 | ○ | 1.8 |
| 長良川（下流） | 伊 勢 大 橋 | 中部地整 | A | ○ | 0.9 | ○ | 0.9 | ○ | 1.3 | 北 山 川 | 四 滝 | 三重県 | AA | ○ | 0.6 | ○ | 0.9 | ○ | <0.5 |
| 揖斐川（4） | 伊 勢 大 橋 | 中部地整 | A | ○ | 0.8 | ○ | 1.0 | ○ | 0.9 | 熊 野 川 | 熊 野 大 橋 | 近畿地整 | A | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 |
| 木津川（1） | 大 野 木 橋 | 近畿地整 | A | ○ | 1.2 | ○ | 1.0 | ○ | 0.8 | 笹苗川（全域） | 八 木 戸 橋 | 三重県 | B | ○ | 1.5 | ○ | 1.5 | ○ | 1.3 |
| 木津川（2） | 岩 倉 橋 | 近畿地整 | A | ○ | 1.3 | ○ | 1.3 | ○ | 1.4 | 岩田川（全域） | 観 音 橋 | 三重県 | B | ○ | 1.1 | ○ | 1.5 | ○ | 1.1 |
| | 島ヶ原大橋 | 近畿地整 | A | ○ | 1.6 | ○ | 1.6 | ○ | 1.7 | 金沢川（全域） | 千代崎樋門 | 三重県 | C | ○ | 4.1 | ○ | 3.1 | ○ | 3.2 |
| 志登茂川（上流） | 今 井 橋 | 三重県 | C | ○ | 4.5 | ○ | 3.1 | ○ | 2.8 | 中村川（全域） | 小 川 橋 | 中部地整 | AA | ○ | 0.5 | ○ | 0.5 | ○ | <0.5 |
| 志登茂川（下流） | 江 戸 橋 | 三重県 | C | ○ | 3.0 | ○ | 3.0 | ○ | 2.6 | 一之瀬川（全域） | 飛 瀬 浦 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.6 | ○ | 0.6 | ○ | <0.5 |
| 雲出川（上流） | 両 国 橋 | 三重県 | AA | ○ | 1.0 | ○ | 0.8 | ○ | 0.8 | 肱江川（上流） | 念 仏 橋 | 三重県 | AA | ○ | 1.0 | × | 1.1 | ○ | 0.7 |
| 雲出川（下流） | 雲 出 橋 | 中部地整 | A | ○ | 1.2 | ○ | 1.0 | ○ | 0.7 | 肱江川（下流） | 肱 江 橋 | 三重県 | A | ○ | 1.4 | ○ | 0.9 | ○ | 0.9 |
| 櫛田川（上流） | 津 留 橋 | 三重県 | AA | ○ | 1.0 | ○ | 1.0 | ○ | 0.8 | 安楽川（全域） | 和 泉 橋 | 中部地整 | AA | ○ | 0.5 | ○ | 0.5 | ○ | <0.5 |
| 櫛田川（下流） | 櫛 田 橋 | 中部地整 | A | ○ | 0.5 | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | 長野川（上流） | 水 源 地 | 三重県 | AA | ○ | 0.7 | ○ | 0.7 | ○ | 0.6 |
| 外城田川（上流） | 大 野 橋 | 三重県 | B | ○ | 2.5 | ○ | 2.2 | ○ | 1.7 | 長野川（下流） | 長 野 橋 | 三重県 | A | ○ | 1.3 | ○ | 1.1 | ○ | 1.1 |
| 外城田川（下流） | 野 依 橋 | 三重県 | C | ○ | 1.9 | ○ | 3.7 | ○ | 1.7 | 濁 川（全域） | 柳 原 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.8 | ○ | 0.8 | ○ | 0.6 |
| 宮 川（上流） | 船 木 橋 | 三重県 | AA | × | 1.1 | × | 1.1 | ○ | 0.9 | 大内山川（全域） | 滝 辺 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.9 | ○ | 0.9 | ○ | <0.5 |
| 宮 川（下流） | 度 会 橋 | 中部地整 | AA | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | ○ | <0.5 | 藤 川（全域） | 野 添 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.8 | ○ | 0.8 | ○ | <0.5 |
| 勢田川（全域） | 勢 田 大 橋 | 中部地整 | C | ○ | 1.9 | ○ | 2.7 | ○ | 3.2 | 横輪川（全域） | 馬 淵 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.7 | ○ | 0.9 | ○ | 0.6 |
| 多度川（全域） | 上 之 郷 | 中部地整 | A | ○ | 1.6 | ○ | 1.2 | ○ | 1.2 | 大又川（全域） | 藤 後 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.7 | ○ | 0.8 | ○ | <0.5 |
| 安濃川（全域） | 御 山 荘 橋 | 三重県 | A | × | 2.7 | × | 2.3 | ○ | 1.8 | 各測定地点におけるBODの環境基準適合状況 | | | | | | | | | |
| 五十鈴川（上流） | 宇 治 橋 | 三重県 | AA | ○ | 0.5 | ○ | 0.6 | ○ | <0.5 | 適 合 | ○ | 59 | 59 | 61 | | | | | |
| 五十鈴川（下流） | 堀 割 橋 | 三重県 | A | ○ | 1.5 | ○ | 1.5 | ○ | 0.9 | 不 適 合 | × | 4 | 4 | 2 | | | | | |
| 加茂川（全域） | 野 畑 井 堰 | 三重県 | A | ○ | 1.3 | ○ | 1.0 | ○ | 0.6 | 地 点 数 | | 63 | 63 | 63 | | | | | |
| 柘植川（全域） | 山 神 橋 | 三重県 | A | × | 2.3 | ○ | 1.9 | ○ | 1.3 | 各水域におけるBODの環境基準達成状況 | | | | | | | | | |
| 服部川（全域） | 伊 賀 上 野 橋 | 近畿地整 | A | ○ | 1.3 | ○ | 1.2 | ○ | 1.2 | 達 成 | | 58 | 58 | 60 | | | | | |
| 久米川（全域） | 芝 床 橋 | 三重県 | B | × | 5.2 | × | 3.9 | × | 4.5 | 非 達 成 | | 4 | 4 | 2 | | | | | |
| 比自岐川（全域） | 折 川 橋 | 三重県 | A | ○ | 1.2 | ○ | 1.0 | ○ | 0.9 | 水 域 数 | | 62 | 62 | 62 | | | | | |
| 名張川（全域） | 家 野 橋 | 近畿地整 | A | ○ | 0.9 | ○ | 1.0 | ○ | 1.0 | 達 成 率 | % | 94 | 94 | 97 | | | | | |

（備考）環境基準の達成について：各水域内においてすべての環境基準点で環境基準に適合している場合、その水域が環境基準を達成したことになります。

 ：準対象事業実施区域及びその周囲を流れる河川（木津川、比自岐川）

注）環境基準達成状況：○適合、×不適合

出典：「令和6年度公共用水域及び地下水の水質調査結果」（三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0012500145.htm>）
令和7年10月1日

表 3.1.2-3 公共用水域（河川）の生活環境項目の水質測定結果（令和5年度（年間値））

| 水域名 | 木津川－1 | 木津川－2 | 木津川－2 | 比自岐川 | 環境基準 (類型A) | |
|---------------------------------|-----------------------|-------|-------|------|---------------|--------|
| 測定地点 | 大野木橋 | 岩倉橋 | 島ヶ原大橋 | 柘川橋 | | |
| 環境基準類型区分 | A | A | A | A | | |
| 水素イオン濃度 (pH) | 最大値 | 7.9 | 8.0 | 8.0 | 7.6 | 8.5 以下 |
| | 最小値 | 7.5 | 7.5 | 7.6 | 7.3 | 6.5 以上 |
| 溶存酸素量 (DO) (mg/L) | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 9.6 | 7.5 以上 | |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L) | | 0.8 | 1.2 | 1.3 | 0.9 | 2 以下 |
| | 75%水質値 ^{注1)} | 1.0 | 1.3 | 1.6 | 1.0 | |
| 浮遊物質 (SS) (mg/L) | 4 | 5 | 5 | 4 | 25 以下 | |
| 大腸菌数 ^{注2)} (CFU/100mL) | 150 | 220 | 770 | 900 | 300 | |

注1) BODは75%水質値により環境基準の達成を判断する。

注2) 水質汚濁に係る環境基準の見直しにより、大腸菌群数が削除され、大腸菌数が追加された。(令和4年4月1日施行)

出典：「水環境総合情報サイト」(環境省 HP https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/search/win_kentaiMenu.asp)

令和7年11月1日閲覧

表 3.1.2-4 公共用水域（河川）の健康項目の水質測定結果（令和5年度（年間値））

| 水域名 | 木津川－1 | 木津川－2 | 木津川－2 | 比自岐川 | 環境基準 |
|------------------------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 測定地点 | 大野木橋 | 岩倉橋 | 島ヶ原大橋 | 柘川橋 | |
| カドミウム (mg/L) | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | 0.003 以下 |
| 全シアン (mg/L) | <0.1 | <0.1 | <0.1 | <0.1 | 検出されないこと |
| 鉛 (mg/L) | 0.001 | <0.001 | 0.001 | <0.005 | 0.01 以下 |
| 六価クロム (mg/L) | <0.01 | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.02 以下 |
| 砒素 (mg/L) | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.005 | 0.01 以下 |
| 総水銀 (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 (mg/L) | — | — | — | — | 検出されないこと |
| PCB (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | — | 検出されないこと |
| ジクロロメタン (mg/L) | 0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.002 | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0004 | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.002 | 0.1 以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.004 | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0005 | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0006 | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| テトラクロロエチレン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0005 | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| チウラム (mg/L) | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0006 | 0.006 以下 |
| シマジン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0003 | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.002 | 0.02 以下 |
| ベンゼン (mg/L) | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| セレン (mg/L) | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.002 | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L) | 0.62 | 0.80 | 0.81 | 0.33 | 10 以下 |
| ふっ素 (mg/L) | 0.072 | 0.082 | 0.085 | 0.080 | 0.8 以下 |
| ほう素 (mg/L) | 0.01 | 0.022 | 0.025 | <0.05 | 1 以下 |
| 1,4-ジオキサン (mg/L) | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.05 以下 |

注1) 表中の「—」は、分析が行われていないことを示す。

注2) 表中の「<」は、分析における定量下限値未満を示す。

出典：「水環境総合情報サイト」(環境省 HP https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/search/win_kentaiMenu.asp)

令和7年11月1日閲覧

(3) 水底の底質

準対象事業実施区域に最も近い河川底質におけるダイオキシン類の調査地点は伊賀市比自岐川であり、三重県が調査を実施している。

令和5年度の河川底質調査結果は表 3.1.2-5 に示すとおりであり、環境基準に適合していた。

表 3.1.2-5 河川底質調査結果（ダイオキシン類 令和5年度）

| 河川名 | 地点名 | 底質 (pg-TEQ/g) | 環境基準 |
|------|-----|---------------|----------------|
| 比自岐川 | 枅川橋 | 0.64 | 150pg-TEQ/g 以下 |

出典：「令和5年度ダイオキシン類に係る環境調査結果」
 (三重県 HP <https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0012500148.htm>) 令和7年5月23日

(4) 地下水汚染

三重県では、県内の地下水質の状況を把握するための水質測定を実施している。

伊賀市内で実施された令和5年度の地下水の水質測定結果は、表 3.1.2-6 に示すとおりである。

なお、伊賀市においてダイオキシン類の地下水調査は実施されていない。

表 3.1.2-6 地下水の水質測定結果（令和5年度）

(単位：mg/L)

| 市区町村名 | 伊賀市 | 伊賀市 | 伊賀市 |
|----------------|----------|----------|----------|
| 地区名 | 柘植町 | 出後 | 上友生 |
| 井戸番号 | 000100 | 000100 | 000100 |
| 採取年月日 | 2024/2/1 | 2024/2/1 | 2024/2/1 |
| カドミウム | < 0.0003 | < 0.0003 | < 0.0003 |
| 全シアン | < 0.1 | < 0.1 | < 0.1 |
| 鉛 | < 0.005 | < 0.005 | < 0.005 |
| 六価クロム | < 0.01 | < 0.01 | < 0.01 |
| 砒素 | < 0.005 | < 0.005 | < 0.005 |
| 総水銀 | < 0.0005 | < 0.0005 | < 0.0005 |
| PCB | < 0.0005 | < 0.0005 | < 0.0005 |
| ジクロロメタン | < 0.002 | < 0.002 | < 0.002 |
| 四塩化炭素 | < 0.0002 | < 0.0002 | < 0.0002 |
| 1,2-ジクロロエタン | < 0.0004 | < 0.0004 | < 0.0004 |
| 1,1-ジクロロエチレン | < 0.002 | < 0.002 | < 0.002 |
| 1,2-ジクロロエチレン | < 0.004 | < 0.004 | < 0.004 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | < 0.0005 | < 0.0005 | < 0.0005 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | < 0.0006 | < 0.0006 | < 0.0006 |
| トリクロロエチレン | < 0.001 | < 0.001 | < 0.001 |
| テトラクロロエチレン | < 0.0005 | < 0.0005 | < 0.0005 |
| 1,3-ジクロロプロペン | < 0.0002 | < 0.0002 | < 0.0002 |
| チウラム | < 0.0006 | < 0.0006 | < 0.0006 |
| シマジン | < 0.0003 | < 0.0003 | < 0.0003 |
| チオベンカルブ | < 0.002 | < 0.002 | < 0.002 |
| ベンゼン | < 0.001 | < 0.001 | < 0.001 |
| セレン | < 0.002 | < 0.002 | < 0.002 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 0.70 | 1.00 | 0.33 |
| ふっ素 | < 0.08 | < 0.08 | < 0.08 |
| ほう素 | < 0.05 | < 0.05 | < 0.05 |
| クロロエチレン | < 0.0002 | < 0.0002 | < 0.0002 |
| 1,4-ジオキサン | < 0.005 | < 0.005 | < 0.005 |

注)「<」は定量下限値未満であることを示す。

出典：「三重県 地下水の水質測定結果（令和5年度）」(三重県 HP https://data.bodik.jp/dataset/240001_groundwater_sokutei)
 令和7年11月1日閲覧

(5) 伊賀市による水質調査

伊賀市では、三重県の水質調査とは別に、水道法に基づいた水質検査を行っている。

準対象事業実施区域及びその周囲における令和4年度の水質検査結果は表 3.1.2-7 に示すとおりである。

また、伊賀市では、伊賀市内の河川の水質調査を実施している。

伊賀市における平成29年度から令和3年度の水質調査結果（BOD75%値）は、表 3.1.2-8 に示すとおりである。

(6) 水質汚濁に係る苦情の発生状況

「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の水質汚濁に関する苦情は6件であった。

表 3.1.2-7 水質検査結果（令和4年度）

| 検査項目 | 単位 | ゆめが丘浄水場 木津川水源(原水)注3) | ゆめが丘浄水場 桐ヶ丘(給水栓)注3) | 基準値注1) |
|------------------------------------|-----------------|-------------------------|------------------------|-----------|
| 一般細菌 | 1mLの検水で形成される集落数 | 1090 | 0 | 100以下 |
| 大腸菌 | (単位なし) | 検出 | 検出されず | 検出されないこと |
| カドミウム及びその化合物 | mg/L | <0.0003 | <0.0003 | 0.003以下 |
| 水銀及びその化合物 | mg/L | <0.00005 | <0.00005 | 0.0005以下 |
| セレン及びその化合物 | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| 鉛及びその化合物 | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| ヒ素及びその化合物 | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| 六価クロム化合物 | mg/L | <0.002 | <0.002 | 0.02以下 |
| 亜硝酸態窒素 | mg/L | <0.004 | <0.004 | 0.04以下 |
| シアン化物イオン及び塩化シアン | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| 硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素 | mg/L | 0.59 | 0.55 | 10以下 |
| フッ素及びその化合物 | mg/L | <0.08 | <0.08 | 0.8以下 |
| ホウ素及びその化合物 | mg/L | <0.1 | <0.1 | 1.0以下 |
| 四塩化炭素 | mg/L | <0.0002 | <0.0002 | 0.002以下 |
| 1,4-ジオキサン | mg/L | <0.005 | <0.005 | 0.05以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレン | mg/L | <0.004 | <0.004 | 0.04以下 |
| ジクロロメタン | mg/L | <0.002 | <0.002 | 0.02以下 |
| テトラクロロエチレン | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| トリクロロエチレン | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| ベンゼン | mg/L | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| 塩素酸 | mg/L | — | 0.08 | 0.6以下 |
| クロロ酢酸 | mg/L | — | <0.002 | 0.02以下 |
| クロロホルム | mg/L | — | 0.019 | 0.06以下 |
| ジクロロ酢酸 | mg/L | — | 0.004 | 0.03以下 |
| ジブロモクロロメタン | mg/L | — | <0.01 | 0.1以下 |
| 臭素酸 | mg/L | — | <0.001 | 0.01以下 |
| 総トリハロメタン | mg/L | — | 0.03 | 0.1以下 |
| トリクロロ酢酸 | mg/L | — | 0.011 | 0.03以下 |
| ブロモジクロロメタン | mg/L | — | 0.008 | 0.03以下 |
| ブロモホルム | mg/L | — | <0.009 | 0.09以下 |
| ホルムアルデヒド | mg/L | — | <0.008 | 0.08以下 |
| 亜鉛及びその化合物 | mg/L | <0.1 | <0.1 | 1.0以下 |
| アルミニウム及びその化合物 | mg/L | 0.15 | 0.03 | 0.2以下 |
| 鉄及びその化合物 | mg/L | 0.37 | <0.03 | 0.3以下 |
| 銅及びその化合物 | mg/L | <0.1 | <0.1 | 1.0以下 |
| ナトリウム及びその化合物 | mg/L | 6.8 | 9.3 | 200以下 |
| マンガン及びその化合物 | mg/L | 0.033 | <0.005 | 0.05以下 |
| 塩化物イオン | mg/L | 6.2 | 14 | 200以下 |
| カルシウム、マグネシウム等(硬度) | mg/L | 35 | 36 | 300以下 |
| 蒸発残留物 | mg/L | 85 | 86 | 500以下 |
| 陰イオン界面活性剤 | mg/L | <0.02 | <0.02 | 0.2以下 |
| ジオスミン | mg/L | 0.000002 | 0.000003 | 0.00001以下 |
| 2-メチルイソボルネオール | mg/L | <0.000001 | 0.000001 | 0.00001以下 |
| 非イオン界面活性剤 | mg/L | <0.005 | <0.005 | 0.02以下 |
| フェノール類 | mg/L | <0.0005 | <0.0005 | 0.005以下 |
| 有機物(全有機炭素(TOC)の量) | mg/L | 1.6 | 0.8 | 3以下 |
| pH値 | | 7.4 | 7.6 | 5.8-8.6 |
| 味 | | — | 異常なし | 異常でないこと |
| 臭気 | | (藻臭～生臭) | 異常なし | 異常でないこと |
| 色度 | 度 | 10.3 | <0.5 | 5以下 |
| 濁度 | 度 | 4.9 | <0.1 | 2以下 |

注1)「水質基準に関する省令」(平成15年厚生労働省令第101号)

注2)「<」は定量下限値未満であることを示す。

注3)年12回実施の平均値

注4)「-」は検査を行っていないことを示す。

出典:「令和4年度水質検査結果」(伊賀市HP <https://www.city.iga.lg.jp/0000011085.html>) 令和5年9月5日閲覧

表 3.1.2-8 伊賀市における河川の水質調査結果 (BOD75%値)

(単位 : mg/L)

| 類型指定河川 | | | | | | | | | | | | |
|---------|-----|----|--------------|---|--------------|---|--------------|---|--------------|---|--------------|---|
| 調査地点 | 河川名 | 類型 | BOD75%値 | | | | | | | | | |
| | | | 平成 29 年度 | | 平成 30 年度 | | 令和元年度 | | 令和 2 年度 | | 令和 3 年度 | |
| | | | 環境基準 適合状況 | | 環境基準 適合状況 | | 環境基準 適合状況 | | 環境基準 適合状況 | | 環境基準 適合状況 | |
| 大村橋 | 木津川 | A | 0.5 | ○ | 0.9 | ○ | 0.5 | ○ | 0.7 | ○ | 0.6 | ○ |
| 笠部橋 | 木津川 | A | 1.0 | ○ | 1.0 | ○ | 0.8 | ○ | 0.9 | ○ | 0.7 | ○ |
| 甲之木橋 | 久米川 | B | 4.5 | ○ | 1.8 | ○ | 1.3 | ○ | 1.4 | ○ | 1.5 | ○ |
| 桑町橋 | 久米川 | B | 3.0 | ○ | 3.2 | × | 2.5 | ○ | 2.0 | ○ | 1.9 | ○ |
| 上市場橋 | 柘植川 | A | 1.0 | ○ | 0.7 | ○ | 0.6 | ○ | 1.1 | ○ | 1.9 | ○ |
| 佐那具橋 | 柘植川 | A | 1.2 | ○ | 1.2 | ○ | 1.4 | ○ | 2.0 | ○ | 1.7 | ○ |
| 高橋 | 服部川 | A | 0.9 | ○ | 0.7 | ○ | 0.9 | ○ | 1.1 | ○ | 0.8 | ○ |
| 小田水源地付近 | 服部川 | A | 1.1 | ○ | 0.9 | ○ | 0.8 | ○ | 1.1 | ○ | 2.5 | × |

| その他主要河川 | | | | | | |
|---------|------|----------|----------|-------|---------|---------|
| 調査地点 | 河川名 | BOD75%値 | | | | |
| | | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 |
| 羽根橋 | 前深瀬川 | 0.5 | 0.5 | 0.7 | 0.7 | 0.8 |
| 向出橋 | 河合川 | 0.9 | 0.8 | 1.3 | 1.8 | 0.9 |
| 綾下橋 | 鞆田川 | 1.2 | 1.6 | 1.6 | 1.7 | 1.1 |
| 三本木橋 | 滝川 | 1.6 | 2.2 | 4.3 | 1.3 | 1.4 |
| 岩井橋 | 岩根川 | 1.2 | 1.1 | 3.7 | 2.0 | 1.7 |
| 治田橋 | 治田川 | 4.6 | 5.5 | 4.8 | 2.3 | 1.4 |
| 白拍子橋 | 予野川 | 1.7 | 1.6 | 2.0 | 2.4 | 3.3 |

注) 環境基準達成状況 : ○適合、×不適合

出典 : 「伊賀市 河川の水質調査結果」(伊賀市 HP <https://www.city.iga.lg.jp/0000000575.html>)

令和 6 年 1 月 19 日閲覧

3.1.3 地盤及び土壌の状況

(1) 地盤沈下

「令和5年度全国の地盤沈下地域の概況」（令和7年、環境省）によると、伊賀市において地盤沈下は確認されておらず、また、「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の地盤沈下に関する苦情はなかった。

(2) 土壌汚染

「令和7年刊三重県統計書」（令和7年、三重県）によると、令和5年度の伊賀市の土壌汚染に関する苦情はなかった。

また、「三重県内における要措置区域等の指定状況」（令和6年、三重県）によると、伊賀市内における「土壌汚染対策法」に基づく要措置区域等および形質変更時要届出区域の指定はなかった。

3.1.4 地形及び地質

(1) 地形の概況

準対象事業実施区域及びその周囲の地形の状況は、図 3.1.4-1 に示すとおりである。

準対象事業実施区域は丘陵斜面であり、準対象事業実施区域の南方には山頂山腹緩斜面が広がっている。

(2) 地質の概要

準対象事業実施区域及びその周囲の地質の状況は、図 3.1.4-2 に示すとおりである。

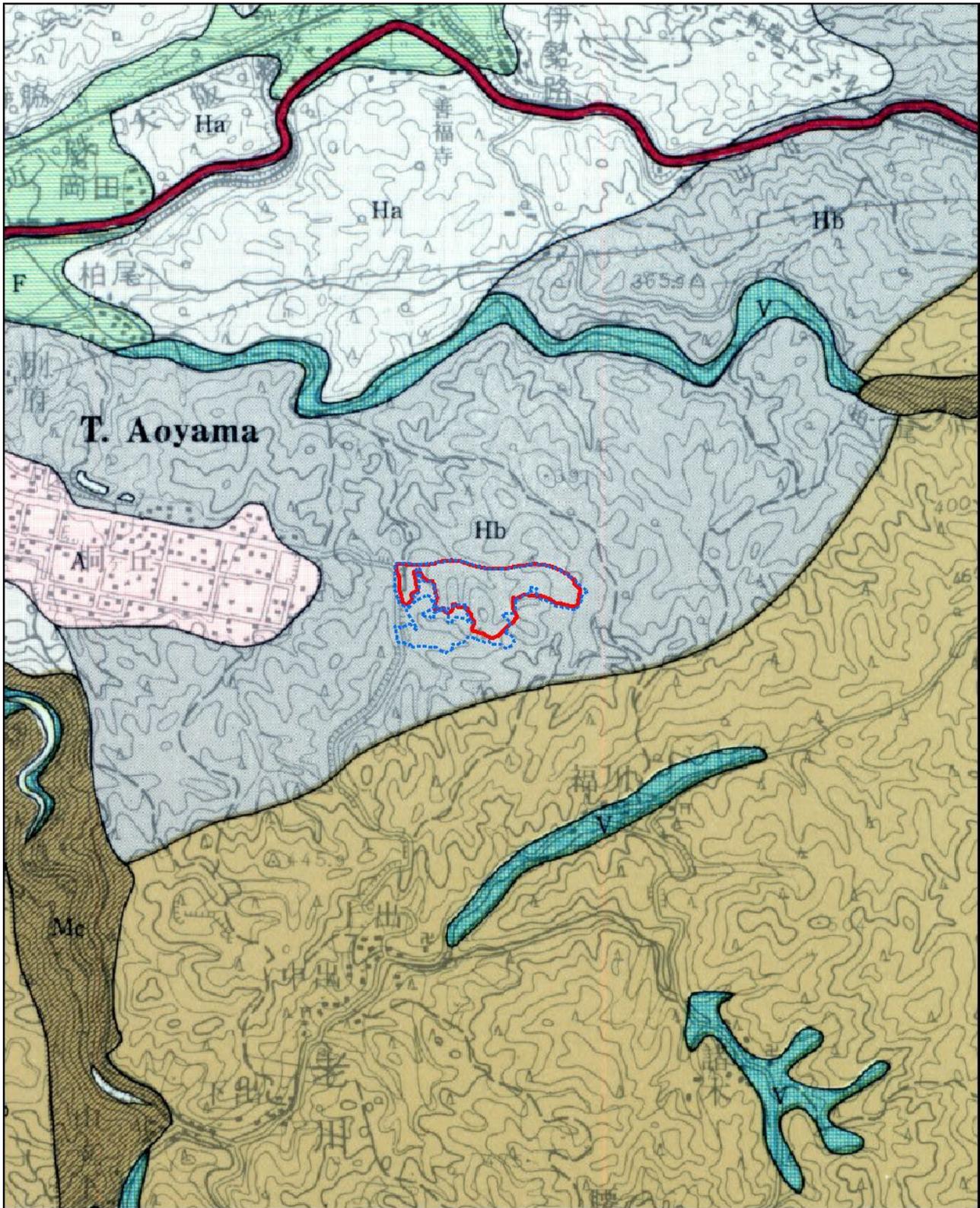
準対象事業実施区域及びその周囲には、中生代層の花崗岩や完新世層の礫・砂・泥を主とする堆積物が分布している。

また、図 3.1.4-3 に示した活断層位置図（平松・上野）（地理院地図（電子国土Web）活断層図）によると、準対象事業実施区域内を縦断・横断する活断層は確認されていない。

(3) 重要な地形及び地質

「日本の地形レッドデータブック第1集 新装版－危機にある地形－」（平成12年、小泉武栄、青木賢人編）及び「日本の地形レッドデータブック第2集 ー保存すべき地形ー」（平成14年、小泉武栄、青木賢人編）によると、準対象事業実施区域及びその周囲には、重要な地形・地質は分布していない。

また、「三重県の地質鉱物－三重県地質鉱物緊急調査報告書－」（2001年、三重県立博物館）によると、三重県に分布する地質鉱物のうち、「三重県の成り立ちと文化を培った自然環境を理解するための母集団となるもの」、「三重県の成り立ちを理解する上で重要な地史のイベントを示すもの」、「三重県の自然環境を理解する上で不可欠な現象を典型に示すもの」で、準対象事業実施区域の周囲に位置するものは、図 3.1.4-4 に示すとおりである。準対象事業実施区域の東北東約 8.5km の位置に、青山高原が分布している。



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)

出典：「国土数値情報 5万分の1 土地分類基本調査(地形分類図)「水口・上野・名張」三重県」
 (国土交通省 HP
<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/tochimizu/F3/data/L/2410L.jpg>
)

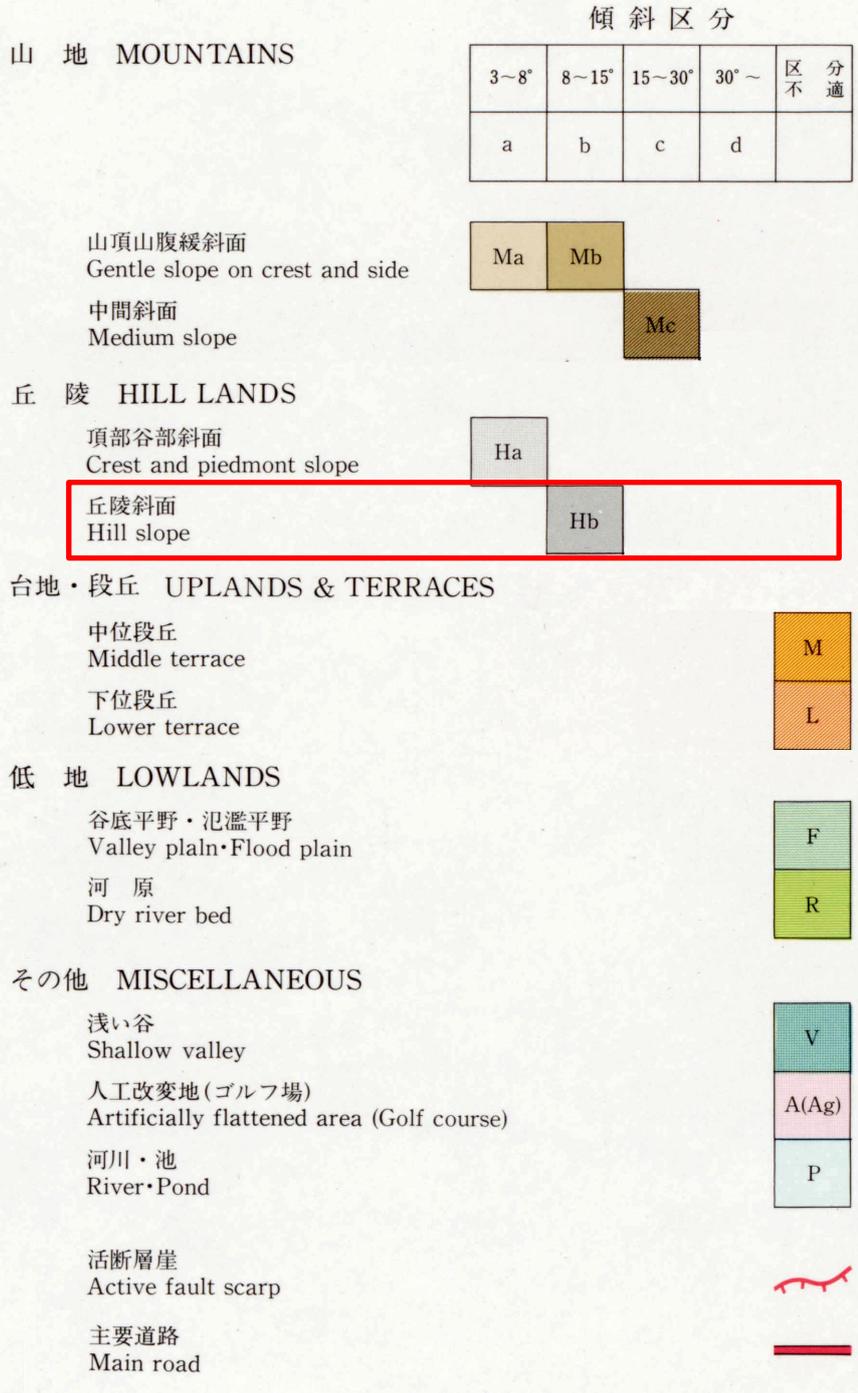


0 1 km

1:25,000

図 3.1.4-1(1) 地形分類図

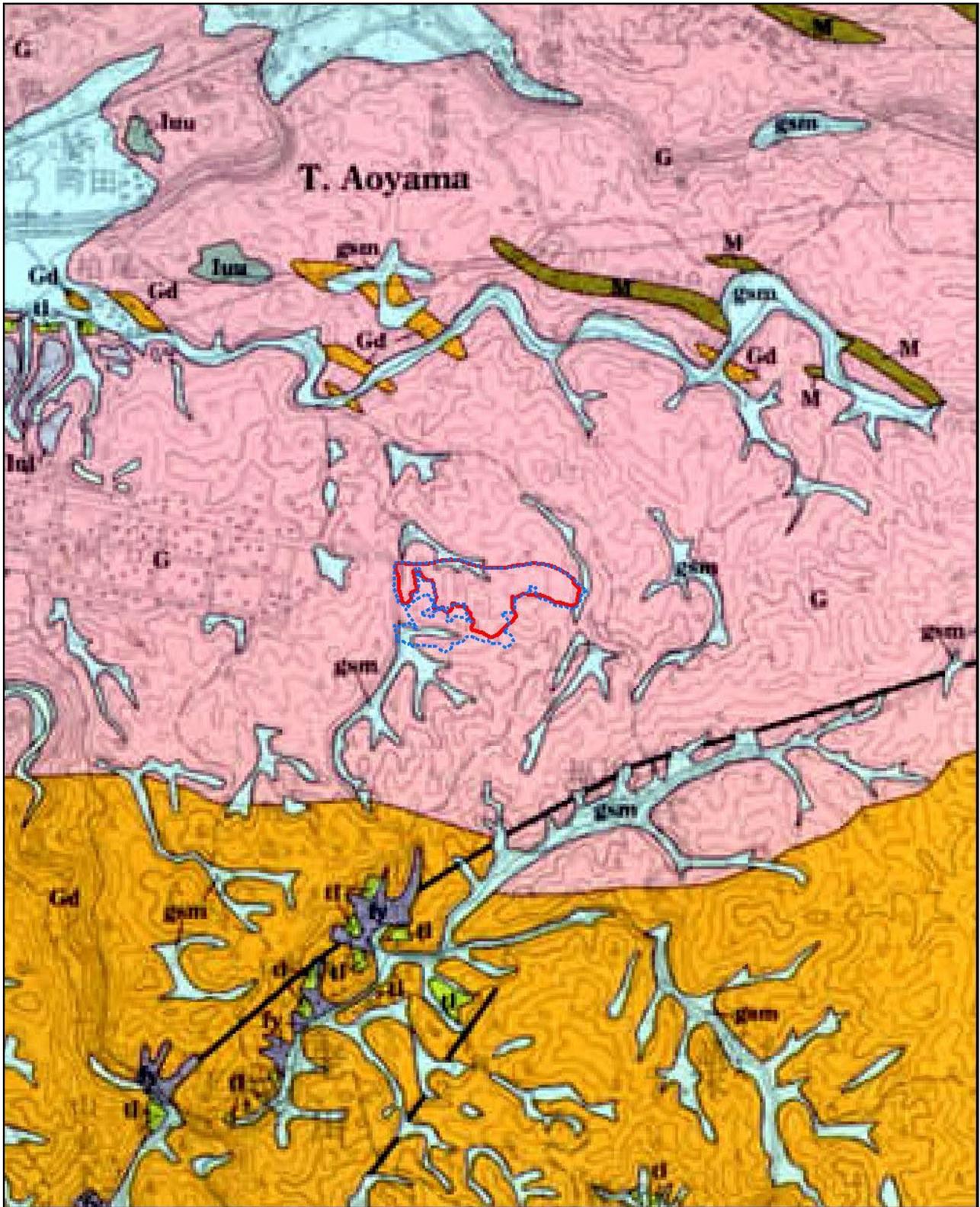
凡 例 LEGEND



 : 準対象事業実施区域内にある地形

出典：「国土数値情報 5万分の1 土地分類基本調査(地形分類図)「水口・上野・名張」三重県」
(国土交通省 HP <https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/tochimizu/F3/data/L/2410L.jpg>) 令和5年10月5日閲覧

図 3.1.4-1(2) 「地形分類図」凡例



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)

出典：「国土数値情報 5万分の1 土地分類基本調査(表層地質図)「水口・上野・名張」三重県」
 (国土交通省HP
<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/tochimizu/F3/data/G/2410G.jpg>
)



0 1 km

1:25,000

図 3.1.4-2(1) 表層地質図

凡 例 Legend

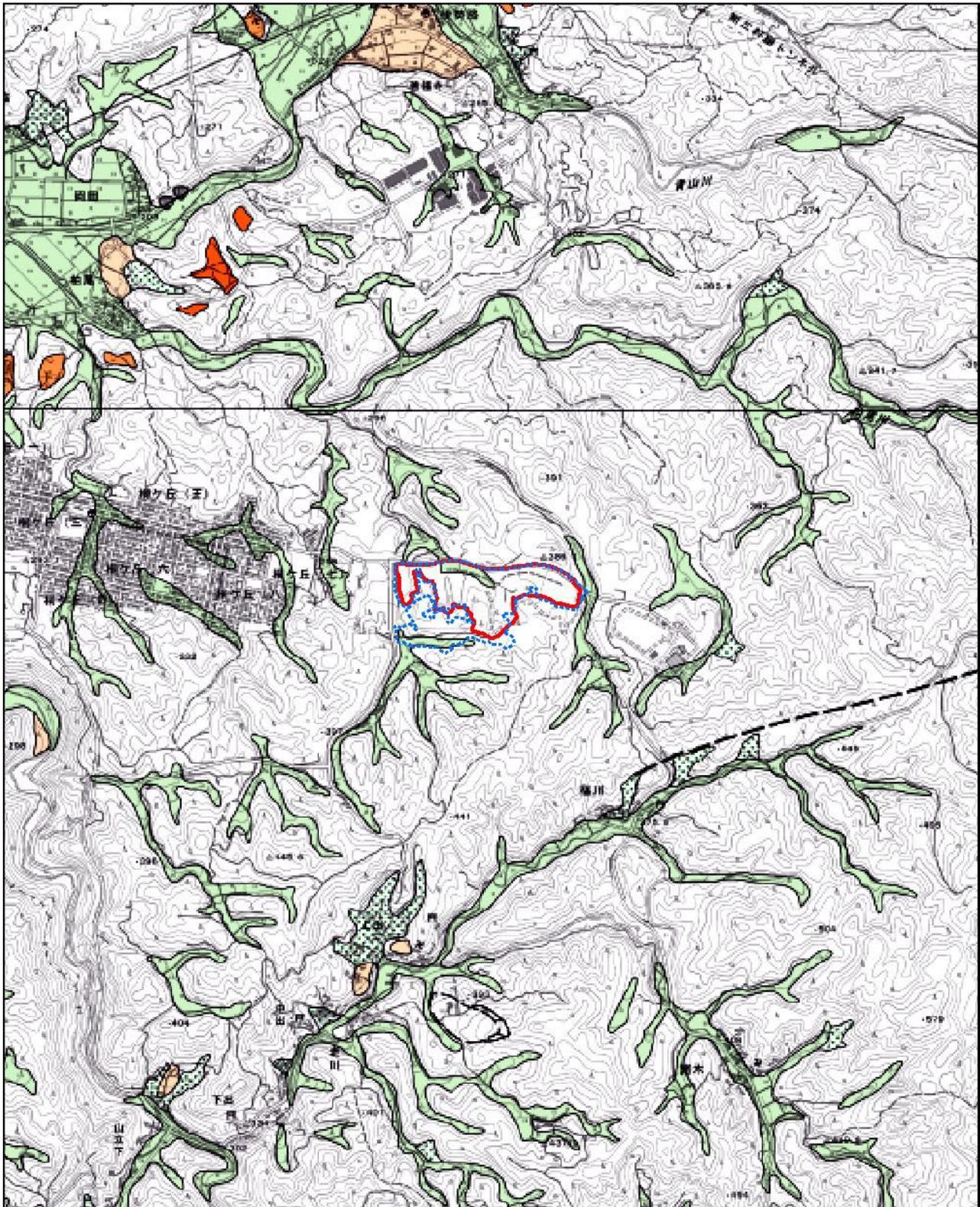
| | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------|
| 未固結堆積物 Unconsolidated sediments | gsm | 礫・砂・泥を主とする堆積物 Gravel, sand and mud sediments | | 完新世 Holocene |
| | fy | 礫を主とする堆積物 Gravel rich sediments | 新期崖錐堆積物 Younger talus deposits | |
| 半固結堆積物 Semi-consolidated sediments | tl | 礫を主とする堆積物 Gravel rich sediments | 低位・中位段丘堆積物 Lower and middle terrace deposits | 更新世 Pleistocene |
| | th | 礫を主とする堆積物 Gravel rich sediments | 高位段丘堆積物 Higher terrace deposits | |
| | fo | 礫を主とする堆積物 Gravel rich sediments | 古期崖錐堆積物 Older talus deposits | 鮮新世 Pliocene |
| | la | 粘土を主とし砂を伴う Clay with sand | 阿山累層 Ayama formation | |
| | li | 礫・砂及び泥 Gravel, sand and mud | 伊賀累層 Iga formation | 中新世 Miocene |
| | luu | 泥及び砂 Mud and sand | 上野累層上部 Upper part of Ueno formation | |
| | lul | 礫及び砂・泥を伴う Gravel and sand with mud | 上野累層下部 Lower part of Ueno formation | |
| | Sm | 流紋岩質火山礫凝灰岩 Rhyolite welded lapilli tuff | 室内火砕流堆積物 Murou pyroclastic flow sediment | 中生代 Mesozoic |
| | So | 礫岩・砂岩及び泥岩 Conglomerate, sandstone and mudstone | 曾爾累層 Soni formation | |
| | Si | 砂岩を主とする堆積物 Sandstone rich sediment | 一志層群下部層 Lower part of Ichishi group | |
| Ym | 泥岩を主とする堆積物 Mudstone rich sediment | 山粕層群上部層 Upper part of Yamagasu group | | |
| Ys | 砂岩を主とする堆積物 Sandstone rich sediment | 山粕層群中部層 Middle part of Yamagasu group | | |
| Ysc | 砂岩及び礫岩 Sandstone and conglomerate | 山粕層群下部層 Lower part of Yamagasu group | | |
| 半固結堆積物および変成岩・火成岩 Semi-consolidated sediments, metamorphic rocks and igneous rocks | G | 花崗岩 Granite | | 中生代 Mesozoic |
| | Gd | 片状花崗閃緑岩及び花崗岩 Foliated granodiolite and granite | 領家深成岩類 Ryōke plutonic rocks | |
| | R | 斑禰岩類 Gabbros | | |
| | M | 黒雲母片麻岩・砂岩泥岩ホルンフェルス Biotite gneiss and hornfels derived from sandstone and mudstone | 領家変成岩 Ryōke metamorphic rocks | |
| | Mch | 珉質片麻岩 Siliceous gneiss | | |

※ 当地質部分は本県内には存在しない。

 : 準対象事業実施区域内にある地質

出典：「国土数値情報 5万分の1 土地分類基本調査(表層地質図)「水口・上野・名張」三重県」
(国土交通省 HP <https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/tochimizu/F3/data/G/2410G.jpg>) 令和5年10月5日閲覧

図 3.1.4-2(2) 「表層地質図」凡例



凡例

 準対象事業実施区域(変更前)

 準対象事業実施区域(変更後)

出典：「地理院地図（電子国土Web）活断層図」

（杉戸信彦・熊原康博・小山拓志・堤浩之(2021) 1:25,000 活断層図「平松」, 国土地理院）

（堤浩之・熊原康博・小山拓志・杉戸信彦・岩佐佳哉(2021) 1:25,000 活断層図「上野」, 国土地理院）

（国土地理院 HP <https://maps.gsi.go.jp>）令和5年10月12日閲覧



0 1 km

1:25,000

図 3.1.4-3(1) 活断層位置図

活断層図(都市圏活断層図)の内容(記号一覧)

| 名称 | 記号 | 定義 |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 推定活断層(地表) (位置やや不明確) | ----- | 推定活断層のうち、位置が不明確なもの。 |
| 上位段丘面 |  |  上位段丘面のうち、相対的に古い時代に離水したと判断されるもの。 |
| | |  上位段丘面のうち、比較的新しい時代に離水したと判断されるもの。 |
| 中位段丘面 |  |  中位段丘面のうち、比較的古い時代に離水したと判断されるもの。 |
| | |  中位段丘面のうち、比較的新しい時代に離水したと判断されるもの。 |
| 下位段丘面 |  |  下位段丘面のうち、比較的古い時代に離水したと判断されるもの。 |
| | |  下位段丘面のうち、比較的新しい時代に離水したと判断されるもの。 |
| 沖積低地 |  | 数千年前から歴史時代にかけて、海または河川の作用で形成された平坦地。 |
| 扇状地・沖積錐 |  | 河川によって形成された、谷口を頂点とし平地に向かって扇状に開く半円錐の地形。小規模で急傾斜なものは沖積錐とよばれることがある。 |

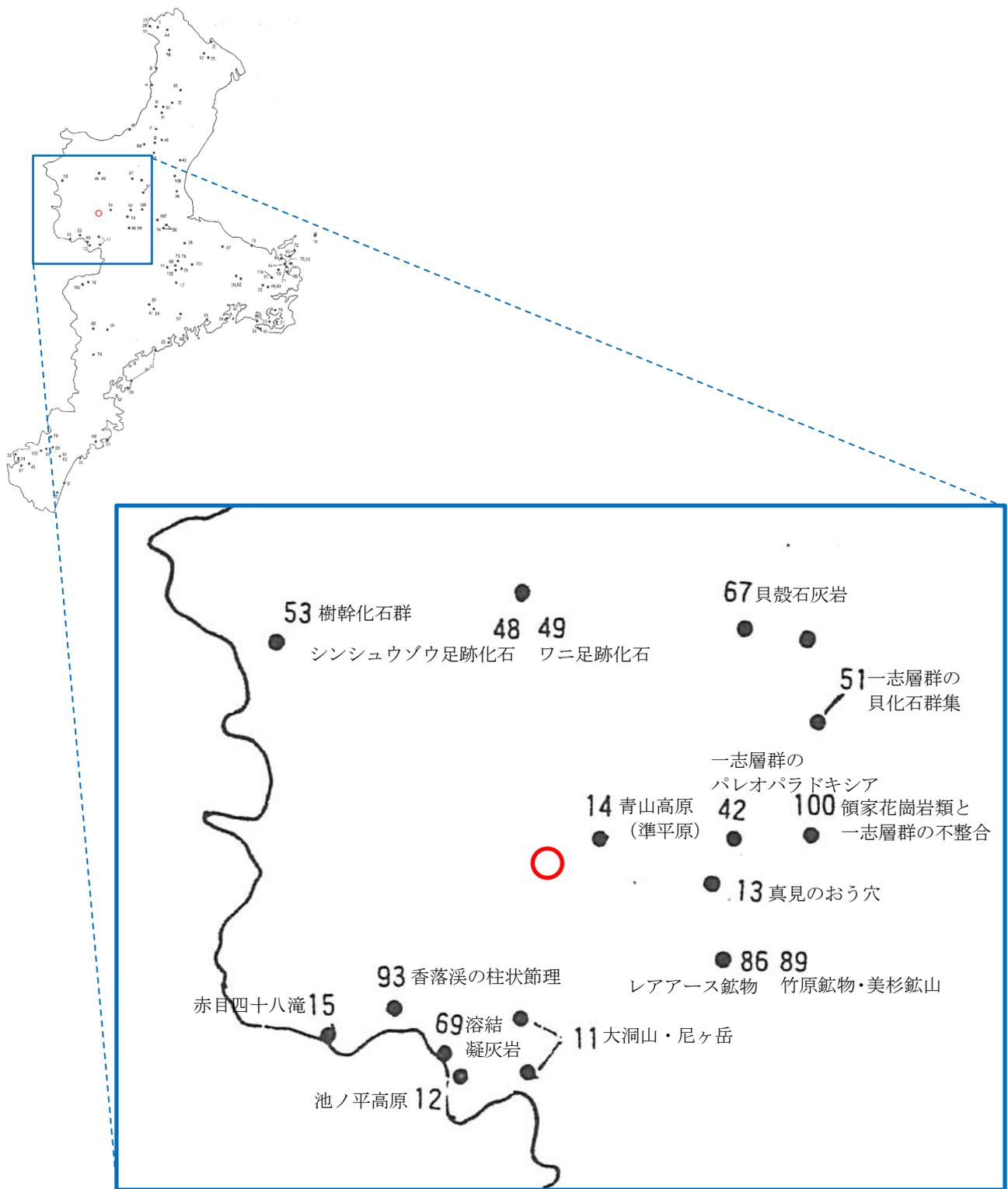
出典：「地理院地図（電子国土Web）活断層図」

（杉戸信彦・熊原康博・小山拓志・堤浩之（2021）1:25,000 活断層図「平松」, 国土地理院）

（堤浩之・熊原康博・小山拓志・杉戸信彦・岩佐佳哉（2021）1:25,000 活断層図「上野」, 国土地理院）

（国土地理院 HP <https://maps.gsi.go.jp>）令和5年10月12日閲覧

図 3.1.4-3(2) 「活断層位置図」凡例



○：準対象事業実施区域

注) 図内の番号は、「三重県の地質鉱物—三重県地質鉱物緊急調査報告書—」におけるコード番号の下3桁を示している。

出典：「三重県の地質鉱物—三重県地質鉱物緊急調査報告書—」（2001年、三重県立博物館）より抜粋、準対象事業実施区域と地点名称を追記

図 3.1.4-4 地質鉱物 天然記念物調査物件位置図

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

準対象事業実施区域及びその周囲の陸生動物、陸生植物、水生生物の生息、生育状況及び生態系の状況を把握するため表 3.1.5-1 に示す文献を整理した。

また、重要な動植物種については表 3.1.5-2 に示す選定基準に基づき抽出した。なお、甲殻類及び藻類については、該当する種が確認されなかった。

表 3.1.5-1 調査に使用した既存文献

| 文献番号 | 文献資料名 | 備考 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 1 | 「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(2015) 三重県農林水産部みどり共生推進課 | 維管束植物、蘚苔類、藻類、菌類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、貝類、昆虫類、クモ類、その他動植物の絶滅危惧種に関する情報 |
| 2 | 「三重県自然環境保全条例」(平成 15 年三重県条例第 2 号) | 三重県に生息する絶滅のおそれのある動植物種に関する情報 |
| 3 | 「伊賀のレッドデータブック ～伊賀の希少動植物～」(2006) 伊賀市環境保全市民会議、伊賀のレッドデータブック作成委員会 | 維管束植物、蘚苔類、藻類、菌類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、貝類、昆虫類、クモ類、その他動植物の絶滅危惧種に関する情報 |
| 4 | 「三重県その自然と動物」(1986) 三重県その自然と動物編集委員会、三重県良書出版会 | 三重県の維管束植物、蘚苔類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類、クモ類、甲殻類、貝類の生息情報 |
| 5 | 「三重の生物：日本生物教育会第 49 回全国大会三重大会記念誌」(1994) 三重生物教育会 | 三重県の維管束植物、蘚苔類、地衣類、菌類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、海産貝類、昆虫類、クモ類の生息情報 |
| 6 | 「三重県におけるコウモリ類の分布記録」(2016) 佐野 明、三重県総合博物館研究紀要 | 三重県のコウモリ類の生息情報 |
| 7 | 「みえ生物誌(維管束植物、貝類、哺乳類・爬虫類・両生類、鳥類、クモ類、昆虫類 I (甲虫)、昆虫類 II (トンボ、チョウ)、昆虫類 III (バッタ、カメムシ他)」(2018) 三重自然誌の会 | 三重県の維管束植物、貝類、哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、クモ類、昆虫類の生息情報 |

表 3.1.5-2 重要な動植物種の選定基準

| 資料略記 | 選定根拠 | カテゴリー |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 天然記念物 | 「文化財保護法」 (昭和 25 年法律第 214 号) 「三重県文化財保護条例」 (昭和 32 年三重県条例第 72 号) 「伊賀市文化財保護条例」 (平成 16 年条例第 271 号) | 国天：天然記念物 |
| | | 特天：特別天然記念物 |
| | | 県天：県の天然記念物 |
| | | 市天：市の天然記念物 |
| 種の保存法 | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号) | 国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 第一国内：特定第一種国内希少野生動植物種 第二国内：特定第二種国内希少野生動植物種 |
| 環境省 RL2020 | 「環境省レッドリスト 2020」 (令和 2 年、環境省報道発表資料) | EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 |
| 三重県 RDB2015 | 「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(平成 27 年、三重県) *)重要な動植物種の選定においては、準対象事業実施区域の位置するメッシュに分布する種を抽出した。 | EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 |
| 三重県条例 | 三重県自然環境保全条例 (平成 15 年三重県条例第 2 号) | 希少：三重県指定希少野生動物種 |
| 伊賀市 RDB2006 | 「伊賀レッドデータブック 2006～伊賀の希少動植物～」(平成 18 年、伊賀市環境保全市民会議) | EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 |
| 近畿 RDB2002 | 「近畿地区・鳥類レッドデータブック—絶滅危惧種判定システムの開発—」 (2002 年、山岸哲) | ランク 1：危機的絶滅危惧 2：絶滅危惧 3：準絶滅危惧 4：要注目 個体群 繁：繁殖個体群 冬：越冬個体群 通：通過個体群 |
| 近畿 RDB2001 | 「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿 2001—」 (2001 年、レッドデータブック近畿研究会) | 絶滅：絶滅種 A：絶滅危惧種 A B：絶滅危惧種 B C：絶滅危惧種 C 準：準絶滅危惧種 |

(1) 陸生動物

(a) 哺乳類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された哺乳類の重要な種は、表 3.1.5-3 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 4 科 5 種の哺乳類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-3 哺乳類の重要な種

| No. | 目と名 | 科と名 | 種と名 | 天然記念物 | 種の保存法 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 既存文献 | | | | | | |
|-----|-----|-----|---------|-------|-------|------------|-------------|--------|-------------|------|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 1 | 齧歯 | リス | ニホンリス | | | | NT | | NT | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| 2 | | | ムササビ | | | | | | EN | | | ○ | | ○ | | ○ |
| 3 | 食肉 | クマ | ツキノワグマ | | 国際 | LP | EN | 希少 | | | ○ | | | | | |
| 4 | | イタチ | ニホンアナグマ | | | | | | DD | | | ○ | | | | ○ |
| 5 | 偶蹄 | ウシ | カモシカ | 特天 | | LP | VU | | | ○ | | | | | | |
| — | 3 目 | 4 科 | 5 種 | 1 種 | 1 種 | 2 種 | 3 種 | 1 種 | 3 種 | — | — | — | — | — | — | — |

注 1) 種のカテゴリ、配列は原則として「世界哺乳類標準和名リスト」(2021 年、日本哺乳類学会)2023 年 9 月 12 日閲覧に準拠した。

注 2) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

注 3) 選定基準及び重要種カテゴリーは表 3.1.5-2 に対応し、以下のとおりである。

なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

天然記念物：「文化財保護法」(昭和 25 年法律 214 号)、「三重県文化財保護条例」(昭和 32 年三重県条例第 72 号)及び「伊賀市文化財保護条例」(平成 16 年条例第 271 号)

特天：特別天然記念物、国天：国指定天然記念物、県天：県の天然記念物、市天：市の天然記念物

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)

国際：国際希少野生動植物種、国内：国内希少野生動植物種、第一国内：特定第一種国内希少野生動植物種、第二国内：特定第二種国内希少野生動植物種

環境省 RL2020：「環境省レッドリスト 2020」(環境省、令和 2 年)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

三重県 RDB2015：「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(平成 27 年、三重県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

三重県条例：「三重県自然環境保全条例」(平成 15 年三重県条例第 2 号) 希少：三重県指定希少野生動植物種

伊賀市 RDB2006：「伊賀レッドデータブック 2006～伊賀の希少動植物～」(平成 18 年、伊賀市環境保全市民会議)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

(b) 鳥類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された鳥類の重要な種は、表 3.1.5-4 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 19 科 45 種の鳥類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-4 鳥類の重要な種

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 天然 記念物 | 種の 保存法 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2002 | 既存文献 | | | | | | | |
|-----|--------|---------|----------|-----------|-----------|---------------|------------------|------------------|----------------|---------------|------|------|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | |
| 1 | キジ | キジ | ウズラ | | | VU | DD | | DD | 1:冬 | ○ | | ○ | ○ | | | | |
| 2 | | | ヤマドリ | | | | NT | | NT | | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 3 | カモ | カモ | オシドリ | | | DD | EN(繁殖) NT(越冬) | | NT | 3:繁 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 4 | | | トモエガモ | | | VU | EN | | | | | | | | | ○ | | |
| 5 | ペリカン | サギ | ミゾゴイ | | | VU | VU | | | 2:繁 | | | | ○ | ○ | | | |
| 6 | | | チュウサギ | | | NT | VU | | VU | 3:繁 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 7 | ツル | クイナ | ヒクイナ | | | NT | VU | | DD | 2:繁 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 8 | ヨタカ | ヨタカ | ヨタカ | | | NT | DD | | DD | 2:繁 | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 9 | チドリ | チドリ | タゲリ | | | | | | DD | 3:冬 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 10 | | | イカルチドリ | | | | | VU | | VU | 3:繁 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 11 | | | コチドリ | | | | | | NT | | 3:繁 | | | | | | ○ | |
| 12 | | | シロチドリ | | | | VU | CR(繁殖) NT(越冬) | 希少 | | 3:繁 | | | | ○ | | ○ | |
| 13 | | | タマシギ | タマシギ | | | VU | NT | | DD | 2:繁 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 14 | タカ | ミサゴ | ミサゴ | | | NT | NT(繁殖) VU(越冬) | | | 2:繁 | | | | | | ○ | | |
| 15 | | タカ | ハチクマ | | | NT | EN | | EN | 2:繁 | | | ○ | | | ○ | | |
| 16 | | | チュウヒ | | 国内 | EN | CR(繁殖) VU(越冬) | | VU | 1:繁 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 17 | | | ハイイロチュウヒ | | | | | VU | | VU | 2:冬 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 18 | | | ハイタカ | | | NT | NT | | VU | VU | 4:繁 | | | ○ | | | ○ | |
| 19 | | | オオタカ | | | NT | VU | | | CR | 3:繁 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 20 | | | サシバ | | | VU | EN | 希少 | | VU | 2:繁 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 21 | | | イヌワシ | 国天 | 国内 | EN | CR | | | DD | 1:繁 | | | ○ | | | ○ | |
| 22 | | | クマタカ | | 国内 | EN | EN | | | CR | 2:繁 | | | ○ | | | ○ | |
| 23 | | | フクロウ | フクロウ | オオコノハズク | | | | | DD | DD | 2:繁 | ○ | | ○ | | | ○ |
| 24 | コノハズク | | | | | | | VU | | DD | 2:繁 | | | ○ | | | | |
| 25 | フクロウ | | | | | | | NT | | NT | 3:繁 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 26 | アオバズク | | | | | | | VU | | NT | 3:繁 | | | ○ | | | ○ | |
| 27 | コミミズク | | | | | | | | | NT | 2:冬 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 28 | ブッポウソウ | カワセミ | アカショウビン | | | | VU | | VU | 2:繁 | | | ○ | | | ○ | | |
| 29 | | | ヤマセミ | | | | NT | | | 3:繁 | ○ | | | | | ○ | | |
| 30 | キツツキ | キツツキ | オオアカゲラ | | | | VU | | EN | 3:繁 | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 31 | | | アオゲラ | | | | | | NT | 3:繁 | | | ○ | | | | ○ | |
| 32 | ハヤブサ | ハヤブサ | チョウゲンボウ | | | | | | NT | 3:冬 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 33 | | | ハヤブサ | | 国内 | VU | CR(繁殖) EN(越冬) | | CR | 3:繁 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 34 | スズメ | サンショウクイ | サンショウクイ | | | VU | VU | | | 3:繁 | | | | | | ○ | | |
| 35 | | | カササギヒタキ | サンコウチョウ | | | | NT | | NT | 3:繁 | | | ○ | | | ○ | |
| 36 | | | キクイタダキ | キクイタダキ | | | | VU | | VU | 3:冬 | | | ○ | ○ | | ○ | |
| 37 | | | ムシクイ | センダイムシクイ | | | | NT | | | 3:繁 | | | | ○ | | ○ | |
| 38 | | | ヒタキ | クロツグミ | | | | | NT | | VU | 3:繁 | | | ○ | | | ○ |
| 39 | | | | エゾビタキ | | | | | | | DD | 3:通 | | | ○ | ○ | | ○ |
| 40 | | | | サメビタキ | | | | | | | DD | | | | ○ | | | ○ |
| 41 | | | | コサメビタキ | | | | | DD | | DD | | ○ | | ○ | | | ○ |
| 42 | | | | キビタキ | | | | | NT | | NT | 3:繁 | | | ○ | | | ○ |
| 43 | | | | オオルリ | | | | | | | NT | 3:繁 | | | ○ | | | ○ |
| 44 | | | | ホオジロ | ノジコ | | | NT | | | DD | 3:繁 | | | ○ | | | |
| 45 | | | クロジ | | | | | | | VU | 3:繁 | | | ○ | | | | ○ |
| — | | | 12 目 | 19 科 | 45 種 | 1 種 | 4 種 | 20 種 | 37 種 | 2 種 | 37 種 | 41 種 | — | — | — | — | — | — |

- 注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応し、以下のとおりである。なお、「天然記念物」、「種の保存法」、「環境省 RL2020」、「三重県 RDB2015」、「三重県条例」、「伊賀市 RDB2006」については表 3.1.5-3 に示したとおりである。
 近畿 RDB2002：「近畿地区・鳥類レッドデータブック—絶滅危惧種判定システムの開発—」（2002 年、山岸哲）
 ランク 1：危機的絶滅危惧、2：絶滅危惧、3：準絶滅危惧、4：要注目
 個体群 繁：繁殖個体群、冬：越冬個体群、通：通過個体群
- 注2) 種の分類、配列は原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年、日本鳥学会）に準拠した。ただし、科名が伊賀のレッドデータブックと扱いが異なる場合には、括弧書きで記載した。
- 注3) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。
- 注4) 「みえ生物誌」において伊賀市で確認されたと記されている種のうち、「三重県 RDB2015」にも掲載されている種は、準対象事業実施区域の位置するメッシュに分布することが確認されていない種についても、重要種として選定とした。

(c) 爬虫類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された爬虫類の重要な種は、表 3.1.5-5 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 4 科 5 種の爬虫類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-5 爬虫類の重要な種

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 伊賀市 RDB2006 | 既存文献 | | | | | | |
|-----|-----|-------|---------|---------------|----------------|----------------|------|---|---|---|---|---|--|
| | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | |
| 1 | カメ | イシガメ | ニホンイシガメ | NT | | NT | | | ○ | | | ○ | |
| 2 | | スッポン | ニホンスッポン | DD | DD | DD | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 3 | 有鱗 | トカゲ | ニホントカゲ | | | DD | | | ○ | | | ○ | |
| 4 | | ナミヘビ | タカチホヘビ | | | DD | | | ○ | | | ○ | |
| 5 | | シロマダラ | | | | DD | | | ○ | | | ○ | |
| — | 2 目 | 4 科 | 5 種 | 2 種 | 1 種 | 5 種 | — | — | — | — | — | — | |

- 注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。
- 注2) 種の分類、配列は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（2023 年 9 月 8 日版、日本爬虫両棲類学会）2023 年 9 月 12 日閲覧に準拠した。
- 注3) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(d) 両生類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された両生類の重要な種は、表 3.1.5-6 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 6 科 15 種の両生類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-6 両生類の重要な種

| No. | 目 and 名 | 科 and 名 | 種 and 名 | 天然 記念物 | 種の 保存法 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | | | |
|-----|---------|---------------|---------------------------|-----------|-----------|---------------|----------------|----------------|------|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | |
| 1 | 有尾 | サンショウ ウオ | ヤマトサンショウウオ ^{注4)} | | 第二 国内 | VU | VU | EN | | | ○ | | | ○ | |
| 2 | | | ヒダサンショウウオ | | | NT | VU | EN | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 3 | | | ハコネサンショウウオ | | | | VU | CR | | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 4 | | オオサンシ ョウウオ | オオサンショウウオ | 特天 | | VU | VU | EN | ○ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 5 | | イモリ | アカハライモリ | | | NT | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 6 | 無尾 | ヒキガエル | ナガレヒキガエル | | | | | EN | | | ○ | | | ○ | |
| 7 | | | ニホンヒキガエル | | | | NT | VU | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 8 | | アカガエル | ナガレタゴガエル | | | | NT | EN | | | ○ | | | | |
| 9 | | | ニホンアカガエル | | | NT | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 10 | | | ヤマアカガエル | | | | | NT | | | ○ | | | ○ | |
| 11 | | | ツチガエル | | | | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 12 | | | ナゴヤダルマガエル ^{注5)} | | | EN | VU | EN | | | ○ | | | | |
| 13 | | | トノサマガエル | | | NT | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 14 | | アオガエル | モリアオガエル | | | | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 15 | | | カジカガエル | | | | | NT | | | ○ | | | | |
| — | | 2 目 | 6 科 | 15 種 | 1 種 | 1 種 | 7 種 | 7 種 | 15 種 | — | — | — | — | — | — |

注 1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注 2) 種の分類、配列は原則として「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2023 年 9 月 8 日版、日本爬虫両棲類学会) 2023 年 9 月 12 日閲覧に準拠した。

注 3) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

注 4) 「カスミサンショウウオ」は「ヤマトサンショウウオ」等の複数種に細分化されることが 2019 年に判明した。各種の分布状況から、三重県で「カスミサンショウウオ」と考えられていた種は「ヤマトサンショウウオ」とみなし、「三重県 RDB2015」及び「伊賀市 RDB2006」において「カスミサンショウウオ」と記載されていた種は「ヤマトサンショウウオ」に集約した。

注 5) 「ダルマガエル」には亜種として「トウキョウダルマガエル」と「ナゴヤダルマガエル」が含まれるが、各種の分布状況から、「三重県 RDB2015」において「ダルマガエル」と記載されていた種は「ナゴヤダルマガエル」に集約した。

(e) 昆虫類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された昆虫類の重要な種は、表 3.1.5-7 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 59 科 150 種の昆虫類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-7 (1) 昆虫類の重要な種

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 天然 記念物 | 種の 保存法 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | | | | | |
|-----|--------|-----------|--------------------|-----------|-----------|---------------|----------------|-----------|----------------|------|----|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | | |
| 1 | トンボ | アオイトトンボ | コバネアオイトトンボ | | | EN | CR | | DD | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 2 | | イトトンボ | ベニイトトンボ | | | NT | VU | | EN | | | ○ | | | | | | |
| 3 | | | モートンイトトンボ | | | NT | VU | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 4 | | | ムスジイトトンボ | | | | | | EN | | | ○ | | | | | | |
| 5 | | | オオイトトンボ | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 6 | | モノサシトンボ | グンバイトンボ | | | | NT | NT | | | | | | | | ○ | | |
| 7 | | カワトンボ | アオハダトンボ | | | | NT | VU | | EN | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 8 | | ムカシトンボ | ムカシトンボ | | | | | NT | | VU | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 9 | | ヤンマ | アオヤンマ | | | | NT | EN | | CR | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 10 | | | オオルリボシヤンマ | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 11 | | | ルリボシヤンマ | | | | | | EN | CR | | | ○ | | | ○ | | |
| 12 | | | コシボソヤンマ | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 13 | | サナエトンボ | ミヤマサナエ | | | | | | | CR | | | ○ | | | | | |
| 14 | | | キイロサナエ | | | | NT | VU | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 15 | | | ヒメクロサナエ | | | | | | NT | EN | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 16 | | | ウチワヤンマ | | | | | | | | VU | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 17 | | | ヒメサナエ | | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | | | |
| 18 | | | オジロサナエ | | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 19 | | | | オオサカサナエ | | | | | VU | CR | | | | | | | ○ | |
| 20 | | | | タバサナエ | | | | | NT | NT | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 21 | | | | フタスジサナエ | | | | | NT | NT | | | | | | ○ | ○ | ○ |
| 22 | | | | コサナエ | | | | | | EN | EN | | | ○ | | | | ○ |
| 23 | | | オグマサナエ | | | | | NT | VU | EN | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 24 | | ムカシヤンマ | ムカシヤンマ | | | | | | NT | EN | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 25 | エゾトンボ | キイロヤマトンボ | | | | NT | VU | | CR | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 26 | | ハネビロエゾトンボ | | | | | VU | CR | CR | | | ○ | | | | ○ | | |
| 27 | | タカネトンボ | | | | | | | | DD | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 28 | | エゾトンボ | | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 29 | トンボ | ベッコウトンボ | | | 国内 | | CR | EX | EW | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 30 | | ヨツボシトンボ | | | | | | | EN | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 31 | | ハッチョウトンボ | | | | | | | | VU | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 32 | | コノシメトンボ | | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 33 | | キトンボ | | | | | | | EN | EN | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 34 | | アキアカネ | | | | | | | NT | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 35 | | ナニワトンボ | | | | | | VU | CR | CR | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 36 | | マダラナニワトンボ | | | | | | EN | CR | CR | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 37 | | ヒメアカネ | | | | | | | | CR | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 38 | | ミヤマアカネ | | | | | | | NT | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 39 | | リスアカネ | | | | | | | | EN | | | ○ | | | ○ | | |
| 40 | | ネキトンボ | | | | | | | | EN | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 41 | ゴキブリ | オオゴキブリ | オオゴキブリ | | | | | | VU | | | ○ | | | | | | |
| 42 | バッタ | ササキリモドキ | クロスジコバネササキ リモドキ | | | | | | NT | | | ○ | | | | | | |
| 43 | | コオロギ | タンボオカメコオロギ | | | | | | VU | VU | | | ○ | | | ○ | | |
| 44 | | バッタ | ダイリフキバッタ | | | | | | EN | NT | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 45 | | | ヒメフキバッタ | | | | | | NT | NT | | | ○ | | | | | |
| 46 | | ヒシバッタ | ノセヒシバッタ | | | | | | NT | | | | | | | | ○ | |
| 47 | カメムシ | グンバイウンカ | ハウチワウンカ | | | | VU | | DD | | | | | | | ○ | | |
| 48 | セミ | セミ | チッチゼミ | | | | | | NT | DD | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 49 | | | ハルゼミ | | | | | | | VU | | | ○ | | | | | |
| 50 | アメンボ | オオアメンボ | | | | | | | NT | | | | | | | ○ | | |
| 51 | イトアメンボ | イトアメンボ | | | | | VU | | EN | | | | | | | ○ | | |

表 3.1.5-7 (2) 昆虫類の重要な種

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 天然 記念物 | 種の 保存法 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | | | | | |
|-----|--------------|--------------|--------------|------------|-----------|---------------|----------------|-----------|----------------|------|----|----|----|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | | |
| 52 | カメムシ | ミズムシ | ホッケミズムシ | | | NT | NT | | | | | | | | ○ | | | |
| 53 | | | オオミズムシ | | | NT | | | VU | | | ○ | | | | | | |
| 54 | | | ナガミズムシ | | | | NT | NT | | | | | | | | ○ | | |
| 55 | | | ミヤケミズムシ | | | | NT | NT | | | | | | | | ○ | | |
| 56 | | | コオイムシ | コオイムシ | | | | NT | NT | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 57 | | | | オオコオイムシ | | | | | | VU | VU | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 58 | | | | タガメ | | | 第二 国内 | | VU | VU | | EN | | | ○ | | | ○ |
| 59 | | | | タイコウチ | ヒメミズカマキリ | | | | | | VU | | NT | | | ○ | | ○ |
| 60 | | | コバンムシ | コバンムシ | | | | 第二 国内 | | EN | CR | | | | ○ | | | |
| 61 | | | アミメカゲ ロウ | ツノトンボ | キバネツノトンボ | | | | | | VU | | | | ○ | | ○ | |
| 62 | オオツノトンボ | | | | | | | | NT | | | CR | ○ | | ○ | ○ | | |
| 63 | シリアゲム シ | ガガンボモドキ | ホシガガンボモドキ | | | | | DD | | | | | ○ | | | | | |
| 64 | トビケラ | シンテイトビケ ラ | シンテイトビケラ | | | | | | CR | | | | | | ○ | | | |
| 65 | | | アシエダトビケ ラ | クチキトビケラ | | | | NT | DD | | | | | | | ○ | | |
| 66 | | | ホソバトビケラ | イトウホソバトビケラ | | | | | | DD | | | | | | | ○ | |
| 67 | | | エグリトビケラ | スジトビケラ | | | | | | CR | | | ○ | | | | | |
| 68 | チョウ | セセリチョウ | ギンイチモンジセセリ | | | | NT | VU | | VU | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 69 | | | ミヤマチャバネセセリ | | | | | | VU | | | | | | | ○ | | |
| 70 | | | シジミチョウ | オオミドリシジミ | | | | | | VU | | | ○ | | | | ○ | |
| 71 | | アカシジミ | | | | | | | | VU | | | | ○ | | | | |
| 72 | | ウラナミアカシジミ | | | | | | | VU | | VU | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 73 | | ミドリシジミ | | | | | | | | VU | | | | ○ | | | | |
| 74 | | クロシジミ | | | | | EN | VU | | | | ○ | | | | ○ | | |
| 75 | | キマダラルリツバメ | | | | | NT | CR | | DD | | | | ○ | | ○ | | |
| 76 | | シルビアシジミ | | | | | EN | CR | | DD | | | | ○ | | ○ | | |
| 77 | | タテハチョウ | ウラギンスジヒョウモン | | | | | VU | EN | | | ○ | | | | ○ | | |
| 78 | | オオムラサキ | オオムラサキ | | | | | NT | NT | | VU | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |
| 79 | | ウラナミジャノメ | | | | | | VU | EN | | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 80 | | アゲハチョウ | ギフチョウ | 市天 | | | | VU | EN | 希少 | CR | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 81 | | シロチョウ | ツマグロキチョウ | | | | | EN | CR | | | ○ | | | | ○ | | |
| 82 | | | スジボソヤマキチョウ | | | | | | | CR | | DD | | | ○ | | ○ | |
| 83 | ハエ | ムシヒキアブ | トラフムシヒキ | | | | | | NT | | | | | | ○ | | | |
| 84 | | | ケンランアリノスアブ | | | | | VU | VU | | DD | ○ | | ○ | | | | |
| 85 | | | ハチモドキハナアブ | | | | | | | DD | | | ○ | | | | ○ | |
| 86 | コウチュウ | オサムシ | クロカタビロオサムシ | | | | | | VU | | | ○ | | | ○ | | | |
| 87 | | | マイマイカブリ | | | | | | | | DD | | | ○ | | | | |
| 88 | | | セアカオサムシ | | | | | NT | EN | | | | | | | ○ | | |
| 89 | | | ヒトツメアオゴミムシ | | | | | NT | VU | | | | | | | ○ | | |
| 90 | | | スナハラゴミムシ | | | | | | VU | DD | | | | | | | ○ | |
| 91 | | | アリスアトキリゴミムシ | | | | | | DD | EN | | | ○ | | | | | |
| 92 | | | ハンミョウ | アイヌハンミョウ | | | | | NT | NT | | | ○ | | | | ○ | |
| 93 | | | | ホソハンミョウ | | | | | | VU | EN | | | | | | ○ | |
| 94 | | | | ナミハンミョウ | | | | | | | | NT | | | | ○ | | |
| 95 | | | ゲンゴロウ | クロゲンゴロウ | | | | | NT | VU | | EN | | | ○ | | ○ | |
| 96 | | ゲンゴロウ | | | | 第二 国内 | | VU | CR | | EN | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 97 | | コガタノゲンゴロウ | | | | | | | VU | CR | | | ○ | | | | ○ | |
| 98 | | マルガタゲンゴロウ | | | | 第二 国内 | | VU | EN | | EN | | | | ○ | | ○ | |
| 99 | | シマゲンゴロウ | | | | | | NT | NT | | | | ○ | | | | ○ | |
| 100 | | マダラシマゲンゴロウ | | | | | | 国内 | CR | CR | | CR | | | ○ | | ○ | |
| 101 | マルケシゲンゴロウ | | | | | | | NT | EN | | | | | | | ○ | | |
| 102 | ケシゲンゴロウ | | | | | | | NT | EN | | | | | | | ○ | | |
| 103 | ヒメケシゲンゴロウ | | | | | | | VU | EN | | | | | | | ○ | | |
| 104 | コウベツブゲンゴロウ | | | | | | | NT | VU | | | | | | | ○ | | |
| 105 | ニセルイスツブゲンゴロウ | | | | | | | | | DD | | | ○ | | | | | |
| 106 | ルイスツブゲンゴロウ | | | | | | VU | EN | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 107 | シャープツブゲンゴロウ | | | | | | NT | CR | | | | | | | ○ | | | |
| 108 | キベリマメゲンゴロウ | | | | | | NT | NT | | | | | | | ○ | | | |
| 109 | オオヒメゲンゴロウ | | | | | | | | | VU | | | ○ | | | | | |
| 110 | ミズスマシ | オオミズスマシ | | | | | NT | EN | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 111 | | ミズスマシ | | | | | | VU | EN | | | | | | | ○ | | |
| 112 | コガシラミズム シ | クロホシコガシラミズムシ | | | | | | VU | EN | | | ○ | | | ○ | | | |
| 113 | | キイロコガシラミズムシ | | | | | | VU | EN | | CR | | | ○ | | ○ | | |
| 114 | | マダラコガシラミズムシ | | | | | | VU | VU | | | | | | | ○ | | |
| 115 | | コガシラミズムシ | | | | | | | | | VU | | | ○ | | | | |

表 3.1.5-7 (3) 昆虫類の重要な種

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 天然 記念物 | 種の 保存法 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | | | |
|-----|------------|-----------|----------------------|-----------|-----------|---------------|----------------|-----------|----------------|------|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | |
| 116 | コウチュウ | ガムシ | スジヒラタガムシ | | | NT | DD | | | | | | | | ○ | |
| 117 | | | コガムシ | | | DD | NT | | | | | | | | | ○ |
| 118 | | | エゾコガムシ | | | NT | EN | | | | | | | | | ○ |
| 119 | | | ガムシ | | | NT | NT | | | | ○ | | | | | ○ |
| 120 | | シデムシ | ヤマトモンシデムシ | | | NT | VU | | | | | | | | | ○ |
| 121 | | クワガタムシ | オオクワガタ | | | VU | CR | | DD | | | ○ | | | | |
| 122 | | | ヒラタクワガタ | | | | | | EN | | | ○ | | | | |
| 123 | | コガネムシ | アカマダラコガネ | | | DD | NT | | | | | | | | | ○ |
| 124 | | | マルツヤマグソコガネ | | | | NT | | | | | | | | | ○ |
| 125 | | | ヤマトエンマコガネ | | | NT | CR | | CR | | | ○ | | | | ○ |
| 126 | | | キョウトアオハナムグリ | | | | | VU | | | | | | | | |
| 127 | | コブスジコガネムシ | ヘリトゲコブスジコガネ | | | | | VU | | | | | | | | ○ |
| 128 | | タマムシ | タマムシ | | | | | | NT | | | ○ | | | | |
| 129 | | | クロコモンタマムシ(ヤノコモンタマムシ) | | | | | VU | | | | | | | | ○ |
| 130 | | | クロマダラタマムシ | | | | | VU | | | | | | | | |
| 131 | | ホタル | ヒメボタル | | | | | | | DD | | | ○ | | | |
| 132 | | ツチハンミョウ | マルクビツチハンミョウ | | | | | EN | | | ○ | | | | | ○ |
| 133 | | アカハネムシ | ヘリハネムシ | | | | | NT | | | | | | | | ○ |
| 134 | | カミキリムシ | ヨコヤマヒゲナガカミキリ | | | | | EN | | | | | | | | ○ |
| 135 | | | クビアカハナカミキリ | | | | | VU | | | | | | | | ○ |
| 136 | | | ヨツボシカミキリ | | | EN | CR | | | | | | | | | ○ |
| 137 | | | モモグロハナカミキリ | | | | | CR | | | | | | | | |
| 138 | | ハムシ | キンイロネクイハムシ | | | NT | CR | | EN | ○ | | ○ | | | | ○ |
| 139 | | | ガガブタネクイハムシ | | | | VU | | | ○ | | | | | | ○ |
| 140 | | | ツヤネクイハムシ | | | | EN | | NT | | | ○ | | | | ○ |
| 141 | | ゾウムシ | カギアシゾウムシ | | | | | DD | | | | | | | | ○ |
| 142 | ババスゲヒメゾウムシ | | | | | | CR | | | | | | | | ○ | |
| 143 | ハチ | コンボウハバチ | ホシアシブトハバチ | | | DD | NT | | | | | | ○ | | ○ | |
| 144 | | | ナシアシブトハバチ | | | | | CR | | | | | | | | ○ |
| 145 | | アリ | ケブカツヤオオアリ | | | DD | DD | | | | | | | | | ○ |
| 146 | | | モリシタカギバラアリ | | | | | DD | | | | | | | | ○ |
| 147 | | スズメバチ | モンズズメバチ | | | DD | NT | | | | | | | | | ○ |
| 148 | | ドロバチモドキ | ニッポンハナダカバチ | | | VU | EN | | | ○ | | | | | | ○ |
| 149 | | アナバチ | フクイアナバチ | | | NT | DD | | | | | | | | | ○ |
| 150 | | ミツバチ | クロマルハナバチ | | | NT | NT | | | | | | | | | ○ |
| — | 11 目 | 59 科 | 150 種 | 1 種 | 6 種 | 77 種 | 119 種 | 1 種 | 75 種 | — | — | — | — | — | — | |

注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。
 注2) 種の種類、配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省) 2023年9月14日閲覧に準拠した。
 注3) 「みえ生物誌」において伊賀市で確認されたと記されている種のうち、「三重県 RDB2015」にも掲載されている種は、準対象事業実施区域の位置するメッシュに分布することが確認されていない種についても、重要種として選定とした。
 注4) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(f) クモ類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認されたクモ類の重要な種は、表 3.1.5-8 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 12 科 17 種のクモ類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-8 クモ類の重要な種

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | | | | |
|-----|-----|--------|-----------|---------------|----------------|----------------|------|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | |
| 1 | クモ | ジグモ | ワスレナグモ | NT | NT | | | | | | | | | ○ |
| 2 | | トタテグモ | キノボリトタテグモ | NT | NT | | | | | | | | | ○ |
| 3 | | ヤマシログモ | ユカタヤマシログモ | | | DD | | | ○ | | | | | |
| 4 | | ホラヒメグモ | ヤマトホラヒメグモ | | VU | | ○ | | | | | | | |
| 5 | | コガネグモ | キジロオヒキグモ | | DD | | | | | | | | | ○ |
| 6 | | | ニシキオニグモ | | DD | | | | | | | | | ○ |
| 7 | | | オニグモ | | NT | | | ○ | | | | | | ○ |
| 8 | | | コガネグモ | | NT | | | ○ | | | | | | ○ |
| 9 | | | トゲグモ | | VU | | | | | | | | | ○ |
| 10 | | | ナカムラオニグモ | | | | NT | | | ○ | | | | |
| 11 | | コモリグモ | イサゴコモリグモ | | NT | | | | | | | | | ○ |
| 12 | | サシアシグモ | シノビグモ | | NT | VU | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| 13 | | ネコグモ | オビジガバチグモ | | DD | | | | | | | | | ○ |
| 14 | | イヅツグモ | ナガイヅツグモ | | DD | | | | | | | | | ○ |
| 15 | | アワセグモ | アワセグモ | | NT | | | ○ | | | | | | ○ |
| 16 | | カニグモ | アシナガカニグモ | | NT | | | ○ | | | | | | ○ |
| 17 | | イトグモ | イトグモ | | | | DD | | | ○ | | | | |
| — | 1 目 | 12 科 | 17 種 | 2 種 | 14 種 | 4 種 | — | — | — | — | — | — | — | |

注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注2) 種の分類、配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省) 2023年9月14日閲覧に準拠した。

注3) 「みえ生物誌」において伊賀市で確認されたと記されている種のうち、「三重県 RDB2015」にも掲載されている種は、準対象事業実施区域の位置するメッシュに分布することが確認されていない種についても、重要種として選定とした。

注4) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5 1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(g) 淡水貝類・陸産貝類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された淡水貝類・陸産貝類の重要な種は、表 3.1.5-9 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 10 科 14 種の淡水貝類・陸産貝類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-9 淡水貝類・陸産貝類の重要な種

| No. | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | | | |
|-----|----------|-------------|---------------|----------------|----------------|------|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | |
| 1 | タニシ | マルタニシ | VU | VU | NT | | | ○ | | | | ○ |
| 2 | | オオタニシ | NT | | NT | | | ○ | | | | ○ |
| 3 | カワニナ | クロダカワニナ | NT | NT | VU | | | ○ | | | | |
| 4 | モノアラガイ | モノアラガイ | NT | NT | VU | ○ | | ○ | | | | ○ |
| 5 | オカモノアラガイ | ナガオカモノアラガイ | NT | NT | | | | | | | | ○ |
| 6 | キセルガイ | ハゲギセル | | NT | | | | | | | | ○ |
| 7 | シタラ | スジキビ | NT | NT | | | | | | | | ○ |
| 8 | ナンバンマイマイ | シメクチマイマイ | | NT | | | | | | | | ○ |
| 9 | オナジマイマイ | クチマ加里マイマイ | NT | NT | | | | | | | | ○ |
| 10 | | イブキクロイワマイマイ | | NT | | | | | | | | ○ |
| 11 | イシガイ | ドブガイ | | | NT | | | ○ | | | | |
| 12 | | マツカサガイ | NT | | DD | | | ○ | | | | |
| 13 | | トンガリササノハガイ | | | VU | | | ○ | | | | |
| 14 | ドブシジミ | ドブシジミ | | NT | DD | | | ○ | | | | ○ |
| — | 10 科 | 14 種 | 8 種 | 10 種 | 8 種 | — | — | — | — | — | — | — |

注 1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注 2) 「みえ生物誌」において伊賀市で確認されたと記されている種のうち、「三重県 RDB2015」にも掲載されている種は、準対象事業実施区域の位置するメッシュに分布することが確認されていない種についても、重要種として選定とした。

注 3) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5 1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(2) 陸生植物

(a) 維管束植物類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された維管束植物類の重要な種は、表 3.1.5-10 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 90 科 316 種の維管束植物類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-10(1) 維管束植物類の重要な種

| No. | 分類群名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2001 | 既存資料 | | | | | | | | |
|-----|------|----------|------------|---------------|----------------|-----------|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | | |
| 1 | シダ植物 | マツバラシ | マツバラシ | NT | VU | | CR | 準 | | | ○ | | | | ○ | | |
| 2 | | ヒカゲノカズラ | アスヒカズラ | | CR | | | A | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 3 | | | スギラン | VU | VU | | | B | | | | | | | ○ | | |
| 4 | | | ヤチスギラン | | EN | | EN | A | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 5 | | ミズニラ | ミズニラ | NT | VU | | CR | C | | | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 6 | | ハナヤスリ | コヒロハハナヤスリ | | | | | CR | | | ○ | | | | | | |
| 7 | | | ハマハナヤスリ | | EN | | | B | | | | | | | | ○ | |
| 8 | | | ヒロハハナヤスリ | | EN | | CR | C | | | ○ | | | | | ○ | |
| 9 | | コケシノブ | コケシノブ | | VU | | EN | 準 | | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| 10 | | ミズワラビ | ミズワラビ | | | | EN | 準 | | | ○ | | | | | | |
| 11 | | シシラン | タキミシダ | EN | CR | | CR | A | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 12 | | | ナカミシシラン | | EN | | EW | C | | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| 13 | | イノモトソウ | アマクサシダ | | | | DD | | | | ○ | | | | | | |
| 14 | | チャセンシダ | カミガモシダ | | EN | | EN | B | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 15 | | | オクタマシダ | VU | EN | | DD | C | | | ○ | | | | | | |
| 16 | | オンダ | シノブカグマ | | | | NT | | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 17 | | | メヤブソテツ | | EX | | CR | 準 | | | ○ | | | | | | |
| 18 | | | ツクシイワヘゴ | | EN | | DD | A | | | ○ | | | | | ○ | |
| 19 | | | オンダ | | NT | | | | | | | | | | | | ○ |
| 20 | | | タニヘゴ | | VU | | EN | C | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 21 | | | イワイタチシダ | | VU | | | 準 | | | | | | | | | ○ |
| 22 | | | チャボイノデ | | VU | | VU | C | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| 23 | | | オニイノデ | VU | VU | | EN | 準 | ○ | | | ○ | | | | | ○ |
| 24 | | ホソバナライシダ | | | | | EN | | | | ○ | | | | | | |
| 25 | | ヒメシダ | ホソバショリマ | | CR | | CR | B | | | ○ | ○ | | | | ○ | |
| 26 | | メシダ | ウラボシノコギリシダ | | | | VU | | | | ○ | | | | | | |
| 27 | | | フモトシケンシダ | | NT | | | 準 | | | | | | | | ○ | |
| 28 | | | イワヤシダ | | VU | | EN | 準 | | | ○ | | | | | | |
| 29 | | | シロヤマシダ | | | | VU | | | | | ○ | | | | | |
| 30 | | イワデンダ | ムクゲシケンシダ | | VU | | | 準 | | | | | | | | ○ | |
| 31 | | ウラボシ | クラガリシダ | EN | EX | | DD | A | | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 32 | | | ホテイシダ | | NT | | DD | | ○ | | ○ | | | | | | |
| 33 | | | アオネカズラ | | | | CR | C | | | | ○ | ○ | | | | |
| 34 | | ヒメウラボシ | オオクボシダ | | | | EN | A | | | ○ | | | | | | |
| 35 | | デンジソウ | デンジソウ | VU | EN | | EW | B | | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 36 | | サンショウモ | サンショウモ | VU | VU | | CR | C | | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 37 | | アカウキクサ | オオアカウキクサ | EN | NT | | CR | 準 | | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| 38 | 裸子植物 | スギ | コウヤマキ | | | | EW | | | | ○ | | | | | | |
| 39 | 種子植物 | イチイ | イチイ | | EN | | | | | | | | | | ○ | | |
| 40 | | ヤナギ | キヌヤナギ | | VU | | | | | | | | | | | ○ | |
| 41 | | | ヤマヤナギ | | CR | | | | | | | | | | | ○ | |
| 42 | | カバノキ | サクラバハハノキ | NT | NT | | VU | C | | | | ○ | | | | ○ | |
| 43 | | ブナ | イヌブナ | | NT | | | | | | | | | | | ○ | |
| 44 | | | シリブカガシ | | VU | | CR | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 45 | | | イチイガシ | | | | | EN | | | | | ○ | | | | |
| 46 | | ニレ | オヒョウ | | EN | | | | | | | | | | | ○ | |

表 3.1.5-10(2) 維管束植物類の重要な種

| No. | 分類群名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2001 | 既存資料 | | | | | | | |
|-----|------|---------|-------------|---------------|----------------|-----------|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | |
| 47 | 種子植物 | タデ | ヤナギヌカボ | VU | EN | | | C | | | | | | ○ | | |
| 48 | | | サデクサ | | | VU | | | C | | | | | | ○ | |
| 49 | | | ヌカボタデ | VU | VU | | | | C | | | | | | ○ | |
| 50 | | | マダイオウ | | EN | | | | A | ○ | | | | | ○ | |
| 51 | | ナデシコ | カワラナデシコ | | | | | VU | | | ○ | | | | | |
| 52 | | | フシグロセンノウ | | | | | DD | | | ○ | | | | | |
| 53 | | | ワチガイソウ | | | VU | | | | | | | | | ○ | |
| 54 | | ヒユ | ヤナギイノコヅチ | | | NT | | | | | | | | | ○ | |
| 55 | | モクレン | コブシ | | | VU | | DD | C | | | ○ | | | | |
| 56 | | | タムシバ | | | | | VU | | | | ○ | ○ | | | |
| 57 | | キンボウゲ | フクジュソウ | | | VU | | CR | C | | | ○ | | | | |
| 58 | | | ヒメイチゲ | | | EN | | | | C | | | | | ○ | |
| 59 | | | ニリンソウ | | | | | EN | | | | ○ | | | | |
| 60 | | | ユキワリイチゲ | | | NT | | EN | | | | ○ | | | ○ | |
| 61 | | | イチリンソウ | | | NT | | EN | | | | ○ | | | ○ | |
| 62 | | | キクザキイチゲ | | | VU | | CR | | | | ○ | | | ○ | |
| 63 | | | カザグルマ | NT | EN | | | | | C | | | | | ○ | |
| 64 | | | トリガタハンショウヅル | | | NT | | | | | | | | | | ○ |
| 65 | | | トウゴクサバノオ | | | NT | | | | | | | | | | ○ |
| 66 | | | オキナグサ | VU | CR | | | | EW | A | | | ○ | | | ○ |
| 67 | | | セツブンソウ | NT | EN | | | | CR | A | | | ○ | | | ○ |
| 68 | | | シコクフクジュソウ | VU | CR | | | | | | | | | | | ○ |
| 69 | | | メギ | ヘビノボラズ | | | NT | | | C | ○ | | | | | ○ |
| 70 | | スイレン | ジュンサイ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 71 | | | コウホネ | | | | | EN | | | | ○ | | | | |
| 72 | | | ヒメコウホネ | VU | VU | | | | | C | | | | | | ○ |
| 73 | | マツモ | マツモ | | | NT | | | | | | | | | ○ | |
| 74 | | ウマノスズクサ | ミヤコアオイ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 75 | | | ヒメカンアオイ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 76 | | ボタン | ヤマシャクヤク | NT | VU | | | | C | | | | | | ○ | |
| 77 | | オトギリソウ | アゼオトギリ | EN | CR | 希少 | | | A | ○ | ○ | | | | ○ | |
| 78 | | モウセンゴケ | イシモチソウ | NT | VU | | | VU | C | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 79 | | | モウセンゴケ | | | NT | | NT | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | |
| 80 | | | コモウセンゴケ | | | VU | | CR | 準 | | | ○ | | | ○ | |
| 81 | | | トウカイコモウセンゴケ | | | NT | | EN | C | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 82 | | ケシ | ヤマブキソウ | | | EN | | DD | | | | ○ | | | | |
| 83 | | アブラナ | ミツバコンロンソウ | | | EN | | | C | | | | | | ○ | |
| 84 | | | ミズタガラシ | | | NT | | | | | | | | | ○ | |
| 85 | | | コイヌガラシ | NT | EN | | | | | C | | | | | | ○ |
| 86 | | マンサク | マルバノキ | | | CR | | CR | A | | | ○ | | | ○ | |
| 87 | | ユキノシタ | チャルメルソウ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 88 | | | ウメバチソウ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 89 | | | タコノアシ | NT | VU | | | EN | C | | | ○ | | | ○ | |
| 90 | | | ヤブサンザシ | | | VU | | | | | | | | | | ○ |
| 91 | | バラ | ヤマブキショウマ | | | EN | | | | | | | | | ○ | |
| 92 | | | ヒメヘビイチゴ | | | VU | | | | | | | | | | ○ |
| 93 | | | カワラサイコ | | | VU | | | | A | | | | | | ○ |
| 94 | | | イワキンバイ | | | EN | | | | 準 | | | | | | ○ |
| 95 | | | ツルキンバイ | | | NT | | | | | | | | | | ○ |
| 96 | | | マメナシ | EN | EN | 希少 | | | | B | | | | | | ○ |
| 97 | | | ミヤマニガイチゴ | | | VU | | | | | | | | | | ○ |
| 98 | | シモツケ | | | DD | | | | 準 | | | | | | ○ | |
| 99 | | マメ | タヌキマメ | | | | | VU | C | | | ○ | | | | |
| 100 | | | ニワフジ | | | NT | | | | | | | | | | ○ |
| 101 | | | イヌハギ | VU | CR | | | | | A | | | | | | ○ |
| 102 | | | マキエハギ | | | EN | | | | C | ○ | | | | | ○ |
| 103 | | | ツルフジバカマ | | | EN | | | | A | | | | | | ○ |
| 104 | | | オオバクサフジ | | | CR | | | DD | C | | | ○ | | | ○ |
| 105 | | ヒメハギ | カキノハグサ | | | EN | | CR | 準 | | | ○ | | | ○ | |
| 106 | | | ヒナノカンザシ | | | VU | | EN | B | ○ | | ○ | | | | ○ |
| 107 | | ツリフネソウ | ハガクレツリフネ | | | VU | | | | | | | | | ○ | |

表 3.1.5-10(3) 維管束植物類の重要な種

| No. | 分類群名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2001 | 既存資料 | | | | | | | |
|-----|----------|---------|-------------|---------------|----------------|-----------|----------------|---------------|------|----|----|----|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | |
| 108 | 種子植物 | モチノキ | ミヤマウメモドキ | | | | | C | | | | | | | ○ | |
| 109 | | スマレ | サクラスマレ | | | | CR | C | | | ○ | | | | ○ | |
| 110 | | | アケボノスマレ | | | | | | A | | | | | | ○ | |
| 111 | | ウリ | ゴキヅル | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 112 | | ミソハギ | ヒメミソハギ | | | | | | C | | | | | | ○ | |
| 113 | | | ミズキカシグサ | VU | VU | | | | A | ○ | | | | | ○ | |
| 114 | | | ミズマツバ | VU | NT | | | | | C | ○ | | | | | ○ |
| 115 | | アリノトウグサ | ホザキノフサモ | | | | | | VU | | | | | | ○ | |
| 116 | | | タチモ | NT | VU | | | | C | | | | | | ○ | |
| 117 | | | フサモ | | | | | | | VU | | | | | ○ | |
| 118 | | ヤマトグサ | ヤマトグサ | | | | | | EN | | | | | | ○ | |
| 119 | | セリ | ドクゼリ | | | | | CR | C | | | ○ | | | ○ | |
| 120 | | | ハナウド | | | | | | VU | | ○ | | | | ○ | |
| 121 | | | イブキボウフウ | | | | | | | NT | | | | | ○ | |
| 122 | | イワウメ | オオイワカガミ | | | | | | VU | | | ○ | | | ○ | |
| 123 | | | イワウチワ | | | | | | | VU | | | | | ○ | |
| 124 | | イチヤクソウ | ウメガサソウ | | | | | | NT | | | | | | ○ | |
| 125 | | | マルバノイチヤクソウ | | | | | | | DD | | | | | ○ | |
| 126 | | ツツジ | イワナン | | | | | EN | NT | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 127 | | | アケボノツツジ | | | | | | EN | | | | | | ○ | |
| 128 | | | アカヤシオ | | | | | | | NT | | | | | ○ | |
| 129 | | | トウゴクミツバツツジ | | | | | | | VU | | | | | ○ | |
| 130 | | ヤブコウジ | カラタチバナ | | | | | | NT | | | | | | ○ | |
| 131 | | サクラソウ | クサレダマ | | | | | | EN | | | | | | ○ | |
| 132 | | | クリソウ | | | | | | | EN | | EN | C | | ○ | |
| 133 | | ハイノキ | クロミノニシゴリ | | | | | | NT | | | | | | ○ | |
| 134 | | マチン | ヒメナエ | VU | | | | | EN | | | | | | ○ | |
| 135 | | | アイナエ | | | | | | | VU | | EN | C | ○ | | ○ |
| 136 | | リンドウ | コケリンドウ | | | | | | CR | | | | | | ○ | |
| 137 | | | ハルリンドウ | | | | | | | NT | | NT | ○ | | ○ | |
| 138 | | | イヌセンブリ | | | | | | | VU | VU | EN | C | ○ | | ○ |
| 139 | | | センブリ | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 140 | | ミツガシワ | ミツガシワ | | | | | | CR | | CR | A | | ○ | ○ | |
| 141 | | | ガガブタ | NT | | | | | | VU | | | A | | | ○ |
| 142 | | キョウチクトウ | チョウジソウ | NT | | | | | VU | | | C | | | ○ | |
| 143 | | | ケテイカカズラ | | | | | | | EN | | | 準 | | | ○ |
| 144 | | ガガイモ | フナバラソウ | VU | | | | | EN | | | C | ○ | | ○ | |
| 145 | | | タチカモメヅル | | | | | | | NT | | | C | ○ | | ○ |
| 146 | | | スズサイコ | NT | | | | | | VU | | EN | C | ○ | | ○ |
| 147 | | ヒルガオ | マメダオシ | CR | | | | | CR | | | | | | ○ | |
| 148 | | ムラサキ | ホタルカズラ | | | | | | VU | | | | | | ○ | |
| 149 | | クマツヅラ | コムラサキ | | | | | | VU | | | C | | | ○ | |
| 150 | | | クマツヅラ | | | | | | | VU | | | | | | ○ |
| 151 | | シソ | カワミドリ | | | | | | EN | | | | | | ○ | |
| 152 | | | ミズトラノオ | VU | | | | | | VU | | EN | A | | ○ | |
| 153 | | | マネキグサ | NT | | | | | | VU | | | 準 | | | ○ |
| 154 | | | ヤマジソ | NT | | | | | | CR | | | B | | | ○ |
| 155 | | | ウスギナツノタムラソウ | | | | | | | NT | | | | | | ○ |
| 156 | | | ミゾコウジュ | NT | | | | | | VU | | | C | | | ○ |
| 157 | | | ヤマジノタツナミソウ | | | | | | | VU | | | C | ○ | | ○ |
| 158 | ヒメナミキ | | | | | | | | NT | | | C | | | ○ | |
| 159 | タツナミソウ | | | | | | | | | | NT | | | ○ | | |
| 160 | イガタツナミ | | | | | | | | VU | | CR | 準 | | ○ | ○ | |
| 161 | シソバタツナミ | | | | | | | | | | VU | | | ○ | | |
| 162 | ヤマタツナミソウ | | | | | | | | VU | | | A | | | ○ | |
| 163 | ミヤマナミキ | | | | | | | | VU | | | 準 | | | ○ | |
| 164 | ナス | ヤマホオズキ | | | | | | EN | | | DD | A | | ○ | | |
| 165 | ゴマノハグサ | ゴマクサ | VU | | | | | VU | | | EN | A | | | ○ | |
| 166 | | オオアブノメ | | | | | | | EN | | | A | ○ | | | |
| 167 | | クチナシグサ | | | | | | | VU | | | | | | ○ | |
| 168 | | シオガマギク | | | | | | | EN | | | | ○ | | ○ | |
| 169 | | コシオガマ | | | | | | | VU | | | | ○ | | ○ | |
| 170 | | ヒキヨモギ | | | | | | | VU | | | | C | | ○ | |

表 3.1.5-10(4) 維管束植物類の重要な種

| No. | 分類群名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2001 | 既存資料 | | | | | | | |
|-----|----------|---------------|------------|---------------|----------------|-----------|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | |
| 171 | 種子植物 | ゴマノハグサ | オオヒキヨモギ | VU | NT | | | 準 | | | | | | | ○ | |
| 172 | | | クワガタソウ | | | VU | | | 準 | ○ | | | | | | ○ |
| 173 | | | イヌノフグリ | VU | NT | | | | | 準 | | | | | | ○ |
| 174 | | タヌキモ | ノタヌキモ | VU | VU | | | DD | | | | ○ | | | | |
| 175 | | | タヌキモ | NT | | | | VU | A | | | ○ | | | | |
| 176 | | | ミミカキグサ | | | | | VU | | | | ○ | ○ | | | |
| 177 | | | ホザキノミミカキグサ | | | | | VU | | | | ○ | | | | |
| 178 | | | フサタヌキモ | EN | CR | | | | | A | | | | | | ○ |
| 179 | | | ミカワタヌキモ | VU | EN | | | | CR | A | | | ○ | | | ○ |
| 180 | | | ヒメタヌキモ | NT | VU | | | | EN | A | | | ○ | | | ○ |
| 181 | | | イヌタヌキモ | NT | | | | | DD | | | | ○ | | | |
| 182 | | | ムラサキミミカキグサ | NT | VU | | | | EN | C | ○ | | ○ | | | ○ |
| 183 | | | オオバコ | トウオオバコ | | | DD | | | | | | | | | ○ |
| 184 | | スイカズラ | カンボク | | | EN | | | | | | | | | ○ | |
| 185 | | レンプクソウ | レンプクソウ | | | VU | | | | | | | | | ○ | |
| 186 | | オミナエシ | オミナエシ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 187 | | | カノコソウ | | | CR | | | C | | | | | | ○ | |
| 188 | | マツムシソウ | マツムシソウ | | | CR | | EN | A | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 189 | | キキョウ | バアソブ | VU | CR | | | DD | A | | | ○ | | | | |
| 190 | | | サワギキョウ | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 191 | | | キキョウ | VU | NT | | | NT | C | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 192 | | キク | テイショウソウ | | | NT | | | | | | | | | ○ | |
| 193 | | | ホソバノヤマハハコ | | | VU | | | | | | | | | ○ | |
| 194 | | | カワラハハコ | | | VU | | | | B | | | | | ○ | |
| 195 | | | サワシロギク | | | NT | | | | C | | | | | ○ | |
| 196 | | | オケラ | | | VU | | | | C | | | | | ○ | |
| 197 | | | ワタムキアザミ | VU | NT | | | | | C | | | | | ○ | |
| 198 | フジバカマ | | NT | CR | | | CR | | A | | | ○ | | ○ | | |
| 199 | アキノハハコグサ | | EN | CR | | | | | A | | | | | ○ | | |
| 200 | ヤマジノギク | | | EN | | | | | | ○ | | | | ○ | | |
| 201 | スイラン | | | | | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 202 | オグルマ | | | | NT | | | | C | | | | | ○ | | |
| 203 | ノニガナ | | | | VU | | | | | | | | | ○ | | |
| 204 | ミヤマヨメナ | | | | VU | | | | | | | | | ○ | | |
| 205 | ミヤコアザミ | | | | EN | | | CR | A | | | ○ | | ○ | | |
| 206 | オカオグルマ | | | | NT | | | VU | C | | | ○ | | ○ | | |
| 207 | サワオグルマ | | | | EN | | | EN | | | | ○ | | ○ | | |
| 208 | オモダカ | | ヘラオモダカ | | | | | EN | | | | ○ | | | | |
| 209 | | アギナシ | NT | NT | | | VU | A | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 210 | トチカガミ | スブタ | VU | VU | | | CR | A | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| 211 | | トチカガミ | NT | EN | | | | C | | | | | | ○ | | |
| 212 | | ミズオオバコ | VU | VU | | | VU | | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 213 | ヒルムシロ | コバノヒルムシロ | VU | EN | | | | A | | | | | | ○ | | |
| 214 | | イトモ | NT | VU | | | | A | | | | | | ○ | | |
| 215 | イバラモ | イトトリゲモ | NT | EN | | | | A | | | | | | ○ | | |
| 216 | | オオトリゲモ | | | EN | | | | A | | | | | ○ | | |
| 217 | ユリ | ヤマラッキョウ | | | | | DD | | | | ○ | | | | | |
| 218 | | シライトソウ | | | | | NT | | | | ○ | | | | | |
| 219 | | カタクリ | | | NT | | | | | | | | | ○ | | |
| 220 | | キバナノアマナ | | | CR | | | | C | | | | | ○ | | |
| 221 | | シロバナショウジョウバカマ | | | | | | EN | | | | ○ | | | | |
| 222 | | ノカンゾウ | | | NT | | | NT | | | | ○ | | | | |
| 223 | | ユウスゲ | | | EN | | | | | | | | | ○ | | |
| 224 | | ミズギボウシ | | | | | | NT | C | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 225 | | ササユリ | | | NT | | | NT | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 226 | | イワショウブ | | | VU | | | EN | A | | | ○ | | ○ | | |
| 227 | | ヤマジノホトトギス | | | | | | VU | | | | ○ | | | | |
| 228 | | ヤマホトトギス | | | | | | VU | | | | ○ | | | | |
| 229 | | アマナ | | | | | | EN | | | | ○ | | | | |
| 230 | ミズアオイ | ミズアオイ | NT | CR | | | | A | | | | | ○ | | | |
| 231 | アヤメ | ノハナショウブ | | | VU | | CR | C | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 232 | ホシクサ | クロイヌノヒゲ | NT | EN | | | | A | | | | | ○ | | | |

表 3.1.5-10(5) 維管束植物類の重要な種

| No. | 分類群名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2001 | 既存資料 | | | | | | | | |
|-----|-----------|------------|------------|---------------|----------------|-----------|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | | |
| 233 | 種子植物 | ホシクサ | ヤマトホシクサ | VU | EN | | | | ○ | | | | | | ○ | | |
| 234 | | | ツクシクロイヌノヒゲ | VU | CR | | | | C | | | | | | | ○ | |
| 235 | | | クロホシクサ | VU | VU | | | | | A | | | | | | | ○ |
| 236 | | | ゴマシオホシクサ | EN | EN | | | | | A | | | | | | | ○ |
| 237 | | イネ | ヒナザサ | NT | EN | | | | B | | | | | | | ○ | |
| 238 | | | ヌマカゼクサ | | EN | | | | C | | | | | | | ○ | |
| 239 | | | コゴメカゼクサ | | DD | | | | A | | | | | | | | ○ |
| 240 | | | ナルコビエ | | VU | | | | | | | | | | | | ○ |
| 241 | | | ウンヌケモドキ | NT | VU | | | CR | C | | | ○ | | | | | ○ |
| 242 | | | コウボウ | | EN | | | | C | | | | | | | | ○ |
| 243 | | | トウササクサ | | VU | | | | | | | | | | | | ○ |
| 244 | | | タチネズミガヤ | | VU | | | | | | | | | | | | ○ |
| 245 | | | ムカゴツヅリ | | VU | | | | | A | | | | | | | ○ |
| 246 | | | ウキシバ | | VU | | | VU | C | | | ○ | | | | | ○ |
| 247 | | | ヒゲシバ | | CR | | | | B | | | | | | | | ○ |
| 248 | | | ミズタカモジ | VU | CR | | | | A | | | | | | | | ○ |
| 249 | | | サトイモ | ユキモチソウ | VU | EN | | | EN | C | | | ○ | | | | ○ |
| 250 | | | ミクリ | ヤマトミクリ | NT | EN | | | EN | C | | | ○ | | | | ○ |
| 251 | | | | ナガエミクリ | NT | NT | | | | 準 | | | | | | | ○ |
| 252 | | ヒメミクリ | | VU | EN | | | | A | ○ | | | | | | | ○ |
| 253 | | ガマ | コガマ | | NT | | | | C | | | | | | | ○ | |
| 254 | | カヤツリグサ | イトテンツキ | NT | EN | | | | | | | | | | | ○ | |
| 255 | | | ヤマアゼスゲ | | VU | | | | | ○ | | | | | | | ○ |
| 256 | | | マメスゲ | | NT | | | | | C | ○ | | | | | | ○ |
| 257 | | | ヒメアオガヤツリ | | EN | | | | | | | | | | | | ○ |
| 258 | | | シロガヤツリ | | VU | | | | | A | | | | | | | ○ |
| 259 | | | セイタカハリイ | | EN | | | | | C | | | | | | | ○ |
| 260 | | | エゾハリイ | | NT | | | | | | | | | | | | ○ |
| 261 | | | マシカクイ | | EN | | | | | | | | | | | | ○ |
| 262 | サギスゲ | | | EN | | | EN | A | ○ | | ○ | | | | | ○ | |
| 263 | コアゼテンツキ | | | EN | | | | | B | | | | | | | ○ | |
| 264 | アゼテンツキ | | | VU | | | CR | A | | | ○ | | | | | ○ | |
| 265 | ミカツキグサ | | | VU | | | EN | C | | | ○ | | | | | ○ | |
| 266 | トラノハナヒゲ | | | VU | | | | | B | | | | | | | ○ | |
| 267 | オオイヌノハナヒゲ | | | CR | | | | | C | | | | | | | ○ | |
| 268 | マツカサススキ | | | VU | | | CR | C | ○ | | ○ | | | | | ○ | |
| 269 | シズイ | | | EN | | | CR | A | | | ○ | | | | | ○ | |
| 270 | タイワンヤマイ | | | VU | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 271 | カガシラ | | VU | EN | | | CR | A | | | ○ | | | | | ○ | |
| 272 | ミカワシンジュガヤ | | VU | VU | | | EN | B | | | ○ | | | | | ○ | |
| 273 | コシンジュガヤ | | | NT | | | | | C | ○ | | | | | | ○ | |
| 274 | ケシンジュガヤ | | | VU | | | | | A | ○ | | | | | | ○ | |
| 275 | コミヤマカンスゲ | | | VU | | | | | | | | | | | | ○ | |
| 276 | ツクシカンガレイ | | | CR | | | CR | | | | | ○ | | | | | |
| 277 | ハタベカンガレイ | | VU | EN | | | CR | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 278 | ツルミヤマカンスゲ | | VU | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 279 | ラン | ヒナラン | EN | EN | | | | B | | | | | | | ○ | | |
| 280 | | シラン | NT | NT | | | | | C | | | | | | | ○ | |
| 281 | | ムギラン | NT | NT | | | CR | | 準 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 282 | | エビネ | NT | NT | | | EN | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 283 | | ナツエビネ | VU | NT | | | EN | A | ○ | | ○ | | | | | | |
| 284 | | ギンラン | | VU | | | EN | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 285 | | キンラン | VU | VU | | | CR | C | | | | ○ | | | | ○ | |
| 286 | | サイハイラン | | | | | EN | | | | | ○ | | | | | |
| 287 | | シュンラン | | | | | NT | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 288 | | マヤラン | VU | EN | | | | | B | | | | | | | ○ | |
| 289 | | クマガイソウ | VU | EN | | | CR | C | | | | ○ | | | | ○ | |
| 290 | | セッコク | | NT | | | DD | C | | | | ○ | | | | ○ | |
| 291 | | カキラン | | NT | | | VU | | | ○ | | ○ | | | | ○ | |
| 292 | | ツチアケビ | | | | | VU | | | | | ○ | | | | | |
| 293 | | オニノヤガラ | | EN | | | EN | | 準 | | | ○ | | | | ○ | |
| 294 | | アキザキヤツシロラン | | VU | | | CR | | | | | ○ | | | | ○ | |
| 295 | | サギソウ | NT | VU | | | VU | C | ○ | | ○ | | | | | ○ | |

表 3.1.5-10(6) 維管束植物類の重要な種

| No. | 分類群名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 近畿 RDB2001 | 既存資料 | | | | | | | |
|-----|----------|-----|-----------|---------------|----------------|-----------|----------------|---------------|------|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | | |
| 296 | 種子植物 | ラン | ミズトンボ | VU | NT | | | C | | | | | | | ○ | |
| 297 | | | ムヨウラン | | | | | EN | | | | ○ | | | | |
| 298 | | | クロムヨウラン | | | VU | | | | | | | | | | ○ |
| 299 | | | コ克蘭 | | | | | | EN | | | ○ | | | | |
| 300 | | | フウラン | VU | VU | | | | CR | A | | | ○ | | | ○ |
| 301 | | | ヨウラクラン | | | VU | | | | A | ○ | | | ○ | | ○ |
| 302 | | | ウチョウラン | VU | VU | | | | CR | C | | | ○ | | | ○ |
| 303 | | | ガンゼキラン | VU | CR | | | | | B | | | | | | ○ |
| 304 | | | ジンバイソウ | | | | EN | | | | | | | | | ○ |
| 305 | | | ツレサギソウ | | | | EN | | | B | | | | | | ○ |
| 306 | | | ヤマサギソウ | | | | EN | | | A | | | | | | ○ |
| 307 | | | オオバノトンボソウ | | | | | | EN | | | | ○ | | | |
| 308 | | | コバノトンボソウ | | | | VU | | | C | | | | | | ○ |
| 309 | | | トキシソウ | | | NT | VU | | VU | C | | | ○ | ○ | | ○ |
| 310 | | | ヤマトキシソウ | | | | VU | | EN | C | | | ○ | | | ○ |
| 311 | | | マツラン | | | VU | EN | | | B | | | | | | ○ |
| 312 | | | カヤラン | | | | | | EN | | | | ○ | ○ | | |
| 313 | クモラン | | | | VU | | CR | | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 314 | ヒトツボクロ | | | | VU | | | 準 | | | | | | ○ | | |
| 315 | トンボソウ | | | | | NT | | EN | 準 | | | ○ | | ○ | | |
| 316 | クロヤツシロラン | | | | | NT | | | | | | | | ○ | | |
| — | 3群 | 90科 | 316種 | 94種 | 267種 | 2種 | 148種 | 191種 | — | — | — | — | — | — | — | |

注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応し、以下のとおりである。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注2) 種の分類、配列は原則として「植物目録」(平成6年、環境省)に準拠した。

近畿 RDB2001: 「改訂・近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック 2001—」(2001年、レッドデータブック近畿研究会)

絶: 絶滅、A: 絶滅危惧種 A、B: 絶滅危惧種 B、C: 絶滅危惧種 C、準: 準絶滅危惧種

注3) 「みえ生物誌」において伊賀市で確認されたと記されている種のうち、「三重県 RDB2015」にも掲載されている種は、準対象事業実施区域の位置するメッシュに分布することが確認されていない種についても、重要種として選定とした。

注4) 表中の「既存文献」列の「1」～「7」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(b) 蘚苔類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された蘚苔類の重要な種は、表 3.1.5-11 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 3 科 4 種の蘚苔類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-11 蘚苔類の重要な種

| No. | 綱和名 | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | |
|-----|-----|-------|-------|----------|---------------|----------------|----------------|------|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1 | 蘚綱 | ミズゴケ | ミズゴケ | オオミズゴケ | NT | VU | NT | ○ | | ○ | | |
| 2 | | キセルゴケ | キセルゴケ | クマノゴケ | NT | CR | | ○ | | | | |
| 3 | 苔綱 | ゼニゴケ | ウキゴケ | ウキゴケ | | VU | EN | ○ | | ○ | | |
| 4 | | | | イチョウウキゴケ | NT | NT | EN | ○ | | ○ | | |
| — | 2 綱 | 3 目 | 3 科 | 4 種 | 3 種 | 4 種 | 3 種 | — | — | — | — | — |

注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注2) 種の分類、配列は原則として「日本のレッドデータ検索システム」(NPO 法人 野生生物調査協会、NPO 法人 Envision 環境保全事務所) 2023 年 10 月 5 日閲覧に準拠した。

注3) 表中の「既存文献」列の「1」～「5」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(c) 菌類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された菌類の重要な種は、表 3.1.5-12 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 4 科 4 種の菌類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-12 菌類の重要な種

| No. | 綱和名 | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 三重県 RDB2015 | 既存資料 | | | | |
|-----|--------|------|-------|-----------------|----------------|------|---|---|---|--|
| | | | | | | 1 | 2 | 3 | 5 | |
| 1 | 真正担子菌綱 | ハラタケ | シメジ | ホンシメジ (ダイコクシメジ) | CR | | | ○ | | |
| 2 | | | ツキヨタケ | ツキヨタケ | EN | | | ○ | | |
| 3 | | | イグチ | オウギタケ | オウギタケ (アカタケ) | VU | | | ○ | |
| 4 | | | | ヌメリイグチ | アマタケ (スドオシ) | NT | | | ○ | |
| — | 1 綱 | 2 目 | 4 科 | 4 種 | 4 種 | — | — | — | — | |

注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注2) 種の分類、配列は、原則として「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(平成 27 年、三重県) に準拠した。

注3) 表中の「既存文献」列の「1」～「5」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

(d) 植生

準対象事業実施区域及びその周囲の現存植生図は図 3.1.5-1(1) に、林相区分図は図 3.1.5-1(2) に示すとおりである。また、準対象事業実施区域及びその周囲の空中写真は図 3.1.5-2 に示すとおりである。

準対象事業実施区域は宅地造成後に長年放置された場所である。

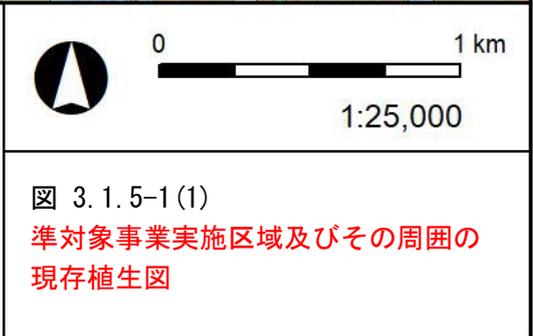
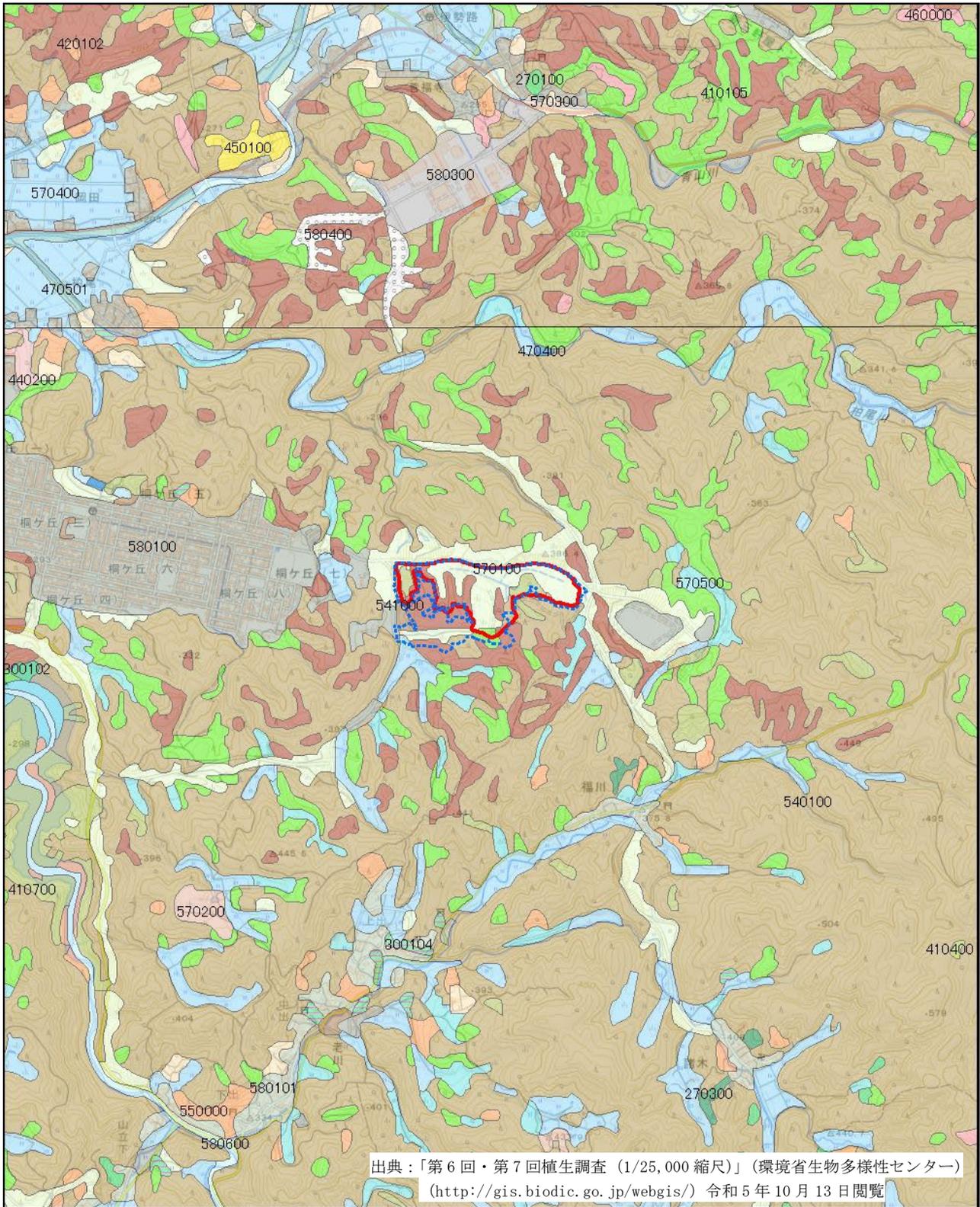
「第 6 回・第 7 回植生調査 (1/25,000 縮尺)」の現存植生図 (2011 年に作成) (図 3.1.5-1) によると、準対象事業実施区域の植生は、中央部から東側に路傍・空地雑草群落が見られ、西側に

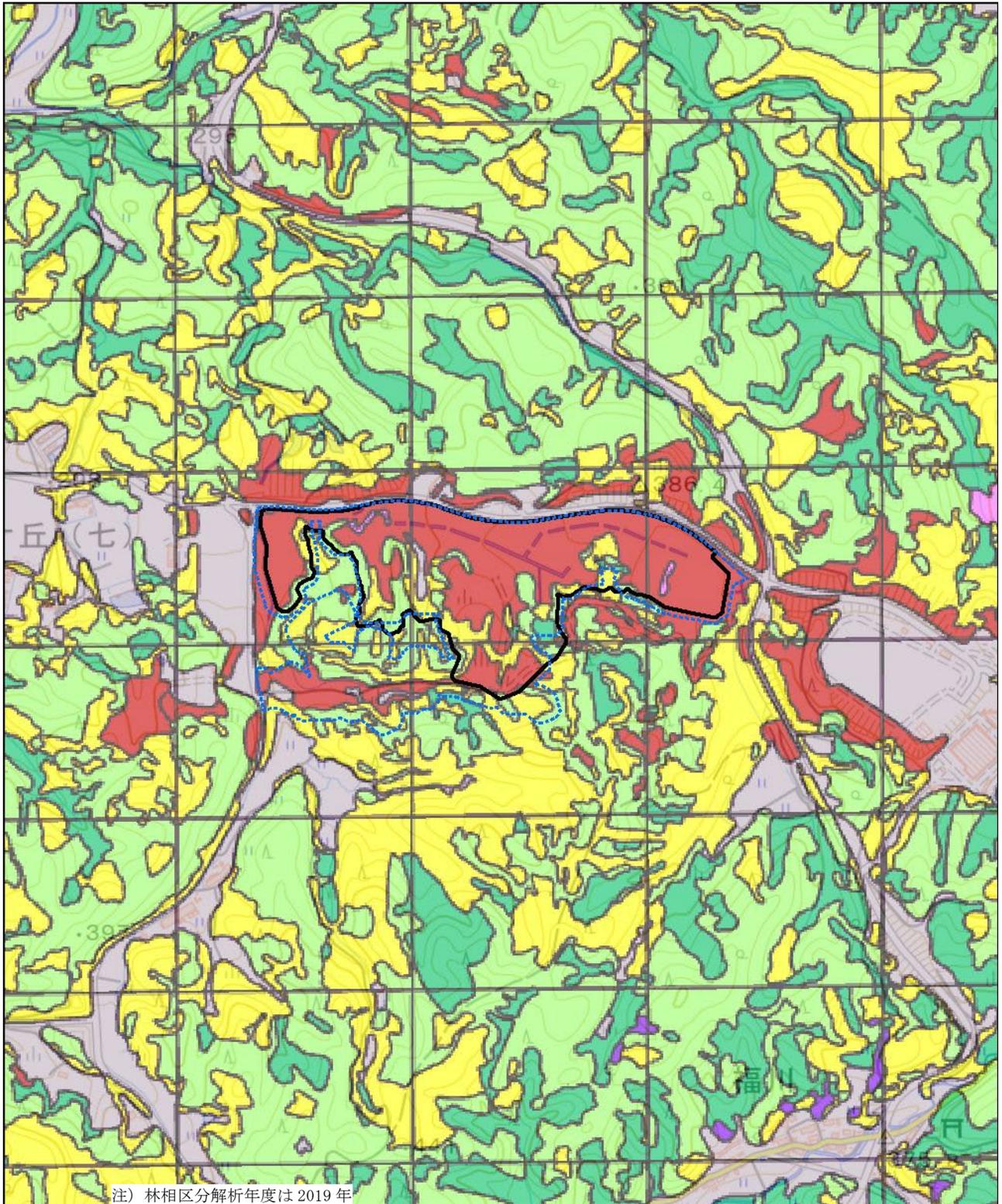
はアカメガシワーカラスザンショウ群落、モチツツジーアカマツ群集、その他植林、東側にはアカメガシワーカラスザンショウ群落、モチツツジーアカマツ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林が見られた。一方、「Mie Click Maps for 三重県森林ページ」の林相区分図（2019年に林相区分解析）（図 3.1.5-1(2)）によると、準対象事業実施区域の植生は、中央部及び西側、東側にマツ類、西側にはスギ、ヒノキ類と広葉樹の混交林、東側にスギ、ヒノキ類などの植林が見られ、準対象事業実施区域の中央部から東側に分布していた路傍・空地雑草群落は、マツ類に遷移したことを確認した。

準対象事業実施区域及びその周囲の空中写真を比較すると、2011年（図 3.1.5-2(1)）の空中写真では準対象事業実施区域の北側及び東側に造成の後に生育した草地が見られるが、2020年（図 3.1.5-2(2)）の空中写真では、草地が樹林に遷移したことを確認した。

準対象事業実施区域及びその周囲の特定植物群落の位置は、図 3.1.5-3 に示すとおりである。

準対象事業実施区域の北東方向には奥山愛宕神社ブナ林や青山高原ツツジ群落が存在している。





注) 林相区分解析年度は2019年

出典: 「Mie Click Maps for 三重県森林ページ」 (<https://mcm-map-pref-mie.hub.arcgis.com/>) 令和5年11月7日閲覧

凡例

□: 準対象事業実施区域内にある植生

□: 準対象事業実施区域(変更前)

□: 準対象事業実施区域(変更後)

■ スギ

■ ヒノキ類

■ マツ類

■ その他針葉樹

■ 広葉樹

■ タケ

■ 針広混交林

■ 新植地

■ 伐採跡地

■ その他



0 400 m



1:10,000

図 3.1.5-1 (2)

準対象事業実施区域及びその周囲の
林相区分図



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)

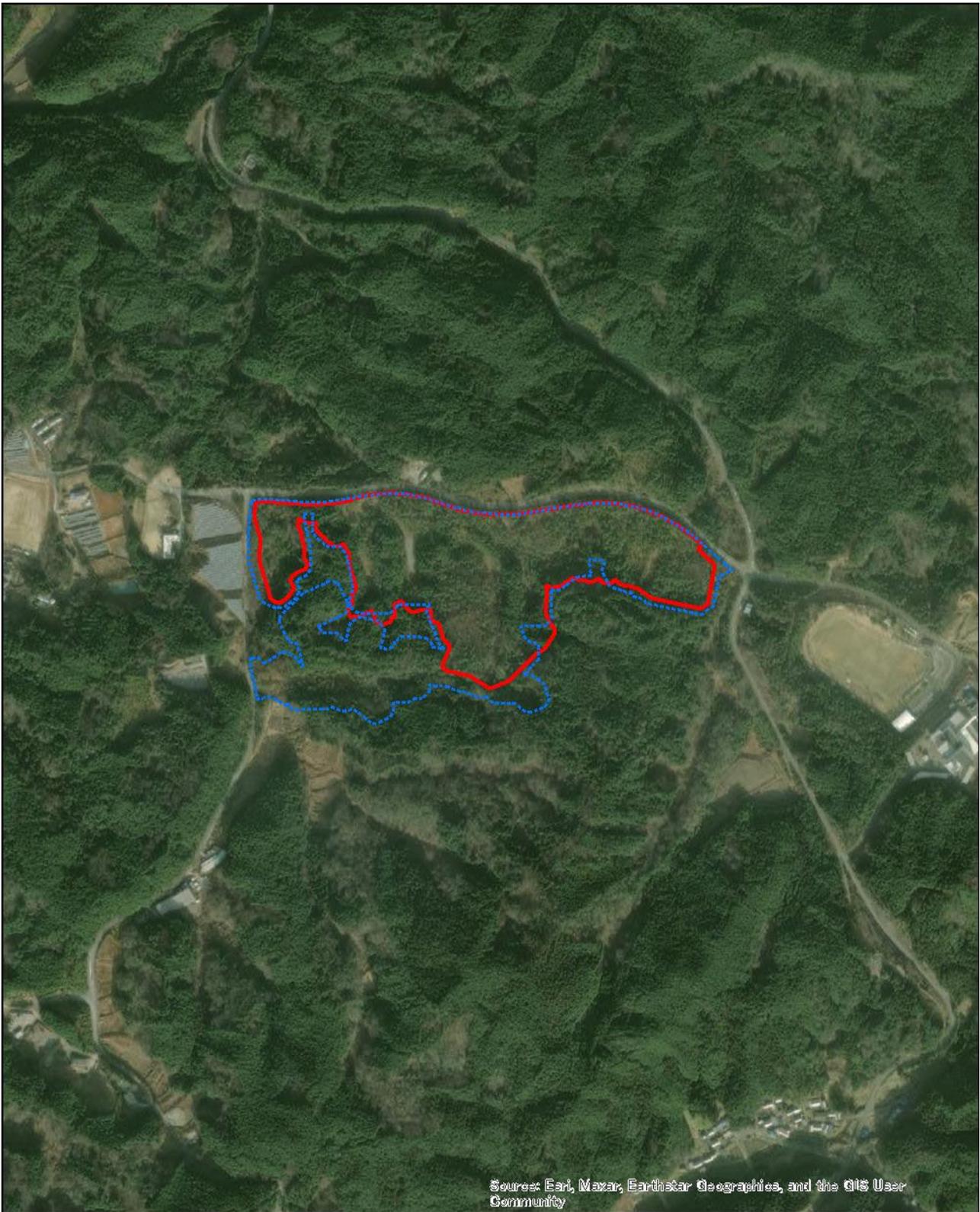


0 400 m

1:10,000

出典：「地理院地図（電子国土Web）年度別空中写真（2007年以降）」
 （2011年10月撮影）
 （国土地理院HP <https://maps.gsi.go.jp>）令和6年3月11日閲覧

図 3.1.5-2(1)
 準対象事業実施区域及びその周囲の
 空中写真（2011年）



Source: Esri, Maxar, Earthstar Geographics, and the GIS User Community

凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)

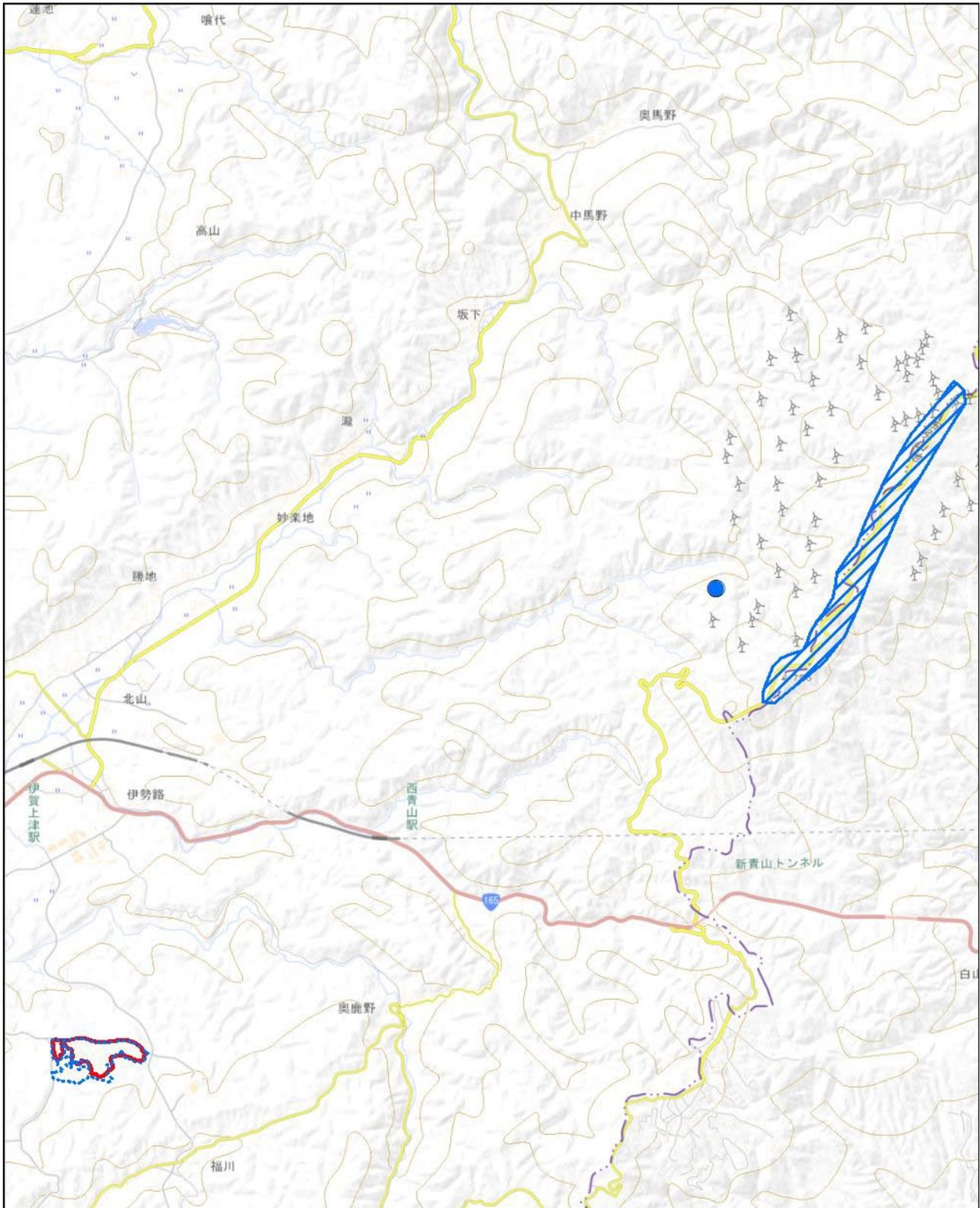


0 400 m

1:10,000

出典：「地理院地図（電子国土Web）年度別空中写真（2007年以降）」
 （2020年8月～10月撮影）
 （国土地理院HP <https://maps.gsi.go.jp>） 令和6年3月11日閲覧

図 3.1.5-2(2)
 準対象事業実施区域及びその周囲の
 空中写真（2020年）



凡例

 準対象事業実施区域(変更前)

 準対象事業実施区域(変更後)

 特定植物群落 地点

 特定植物群落保護地域
出典: 『特定植物群落保護基礎調査植生調査報告書』(環境省生物多様性センター) (<http://www.biodic.go.jp/copyright/index.html>)
 令和5年10月13日閲覧



0 2 km

1:50,000

図 3.1.5-3

準対象事業実施区域及びその周囲の
 特定植物群落

(3) 水生生物

(a) 淡水魚類

準対象事業実施区域及びその周囲において、既存文献により確認された淡水魚類の重要な種は、表 3.1.5-13 に示すとおりである。

文献調査では、準対象事業実施区域及びその周囲において 7 科 14 種の淡水魚類の重要な種が確認された。

表 3.1.5-13 淡水魚類の重要な種

| No. | 目と名 | 科と名 | 種と名 | 環境省 RL2020 | 三重県 RDB2015 | 三重県 条例 | 伊賀市 RDB2006 | 既存資料 | | | | |
|-----|------------|--------|-----------------------|---------------|----------------|-----------|----------------|------|----|---|---|---|
| | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1 | ヤツメ ウナギ | ヤツメウナギ | スナヤツメ | VU | VU | | VU | ○ | | ○ | ○ | |
| 2 | コイ | コイ | アブラボテ | NT | EN | | EN | | | ○ | | |
| 3 | | | イチモンジタナゴ | CR | CR | | DD | | | ○ | ○ | |
| 4 | | | ニッポンバラタナゴ | CR | | | CR | | | ○ | | |
| 5 | | | カワバタモロコ | EN | CR | 希少 | EN | | ○ | ○ | | |
| 6 | | | ズナガニゴイ | | | EN | | DD | ○ | | ○ | ○ |
| 7 | | | イトモロコ | | | VU | | DD | ○ | | ○ | ○ |
| 8 | | | ドジョウ | ドジョウ | ドジョウ | NT | | | NT | | | ○ |
| 9 | アジメドジョウ | VU | | | EN | | CR | | | ○ | ○ | |
| 10 | ホトケドジョウ | EN | | | VU | | CR | ○ | | ○ | | |
| 11 | ナマズ | アカザ | アカザ | VU | VU | | VU | ○ | | ○ | ○ | |
| 12 | サケ | サケ | サツキマス (アマゴ) | NT | | | EW | | | ○ | | |
| 13 | ダツ | メダカ | ミナミメダカ ^{注4)} | VU | NT | | VU | ○ | | ○ | | |
| 14 | スズキ | カジカ | カジカ | NT | VU | | VU | | | ○ | | |
| — | 6 目 | 7 科 | 14 種 | 12 種 | 11 種 | 1 種 | 14 種 | — | — | — | — | — |

注1) 選定基準は表 3.1.5-2 に対応する。なお、該当する種がない選定基準は表中から省略した。

注2) 種の分類、配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省) 2023年9月14日閲覧に準拠した。

注3) 表中の「既存文献」列の「1」～「5」は、表 3.1.5-1 の文献番号に対応している。また、表中の「○」は、伊賀市において生息が確認されたことを示す。

注4) 日本産の「メダカ」には「キタノメダカ」と「ミナミメダカ」の2種類が存在する。各種の分布状況から、「伊賀市 RDB2006」において「メダカ」と記載されていた種は「ミナミメダカ」に集約した。

(4) 生態系

準対象事業実施区域は丘陵斜面であり、準対象事業実施区域の中央部及び西側、東側にマツ類が見られ、西側にはスギ、ヒノキ類と広葉樹の混交林、東側にスギ、ヒノキ類などの植林が見られる地域となっている。

雑草地には草地に生息するバッタ類、チョウ類などの昆虫類が生息し、それらを捕食する肉食性の昆虫も生息していると考えられる。

小型哺乳類はニホンリス、ネズミ類等が生息し、アカマツなどの実は餌として利用されていると考えられる。

鳥類はコゲラ、シジュウカラ、ヤマガラなど樹林性の小鳥類が生息し、樹林性の昆虫類や木の実などが餌として利用されていると考えられる。生態系の上位種としては伊賀市にはサシバ等の猛禽類の記録があり、カエル類、ヘビ類、小鳥類が餌として利用されていると考えられる(図 3.1.5-4 参照)。

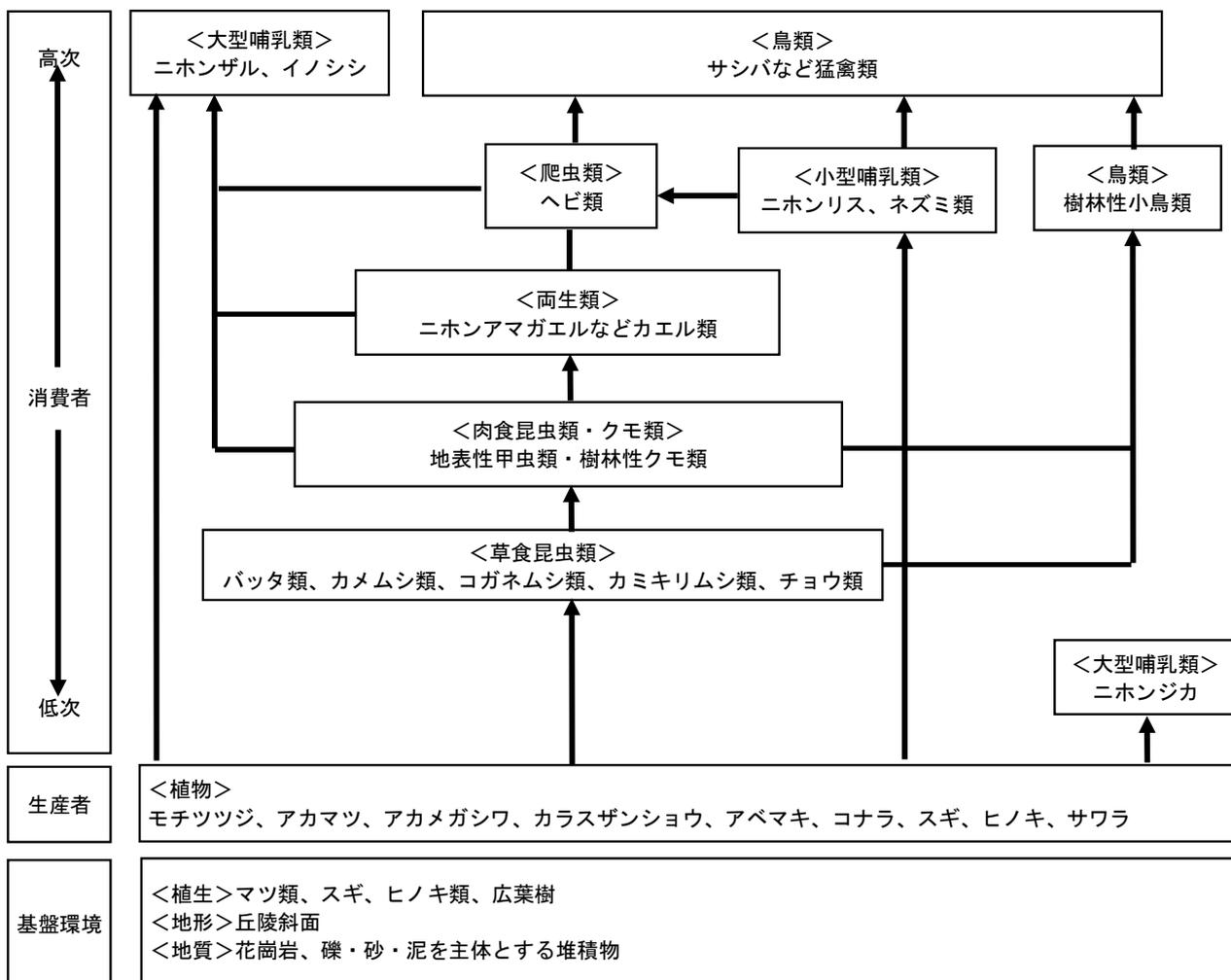


図 3.1.5-4 準対象事業実施区域で想定される食物連鎖

3.1.6 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

準対象事業実施区域及びその周囲における主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況は、表 3.1.6-1 及び図 3.1.6-1 に示すとおりである。

準対象事業実施区域及びその周囲には、「青山グラウンド」、「桜山公園」、「青山ハーモニーフォレスト」等が分布している。

なお、準対象事業実施区域内には、主要な人と自然との触れ合いの活動の場は存在しない。

表 3.1.6-1(1) 準対象事業実施区域及びその周囲の主要な人と自然との触れ合いの活動の場

| 名称 | 概況 | 出典 |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 青山グラウンド | グラウンドには 400mトラックが 6 コース、野球場、サッカーコート、ラグビーコート、ソフトボールコートが整備されている。 | 4 |
| 伊賀上野城 | 藤堂高虎により築城され、現在は当時の内堀と石垣、昭和 10 年に建てられた天守閣が残っており、三層からなる天守閣には武具・甲冑や藤堂家の遺品、横山大観をはじめ名士の色紙 46 点の天井絵がある。外観の白い三層の美しい城郭から「白鳳城」とも呼ばれている。高さ約 30m と日本有数の高さを誇る内堀の石垣は映画のロケ地としても使用されている。 | 1, 2, 3 |
| 伊賀上野の城下町 | 藤堂高虎の築城以来、伊賀上野藩の城下町として栄え、碁盤状に区画された町並みは、「伊賀の小京都」と称されている。天正伊賀の乱による徹底的な破壊により、それ以前の建物は少ないものの、市街地は戦災を免れたため歴史的建物が多数残っており、また藤堂高虎が茶の湯に通じていたこともあって、町には古くからの和菓子屋が軒を連ねている。 | 1 |
| 小六坂 | 小六坂と呼ばれる細い道の両側に竹林があり、静かな道でサラサラと葉が揺れる音を感じられる。上野公園を出て、旧小田小学校本館から伊賀越資料館(※現在休館中)のある鍵屋の辻に至る道の途中にある。 | 1, 2 |
| 上野公園 | 上野丘陵には平清盛が建立したと伝えられる平楽寺があった。平楽寺は大きな寺院でその土地の守護神として天神宮、九社権現が祀られ信仰を集めたが、天正 9 年の織田信長による伊賀攻めにより焼失した。その跡に筒井定次、藤堂高虎により伊賀上野城が築城された。現在のお城の東側には筒井定次の城跡がある。現在のお城は藤堂高虎が築城し台風で倒壊した天守閣跡に川崎克氏が私財を投じて昭和 10 年に建てられた木造復興天守である。伊賀上野の中心的存在の上野公園は緑豊かで四季折々の景観が楽しめる。 | 1 |
| ふるさと芭蕉の森公園 | 遊具公園にある展望スポットからは伊賀上野城や城下町などを一望でき、園内の小道をたどると四季を彩る樹木や草花、そして芭蕉翁句碑めぐりもできる。「俳句の庭」のもみじは初夏の青もみじから晩秋の紅葉まで楽しめる。 | 1 |
| 上野森林公園 | 名阪友生 IC より 5 分にある憩いの公園で、陽だまりの丘の芝生や桜、サギソウ園、カブトムシの森、どんぐりの森、池で越冬する野鳥など自然を感じられる。ハンモックやザリガニ釣りの道具などの貸出もあり、園内をめぐる遊歩道は整備されていて自然を感じながらウォーキングできる。 | 1 |
| 白藤滝 | 「白藤滝」「二位の滝」「三寶の滝」と約 500m 間隔で滝山溪谷の景勝地が続いている。さらに進むと田代池がある。白藤滝は落差 15m を誇り、その昔、定次という武勇者が約二丈(6.6m)もある大トカゲを討ったという伝説があり、近くには不動明王が祀られ、夏には涼を、秋には紅葉を求める人で賑わう。毎年 11 月 3 日には滝山溪谷もみじまつりが行われている。 | 1, 2 |
| かえで溪谷 | さるびの温泉より加太へと子延川をさかのぼった所、旧県道の残った部分の橋のそばに樹齡 400 年と云われている楓の老木が、巨岩の上に根を張っている様はめずらしく、新緑や紅葉の頃は見事な景観である。 | 1 |
| 真泥池 | 周囲 3 km の真泥池は、秋～冬にかけて、カモなどの水鳥がたくさん飛来し、バードウォッチングの名所となっている。 | 1 |
| メナード青山リゾート ハーブガーデン | メナード青山リゾート内の高原の丘陵にゆったりと広がる雄大なハーブガーデンである。その広さは 8ha にも及び、年間で約 300 種類を超えるハーブが彩りと香りを競い合っている。 | 1 |
| 尼ヶ岳(伊賀富士) | 南青山と言われる伊賀市青山の南端、伊勢美杉村との境界にまたがる標高 957.7m の雄峰で、首ヶ岳、大山ヶ岳とも呼ばれている。山の形が富士山に似ているので、古くから「伊賀富士」とも呼ばれており、この山頂を東海自然歩道が横ぎっている。 | 2 |
| 三本松の池 | 旧島ヶ原村と旧上野市との境界にあり、池のそばにある祠と鳥居の朱が水面に映える風景も美しい。大和街道沿いにもなっていて、近くには大神宮燈籠跡、お茶屋跡などがあり、昔は街道筋だったことがわかる。休日には多くの釣り人が訪れ賑わっている。 | 1 |
| 黒淵の滝 | 青山の高尾にある隠れた紅葉の名所である。明治までは観音滝と言われ近くにある観音寺の行の場として使われていたそうである。もともと 6m 近くあったが年月により削られ低くなってきているそうである。近くにある橋からの紅葉越しの清流の眺めはおすすめである。 | 1 |
| 種生神社 | 毎年、10 月最終週の土・日曜日に行われる秋祭「こたつき渡御」が有名な種生神社の樹齡約 300 年といわれるイチヨウの木は見事である。 | 1 |
| 東海自然歩道 | “生活の中に自然をとりもどそう”という趣旨で昭和 44 年 1 月に設定された長距離自然歩道である。新大仏寺から曾爾高原までのコースは、伊勢湾と大阪湾の分水嶺を歩くことができる。奥山愛宕神社の霊域とブナの原生林をぬけて青山高原を通り、青山峠を横ぎって南青山の尼ヶ岳へと向かっている。 | 1 |
| ほたるのふる里 | 国見地区の国見山一帯は天正伊賀の乱で決戦場となり、多くの伊賀者がふるさとを守るため散っていった。夏になると先人の霊を癒すように、蛍の乱舞が美しい地域となっている。 | 1 |

表 3.1.6-1(2) 準対象事業実施区域及びその周囲の主要な人と自然との触れ合いの活動の場

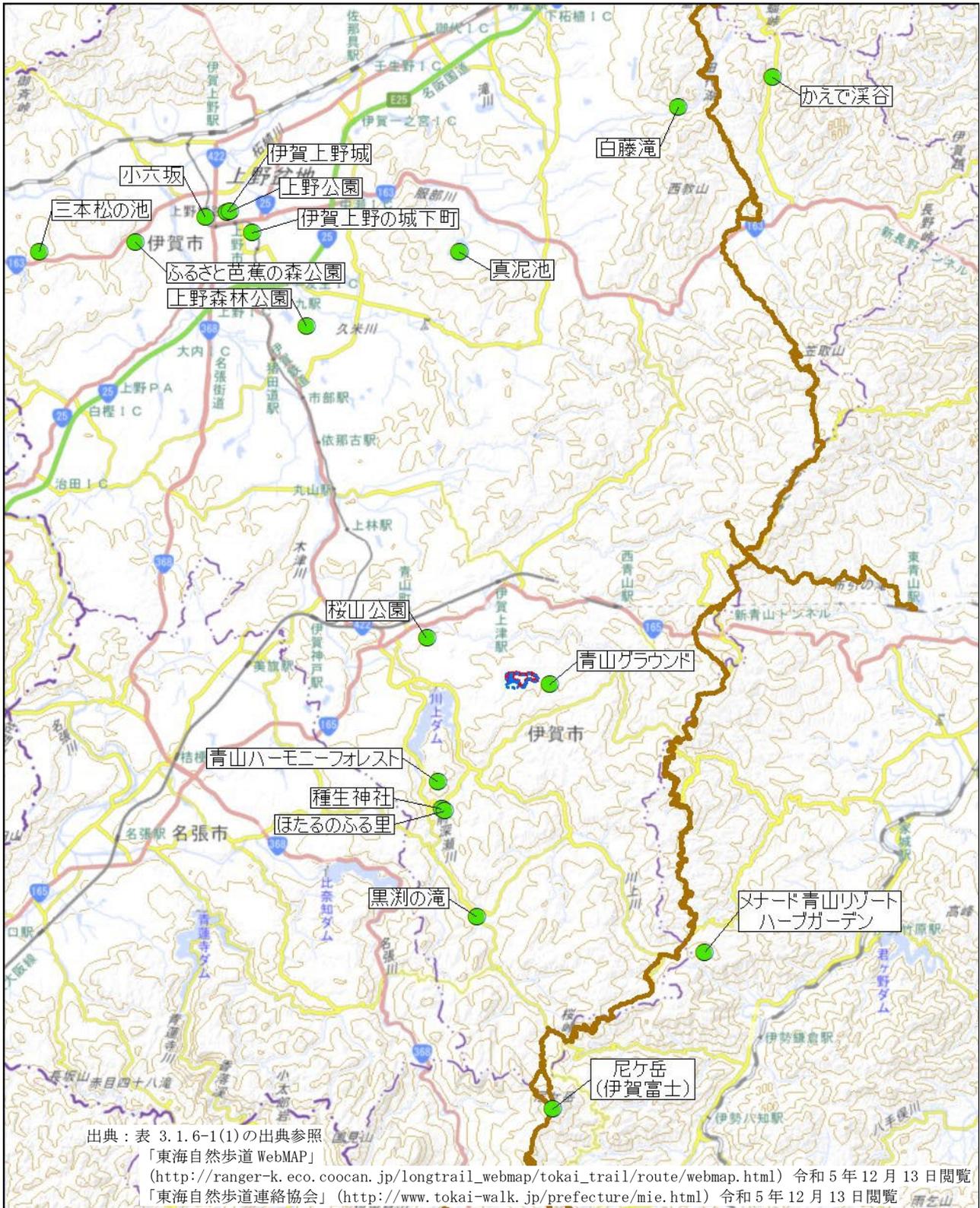
| 名称 | 概況 | 出典 |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 桜山公園 | 町を見渡す公園には約 200 本の桜が植えられ、春には見事な情景を生みだす。大正天皇ご即位の際の記念植樹杯碑が阿保字西の澤の川上ダム建設予定地にあったため、平成 20 年 6 月にこの地に移設された。 | 1 |
| 青山ハーモニーフォレスト | 森林に囲まれたステージでさまざまな体験学習ができたり、パークゴルフや森林散策などができる。パークビュー場もある。受付で川上ダムのダムカードを配布している。 | 1 |

出典 1: 「伊賀ぶらり旅」(三重県伊賀市の公式観光サイト HP <https://igakanko.net/>) 令和 5 年 10 月 2 日閲覧

2: 「観光三重」(公益社団法人 三重県観光連盟 HP <https://www.kankomie.or.jp/spot>) 令和 5 年 10 月 2 日閲覧

3: 「伊賀市景観計画」(伊賀市 HP <https://www.city.iga.lg.jp/0000001175.html>) 令和 5 年 10 月 3 日閲覧

4: 「青山のスポーツ施設」(伊賀市 HP <https://www.city.iga.lg.jp/0000003409.html>) 令和 5 年 12 月 7 日閲覧



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 人と自然との触れ合い活動の場
- 東海自然歩道



0 6 km

1:150,000

図 3.1.6-1

人と自然との触れ合いの活動の場

3.1.7 景観の状況

準対象事業実施区域及びその周囲の景観資源は、表 3.1.7-1 及び図 3.1.7-1 に示すとおりである。

準対象事業実施区域及びその周囲の自然景観資源として、非火山性高原の「青山高原」、非火山性孤峰の「尼ヶ岳」、節理の「天狗柱岩」、峡谷・溪谷の「馬野溪谷」、河川断崖・岩壁の「屏風岩」、滝の「二位の滝」等が分布している。

準対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点の状況は、表 3.1.7-2 及び図 3.1.7-2 に示すとおりであり、「尼ヶ岳」、「青山高原（三角点）」、「三国越林道」、「霊山」がある。

表 3.1.7-1 準対象事業実施区域及びその周囲の景観資源

| No. | 自然景観資源名 | 名称 |
|-----|---------|-------|
| 1 | 非火山性高原 | 青山高原 |
| 2 | | 布引高原 |
| 3 | | 池の平高原 |
| 4 | 非火山性孤峰 | 尼ヶ岳 |
| 5 | | 火洞山 |
| 6 | | 俱留尊山 |
| 7 | | 国見山 |
| 8 | 節理 | 天狗柱岩 |
| 9 | 峡谷・溪谷 | 馬野溪谷 |
| 10 | | 谷峪川溪谷 |
| 11 | | 瀬戸ヶ淵 |
| 12 | | 家城ライン |
| 13 | | 中ノ瀬峡 |
| 14 | | 岩倉峡谷 |
| 15 | | 大滝峡谷 |
| 16 | | 香落溪 |
| 17 | | 赤目峡谷 |
| 18 | 河川断崖・岩壁 | 屏風岩 |
| 19 | | 鹿落岩 |
| 20 | 滝 | 二位の滝 |
| 21 | | 三宝の滝 |
| 22 | | 白藤の滝 |
| 23 | | 大滝 |
| 24 | | 布引の滝 |
| 25 | | 巖窟滝 |
| 26 | | 琵琶滝 |
| 27 | | 荷担滝 |
| 28 | | 柿窪滝 |
| 29 | | 陰陽滝 |
| 30 | | 雨降滝 |
| 31 | | 布曳滝 |
| 32 | | 千手滝 |
| 33 | | 大日滝 |
| 34 | | 不動滝 |
| 35 | | 銚子滝 |
| 36 | 霊蛇滝 | |

注1) 表中の「No.」は図 3.1.7-2 の番号に対応する。

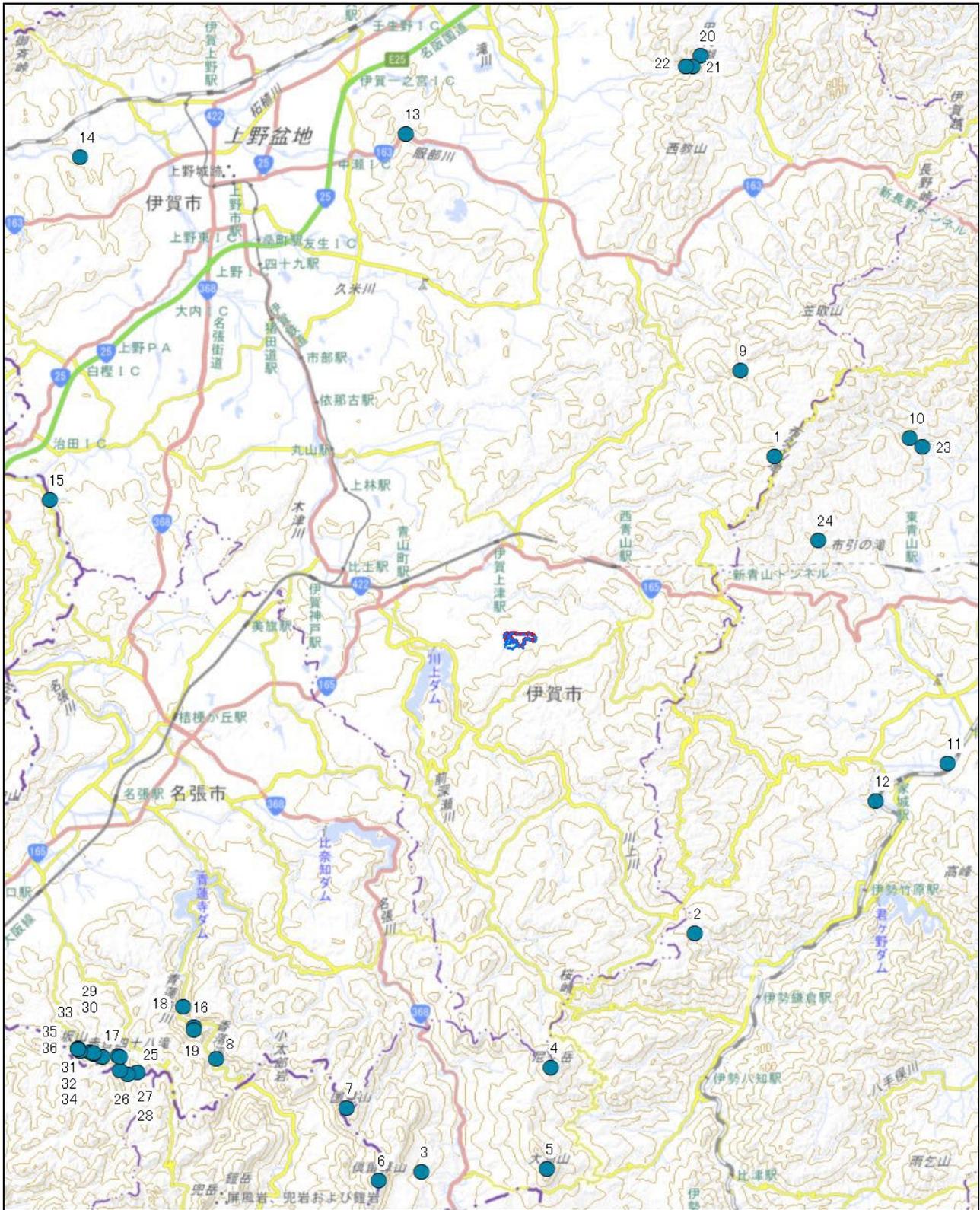
出典：「第3回自然環境保全基礎調査 三重県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）

表 3.1.7-2 準対象事業実施区域及びその周囲の主要な眺望点

| No. | 名称 | 概況 | 場所 |
|-----|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1 | 尼ヶ岳 | 南青山と言われる伊賀市の南端、伊勢美杉村との境界にまたがる標高957.7mの雄峰で、首ヶ岳や大山ヶ岳、また山の形が富士山に似ているので、古くから“伊賀富士”とも呼ばれている。麓から山頂までの間には5カ所の小さい平地があり、篠広・明星広などの名がついている。高山植物の種類も多く、化石も採集されている。 | 高尾 |
| 2 | 青山高原（三角点） | 三角点の標高は756mで、見晴台からは伊勢湾や知多半島まで、遮るものない景色が見渡せる。周辺は東海自然歩道やハイキングコースが整備されている。春はツツジ、秋にはススキが見られる。 | 勝地 |
| 3 | 三国越林道 | 伊賀市内から京都府までの広域基幹林道で、途中で分岐して滋賀県にも通じ、三府県を結んでいるところから命名されたそうである。春には桜、秋には紅葉の名所となっており、眼下には伊賀盆地が、遠くは奈良生駒の山々が見渡せる。サイクリストに人気のコースである。 | 島ヶ原 奥村区 |
| 4 | 霊山 | この山の中腹には霊山寺があり、登山道のスタート地点となっている。寺の周辺には石仏が並び、県の天然記念物に指定されたオハツキイチョウを見ることができる。また山頂付近には常緑広葉樹林のアセビ、イヌツゲの群生地があり、初夏には花を楽しむことができる。また山岳寺院跡の山頂遺跡は日本遺産忍びの里伊賀甲賀の構成文化財として登録されている。 | 下柘植 |

注1) 表中の「No.」は図 3.1.7-2 の番号に対応する。

出典：「伊賀ぶらり旅」（三重県伊賀市の公式観光サイト HP <https://igakanko.net/>）令和5年10月2日閲覧



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 事業実施区域周辺の景観資源

注1) 図中の番号は表 3.1.7-1 の「No.」に対応する。

出典：「国土数値情報 自然景観資源」

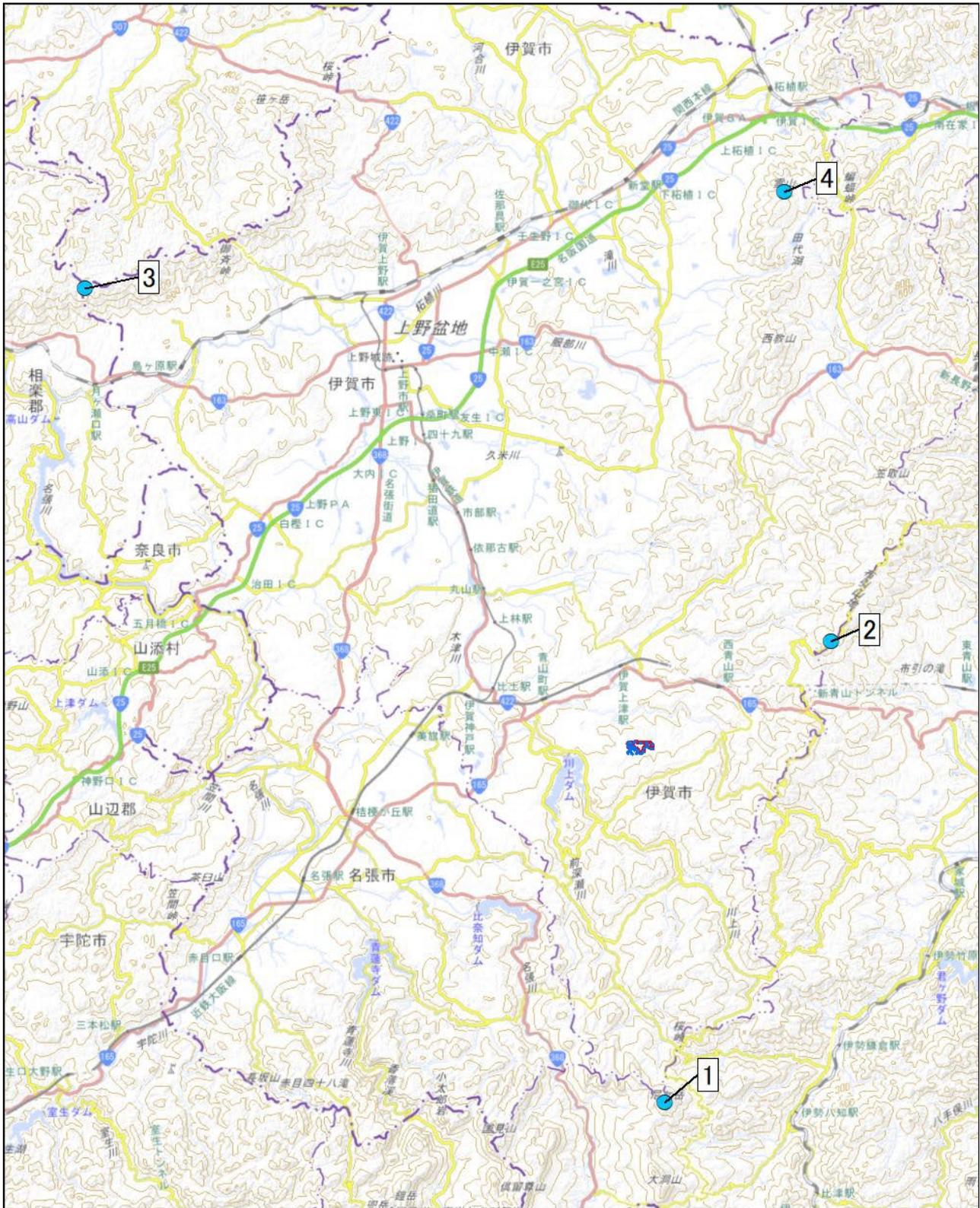
(<https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/>) 令和5年10月18日閲覧



0 6 km

1:150,000

図 3.1.7-1 景観資源



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)

● 主要な眺望点

注1) 図中の番号は表 3.1.7-2の「No.」に対応する。

出典：「伊賀ぶらり旅」

(三重県伊賀市の公式観光サイトHP <https://igakanko.net/>)

令和5年10月2日閲覧



0 7 km

1:180,000

図 3.1.7-2 主要な眺望点

3.1.8 歴史的文化的な遺産の状況

準対象事業実施区域及びその周囲における指定文化財（民族文化財・無形文化財を除く）の分布状況は表 3.1.8-1 及び図 3.1.8-1 に示すとおりである。

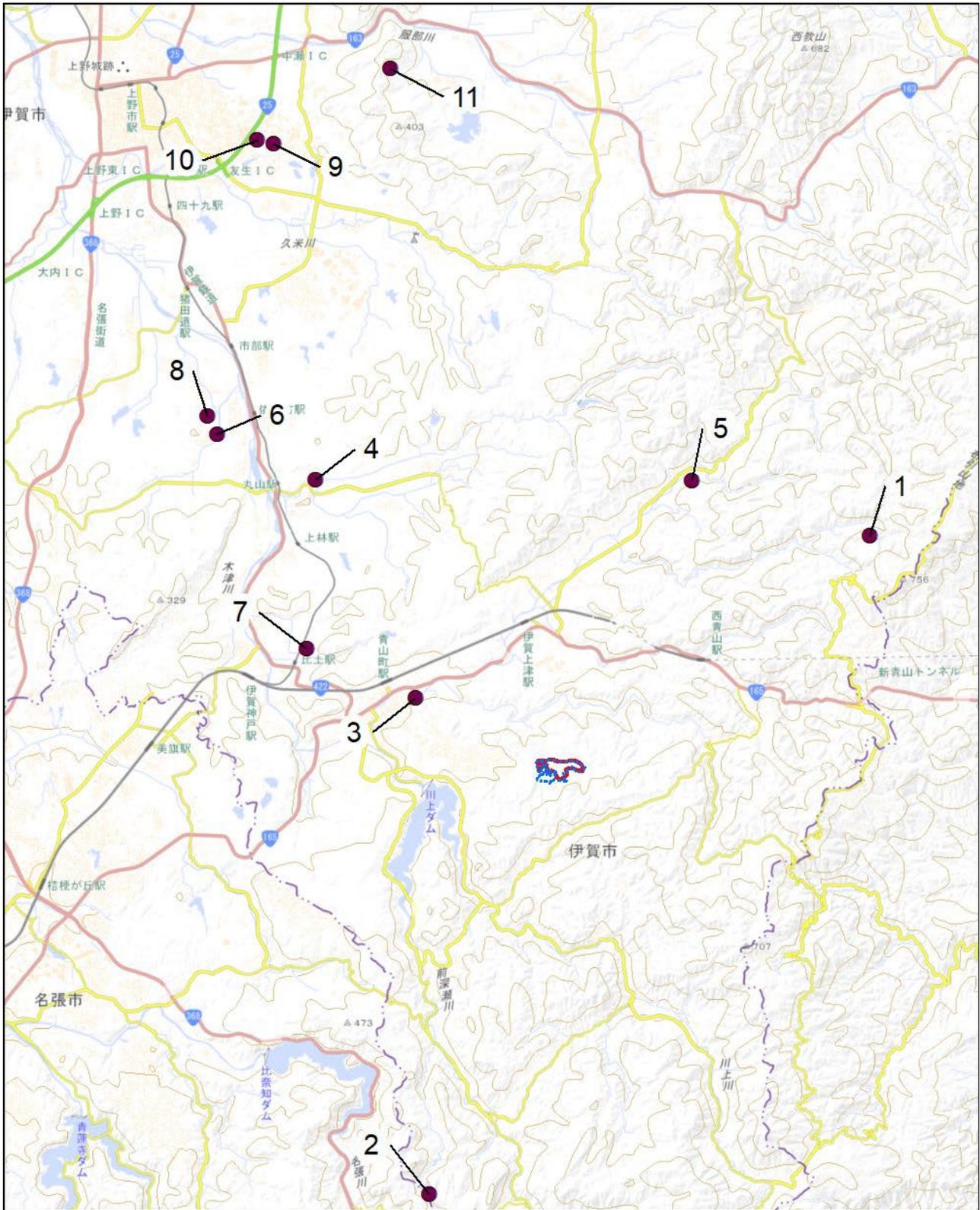
準対象事業実施区域及びその周囲には、県指定の天然記念物として「奥山愛宕神社のブナ原生林」、「逆柳の甌穴」が存在する。また、地域を定めない国指定の天然記念物として「イヌワシ」、特別天然記念物として「オオサンショウウオ」がある。さらに、準対象事業実施区域及びその周囲における指定文化財には、「大村神社宝殿」（建造物）、「城之越遺跡」（名勝史跡）、「長楽山廃寺跡」（史跡）等がある。

表 3.1.8-1 準対象事業実施区域及びその周囲における指定文化財

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定年月日 | |
|-----|----|---------|--------------|---------|------------|
| - | 国 | 天然記念物 | イヌワシ | 地域を定めない | 1965/05/12 |
| - | 国 | 特別天然記念物 | オオサンショウウオ | 地域を定めない | 1951/06/09 |
| 1 | 県 | 天然記念物 | 奥山愛宕神社のブナ原生林 | 勝地 | 1973/03/31 |
| 2 | 県 | 天然記念物 | 逆柳の甌穴 | 高尾 | 2013/03/25 |
| 3 | 国 | 建造物 | 大村神社宝殿 | 阿保 | 1920/04/15 |
| 4 | 国 | 建造物 | 町井家住宅 | 杵川 | 1975/06/23 |
| 5 | 県 | 建造物 | 石造九重塔 | 滝 | 1958/06/09 |
| 6 | 県 | 建造物 | 猪田神社 | 下郡 | 1962/02/14 |
| 7 | 国 | 名勝史跡 | 城之越遺跡 | 比土 | 1993/10/27 |
| 8 | 県 | 史跡 | 猪田神社古墳 | 猪田 | 1941/07/30 |
| 9 | 国 | 史跡 | 長楽山廃寺跡 | 西明寺 | 1923/03/07 |
| 10 | 国 | 史跡 | 伊賀国分寺跡 | 西明寺 | 1923/03/07 |
| 11 | 県 | 史跡 | 車塚 | 荒木 | 1937/09/24 |

注) 表中の「No.」は図 3.1.8-1 の番号に対応する。

出典：「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP <https://kunishitei.bunka.go.jp/bssys/index>）令和 5 年 10 月 4 日閲覧



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)

● 指定文化財

注1) 図中の番号は表 3.1.8-1 の「No.」に対応する。

出典：「国指定文化財等データベース」

(文化庁 HP <https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>)

令和5年10月4日閲覧



0 4 km



1:100,000

図 3.1.8-1 指定文化財位置

3.1.9 温室効果ガスの状況

三重県における温室効果ガスの状況は表 3.1.9-1 に示すとおりである。

三重県内における二酸化炭素排出量の小計は、22,211 千 t-CO₂、温室効果ガス排出量の合計（吸収量を含む）は、22,819 千 t-CO₂であった。

表 3.1.9-1 温室効果ガス排出量（2022 年度(令和 4 年度)）

(単位：千 t-CO₂)

| 温室効果ガス | | 三重県域の温室効果ガス排出量 |
|-------------|-----------|----------------|
| 二酸化炭素 | 産業部門 | 12,379 |
| | 業務その他部門 | 2,259 |
| | 家庭部門 | 2,229 |
| | 運輸部門 | 3,240 |
| | エネルギー転換部門 | 361 |
| | 工業プロセス分野 | 1,082 |
| | 廃棄物分野 | 661 |
| | 小計 | 22,211 |
| メタン | | 327 |
| 一酸化二窒素 | | 336 |
| 代替フロン等 4 ガス | | 684 |
| 合計 | | 23,559 |
| 吸収源活動による吸収量 | | -739 |
| 合計（吸収量含む） | | 22,819 |

注) 数値は四捨五入しているため、合計値等に一致しない場合がある。

出典：「2022 年度(令和 4 年度)の三重県域温室効果ガス排出量について」

(<https://www.pref.mie.lg.jp/eco/ondanka/44695006501.htm>)

令和 7 年 4 月 10 日